

国土交通政策研究 第173号

ポストコロナにおける移動ニーズに対応した
ビジネスジェット等の活用に関する調査研究
(中間報告)

2024年1月

国土交通省 国土交通政策研究所

研究官 織田 直人

前研究官 服部 恭子

前研究調整官 鈴木 淳一郎

要旨

新型コロナウイルス感染拡大の影響による航空旅客需要の低下に伴い、地域経済や定期航空会社及び空港会社等の経営状況が悪化している中、ポストコロナを見据え、利用者ニーズに対応した新たな航空旅客需要の創出が喫緊の課題である。

また、上質なインバウンドサービスの創出にあたり空港周辺でのビジネスや観光コンテンツをつなぐ交通アクセスを含め、ビジネスジェット等を利用した地域振興の参考事例を踏まえた具体的な検討ができていない点が課題であり、富裕層の訪日需要取り込みのためには大都市の拠点的空港のみならず、地方空港におけるビジネスジェット等の利用促進も必要であり、利用促進には周辺地域サービス等の高付加価値化も求められる。

本調査研究では、ビジネスジェット等の利用促進において必要とされる空港周辺地域のサービス等に関して海外での状況を含めた事例調査を行い、その結果を元に我が国のビジネスジェット等の活用が地域振興にもたらす影響についての事例の把握や分析を行い、地域振興と結びつける取組や官民が担う役割を検討するための基礎資料を作成することを目的として調査研究を実施した。

本調査研究は令和4年度～令和5年度実施の1年目であり、令和4年度は海外の空港周辺地域におけるビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の事例調査を主に実施した。調査研究の結果の概要については次のとおりである。

1) 海外の空港周辺地域におけるビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等について

- ・ビジネスジェット等は観光目的等において主に富裕層以上が時間短縮及びシームレスな移動を求めて利用していると考えられる。本調査の海外調査対象地域においては、ビジネスジェット等の受入体制が整った『空港』、出入国時はもとより国内移動も含めたトータルで利用者層のニーズを踏まえた利便性・快適性やシームレス化に対応する二次交通『アシ』、様々な『ウリ』（利用者層のニーズを満たす滞在価値）、『ヤド』（利用者層のニーズを満たす宿泊施設）、『ヒト』（利用者層を地域に送客する人材や、地域において質の高いサービスを提供するガイド等の人材）及び『コネ』（利用者層の目的地として認知してもらうための売り込み）の具体的な事例が存在した。
- ・『空港』については、ビジネスジェット等を受け入れる運航支援事業者は地域内の空港に基本的に存在しており、併せて送迎車や宿泊施設等手配を行うコンシェルジュサービス提供事例も多かった。また、本調査対象地域では来訪元は主に域内からの比較的近距离からのフライトが多い傾向が見られた。
- ・『アシ』については、高級感とシームレスな目的地までの移動を可能とする高級送迎車、空港から距離のある目的地への移動を可能にするチャーター・ヘリコプター、離

島までの移動やクルーズを可能にするラグジュアリー・ヨットチャーターの事業者が各地域において存在した。

- ・『ヤド』については、一棟貸の高級ヴィラ（シャレー）や高級ホテル（スイートルーム）、かつソフト面（専用シェフや、コンシェルジュ等）の提供が充実した施設、別荘や定住に向けた富裕層不動産の拡大が各地域において見られた。
- ・『ウリ』については、その地域が有する「自然や遺産」、「各種ツーリズム」、「文化や生活スタイル等」を複合的に競争力の高いブランド力を、それぞれが発揮、また富裕層ニーズとしてサステナブルな取組、地域特性に応じたアクティビティ等の付加価値を加味した新たなツーリズムの開発等が各地域において見られた。
- ・『ヒト』については、富裕層誘客推進人材や地域において質の高いサービスを提供するガイド・コンシェルジュ・ホスピタリティ等人材育成、公的な資格認定によるステータス向上や、育成のための助成金制度等の取り組みが各地域で見られた。
- ・『コネ』については、富裕層誘客のためのプロモーション、観光需要を拡大させるための各種投資、観光戦略、富裕層向けビザ発給等、多岐に渡る地域ごとの戦略や、国と地域と各組織、住民が必要に応じ協力し実施している事例が各地域で見られた。

2) 今後の調査について

ビジネスジェット等を利用する富裕層を地方に誘客するためには、多種多様なニーズを満たすための『アシ』、『ウリ』、『ヤド』、『ヒト』、『コネ』が複合的に存在することが必要であり、地域毎の強みを再認識した上で、そこでしか体験できないサービスを提供することが、事例を検討する際において重要であると考えます。

国内でも富裕層対応として観光庁より「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン」等により、モデル観光地の設定等により既存の観光資源を生かし、各取組が既に推進されているところである。

その中でも特に『アシ』（空港からの二次交通）についても、ビジネスジェット等と同様に時間短縮、シームレスな移動等を求める富裕層に対応可能な体制が必要であり、空港から『ウリ』や『ヤド』まで比較的距離のあることもある国内の地方地域においても、手配可能な送迎車等に加えヘリコプター等その他移動手段の活用が想定される。

調査2カ年目である令和5年度は令和4年度に調査したサービス等及びビジネスジェット等の利用者層に向けた空港や周辺地域の取組状況や地域性等を考慮の上、ビジネスジェット等の利用促進において必要とされる国内の地方空港周辺地域のサービス等に関して、特に空港からの二次交通について重点をおいて事例調査を行い、その結果を元に我が国に求められるビジネスジェット等の空港周辺地域のサービス等事例の整理を行い、我が国のビジネスジェット等の利用促進に向けたサービス面での方策を含めて取りまとめ、地域振興と結びつける取組についての検討を行う。

目 次

第1章 調査研究の概要	1
第1節 背景と目的	1
第2節 調査内容	2
第2章 ビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の整理	3
第1節 ビジネスジェット等の概要の整理	3
第2節 ビジネスジェット等の利用促進に向けて地域に必要とされる項目の整理 ..	7
第3節 深掘り調査対象地域の選定	9
第3章 海外の空港周辺地域におけるサービス等の事例の深掘り調査	11
第1節 イビザ	11
第2節 シチリア	16
第3節 サンモリッツ	22
第4節 アスペン	29
第5節 プーケット	36
第6節 バリ	44
第7節 ニュージーランド	51
第8節 パタゴニア	58
第9節 コスタリカ	65
第10節 ロスカボス	72
第4章 調査のまとめ	78
第1節 海外におけるビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の深掘り調査結果の整理	78
第2節 調査結果のまとめ	84
第3節 今後の検討課題の整理	88

第1章 調査研究の概要

第1節 背景と目的

新型コロナウイルス感染拡大の影響による航空旅客需要の低下に伴い、地域経済や定期航空会社及び空港会社等の経営状況が悪化している中、ポストコロナにおける、利用者ニーズに対応した新たな航空旅客需要の創出が喫緊の課題である。

また、上質なインバウンドサービスの創出にあたり、空港周辺でのビジネスや観光コンテンツをつなぐ交通アクセスを含め、ビジネスジェット等を利用した地域振興の参考事例を踏まえた具体的な検討ができていない点が課題である。

観光庁主催「観光戦略実行推進会議」で令和2年12月に決定された「感染拡大防止と観光需要回復のための政策プラン」においてビジネスジェット利用環境改善の推進が盛り込まれ、「地方における高付加価値インバウンド観光地づくり検討委員会」においては、訪日の際のプライベートジェットの利用推進が盛り込まれているところである。

また、富裕層の訪日需要取り込みのためには大都市の拠点的空港のみならず、地方空港におけるビジネスジェット等の利用促進も必要であり、利用促進には周辺地域サービス等の高付加価値化も求められる。

本調査研究では、ビジネスジェット等の利用促進において必要とされる空港周辺地域のサービス等に関して海外での状況を含めた事例調査を行い、その結果をもとに我が国に求められる空港周辺地域のサービス等の事例整理を行い、我が国のビジネスジェット等利用促進に向けたサービス面での利用者側及び受入地域への双方に対するアピール方策を含め取りまとめる。

本調査研究は、定期航空便と比較して、コロナ禍における旅客需要の変動が小さいという特徴を持つビジネスジェット等の活用が地域振興にもたらす影響についての事例の把握や分析を行い、地域振興と結びつける取組や官民が担う役割を検討するための基礎資料を作成することを目的とする。

本調査研究は令和4年度～令和5年度の2カ年にて実施を予定しており、本稿においては、令和4年度に実施した調査研究の結果や整理した課題について報告する。

第2節 調査内容

本調査研究では、定期航空便と比較して、コロナ禍における旅客需要の変動が小さいという特徴を持つビジネスジェット等の活用が地域振興にもたらす影響についての事例の把握や分析を行い、地域振興と結びつける取組や官民が担う役割を検討するための基礎資料を作成することを目的とし、本稿では主に海外の地方を中心とした地域の事例について情報収集、整理を行った。

1) ビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の整理

ビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の整理として、主に文献調査、インターネット調査等により、ビジネスジェット等の概要、利用目的、利用者層について改めて確認を行った。

また、ビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域の具体的なサービス等（高付加価値旅行者等向けの観光資源、レジャー施設、宿泊施設、空港アクセス、医療、その他サービス）を踏まえ、各空港周辺地域での調査項目の整理を行い、それらを元に今回深掘り調査対象地域として海外の調査対象とする10地域の選定を行った。

2) 海外の空港周辺地域におけるサービス等の事例の深掘り調査

ビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域の具体的なサービス等の提供事例や内容、これらサービス等のアピール手法に関して、1) にて選定した10地域について調査した。

情報収集にあたっては文献調査、インターネット調査及び関係先への問い合わせ等を行い、当該事例における詳細な内容、施策の実施状況、工夫、効果や影響等に留意し、詳細な情報を十分に踏まえた上で、個別の地域毎に整理した。

3) 調査のまとめ

本調査研究で把握した事項のまとめとして、2) にて調査した海外におけるビジネスジェット等の利用促進に向けて求められる空港周辺地域のサービス等事例の深掘り調査結果を整理し、ビジネスジェット等の利用促進に向けたサービス面等での方策を調査結果としてまとめた。また、今後我が国におけるビジネスジェット等の利用促進を地域振興と結びつける上での検討課題を整理した。

第2章 ビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の整理

第1節 ビジネスジェット等の概要の整理

第1項 ビジネスジェット等について

国土交通省のホームページにおいて、ビジネスジェットとは、「企業・団体又は個人が商用目的で利用する航空運送のことであり、その運航形態には、①社用機や個人所有機などの自家用運航と、②航空会社等の事業用機のオウンユースチャーターによる運航の2つがある。」とされており、表1のとおり整理されている。

表1 航空区分と航空機の運航形態¹

区分	航空機	運航用途	運航例
軍用航空	自衛隊機等	公用、防衛用等	自衛隊機・米軍機
ジェネラルアビエーション (軍用、商業以外)	公用機	行政目的などの公用	海上保安庁、警察、消防、飛行検査機
	航空機使用事業用	旅客又は貨物の運送以外の行為の請負	取材ヘリ(委託)、農業散布測量、航空写真撮影
	自家用機	レジャー・遊覧・観光	個人の趣味 アクロバット飛行
		レジャー・遊覧・観光・商用以外の運送	撮影用取材ヘリ 養成学校の練習機
		ビジネス航空	プライベートジェット 役員、社員輸送用の社用機
商業航空 (航空会社等が貨客運送のため航空機を運航)	航空運用事業用機 (国内定期航空運送事業を除く)	商用目的以外の有償運送	オウンユースチャーター ドクターヘリ、遭難救助 遊覧飛行、観光
	国内定期航空運送事業用機	定期便	定期便 定期便に近い不定期便
		不定期便・チャーター便	臨時便、チャーター、フェリー

なお、一般社団法人日本ビジネス航空協会では、「ビジネス航空とはビジネス遂行上の目的で航空機（飛行機及びヘリコプター）を使用して行う貨客の輸送のことをいい、ビジネス航空に使用される航空機がビジネス機であり、その代表がビジネスジェット機である。ビジネスという呼称ではあるが、一般的には観光目的等も含めもっと広義に解釈することが多い。速度に加え快適性、安全性等の面から近年ビジネス機の主体はビジネスジェット機になっている。日本ではビジネスジェットはプライベートジェットとよばれることも多い。」と解説されている²。

本調査では、ビジネスジェットの利用促進において必要とされる空港周辺地域のサービス等に関する状況を含めた事例調査を行うことから、国土交通省のビジネスジェットの定義に加え、観光目的等における主にプライベートジェットと呼ばれるものも含めたジェット機を『ビジネスジェット等』と定義する。

¹ 国土交通省 ビジネスジェット受入の現状について <https://www.mlit.go.jp/common/000133554.pdf>

² JBAA ビジネス航空とは <https://www.jbaa.org/wp/wp-content/uploads/2016/11/Business-Aviation-Introduction-R5.pdf>

第2項 ビジネスジェット等が利用される理由について

ビジネスジェット等が利用される理由、主な選択されるメリットとして、一般的に表2のとおり整理されている。この中で主な使用理由の順としては、第一に「時間の節約」、第二に「航空会社が乗り入れない空港を使える」、以降大きな差をつけて「機内で仕事や会議ができること」「プライバシー」「安全性」とされており³、利用者はより時間短縮を求める移動手段の一つと位置づけ活用するため、また併せて快適性を求めて利用していることがわかる。

表2 ビジネスジェット等の利用価値とメリット⁴

利用される理由	主な選択されるメリット
移動にかかる時間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・定期便が就航していない区間・時間帯のフライトが可能。 ・渡航先に最も近い「ビジネスジェット専用空港」を利用。 ・空港内の専用動線を利用できるので、出入国審査や保安検査がスムーズ。 ・限られた時間を使い、より多くの都市へ移動可能。
自由で柔軟なスケジュール設定	<ul style="list-style-type: none"> ・直前でも出発時間の変更や人数の増減が可能。 ・渡航先の変更に柔軟に対応、顧客の予定を最優先したスケジュールで利用できる。
秘匿性の高いプライベート空間	<ul style="list-style-type: none"> ・移動するオフィスとして利用でき、到着する直前まで商談準備や打ち合わせが可能。 ・プライベート空間として、小さな子供や乳幼児、ペットが一緒でも周囲に気を遣うことなく過ごすことができる。 ・ビジネスジェット専用ターミナル等を利用して、第三者の目にふれることなく移動可能。
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・安全基準を満たした運航体制。
感染リスクを抑えた移動手段	<ul style="list-style-type: none"> ・機内では常に換気を実施。 ・機内消毒と乗務員のマスク着用を徹底。 ・空港内の専用動線を利用し、搭乗は関係者のみとなるため感染リスクを低減。

第3項 ビジネスジェット等の利用者について

ビジネスジェット等においては、保有、運用、管理に係る費用等が高額であることから、主に富裕層が利用していると想定される。富裕層の定義については世界共通で明確には定まっていないが、表3のとおり富裕層に関する調査機関である Wealth-X によって世界の富裕層が分類されている。

表3 富裕層の分類⁵

分類	個人資産額	世界全体 推定総人数	世界全体 推定総資産額
BILLIONAIRES 億万長者	10億ドル以上	3,000人以上	—
UHNW(ULTRA HIGH NET WORTH) 超富裕層	3,000万ドル～10億ドル	392,410人	41.8兆ドル
VHNW(VERY HIGH NET WORTH) 富裕層	500万ドル～3,000万ドル	361万人	35.9兆ドル

³ Forbes JAPAN (2023.3.10 閲覧) <https://forbesjapan.com/articles/detail/23860>

⁴ ANA Business Jet (2023.3.10 閲覧) <https://www.anabj.co.jp/>

⁵ World Ultra Wealth Report 2022 (2023.3.10 閲覧) <https://wealthx.com/reports/world-ultra-wealth-report-2022>

また、Wealth-X とビジネスジェット運航会社である Vista Jet による 2018 年の分析によると、表 3 の分類の中でビジネスジェット等を保有し、個人で自由に活用している層については表 4 のとおりで、また UHNW とプライベートジェット機体登録数等の相関は表 5 のとおりとなっている。当該地域における機体登録数は、UHNW の人数に加えて機体製造、機体保有の体制や、地域の広さ等とも関係すると推測される。

表 4 ビジネスジェット機保有者等の分類⁶

分類	利用方法	利用者層等
ビジネスジェット機保有者	保有 (いつでも利用可)	一般の UHNW には手が届きにくく、ビジネスジェット機を所有しているのは、主に平均純資産額 15 億ドルの Billionaires となる。
プライベートフライト・プログラムメンバー	メンバーは利用したい時に固定料金で、様々な航空機によるビジネスジェットのサービスを受けられるプログラム。	一般の UHNW には手が届きにくく、メンバーの平均純資産額は 11.7 億ドルで主に Billionaires となる。
その他	チャーター会社等を通じて、必要な時に特定の航空機をチャーターしてビジネスジェット機を利用。	主に UHNW となる。

表 5 UHNW とプライベートジェット機体登録数等⁷

地域	北米	欧州	アジア太平洋	中南米	中近東	アフリカ
UHNW 人数	94,440	72,570	72,670	8,550	9,090	2,490
プライベートジェット機体登録数	13,775	2,821	1,229	2,626	514	476
総資産 (10 億ドル)	10,998	8,773	8,734	1,173	1,526	305

なお、Wealth-X と高級品分野のコンサルタント会社である Barton による富裕層を対象とした分析によると、UHNW と VHNW 別の旅行者に関する傾向については表 6 のとおりとなっている。

表 6 UHNW と VHNW の各分類における旅行者の傾向⁷

分類	UHNW	VHNW
平均旅行費用	60,000 ドル	18,000 ドル
主な旅行手配方法	Specialist (個人専属スタッフ等)	Concierge (専門手配事業者等)
主な旅行目的	Getaway (休暇)	Impress (感動的な体験等)
主な宿泊利用施設	高級ヴィラ	高級ホテルジュニアスイート
航空移動 (短距離)	プライベートジェット	ビジネスクラス
航空移動 (長距離)	ファーストクラス	ファーストクラス

⁶ THE JET TRAVELERREPORT (2023.3.10 閲覧)

<https://www.vistajet.com/globalassets/documents/jettravelerreport.pdf>

⁷ The GLOBAL LUXURY TRAVEL ECOSYSTEM (2023.3.10 閲覧)

<https://view.iltm.com/wp-content/uploads/2019/11/The-Global-Luxury-Travel-Ecosystem-FINAL-1.pdf>

ビジネスジェット等の利用については、観光目的等において以下のとおり主に富裕層以上が利用をしていると考えられる。

○ビジネスジェット等を保有等し、長距離フライト、短距離フライト共に定常的に利用するのは、主に平均純資産額 10 億ドル以上の **Billionaires** が中心と考えられる。

○ビジネスジェット等をチャーター等にて短距離フライトで定常的もしくは必要な際に利用するのは **UHNW** であると考えられる。

○上記以外の主に **VHNW** は定常的にビジネスジェット等を利用することは少ないが、以下例のような場合にはビジネスジェット等利用の利点が大幅に生かされることから、**UHNW** 以下の富裕層も状況や必要に応じて必要に応じて利用されることがあると考えられる。

- ・目的地空港へ直接飛行する場合は近距離フライトとなり短時間ではあるが定期直行便が就航しておらず経由便利用や地上・海上交通での所要時間との差や移動環境の差が大きい場合（例として目的地が離島や山岳地域の場合）

- ・目的地地域の移動の需要は高いが、当該地域の空港において、定期旅客便が滑走路長等の何らかの事情で運航されていないが、小型のジェット機等の着陸は可能な場合

但し、ビジネスジェット等での移動は高額であることから **VHNW** の移動における利用は **UHNW** と同様に短距離フライトでの利用（例として欧州域内間での移動）が主な利用と推測される。

第2節 ビジネスジェット等の利用促進に向けて地域に必要とされる項目の整理

ビジネスジェット等の利用者層、主に超富裕層及び富裕層を対象とした各地域において必要とされるサービスの詳細な調査にあたっては、観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン」（令和4年5月発行）⁸において挙げられている4つの要素（『ウリ』『ヤド』『ヒト』『コネ』）に加え、4つの要素に欠かせない空港からの二次交通『アシ』及びビジネスジェット等の受入体制を含む各地域の活用空港の状況を『空港』として各地域の調査項目を表7のとおり整理する。また、空港到着から目的地までの流れをサービス、ハード、想定提供者について、図1のとおり整理し、これらの点に留意して調査を行った。

表7 各地域調査項目の整理

分類	内容	具体例
① 空港	空港のビジネスジェット等の受入体制等の状況	FBO ⁹ の有無や提供サービス、空港におけるビジネスジェット等の利用状況
② ウリ	利用者層のニーズを満たす滞在価値	自然・遺産、各種ツーリズム、その他
③ ヤド	利用者層のニーズを満たす質、かつ地域のストーリー等を感じられる宿泊施設	地域の特色に沿った高級ヴィラ ¹⁰ 、高級シャレー ¹¹ 、高級ホテルスイート等
④ アシ	出入国時はもとより国内移動も含めたトータルで利用者層のニーズを踏まえた利便性・快適性やシームレス化に対応する二次交通	空港到着後から目的地までの富裕層向け二次交通、高級送迎車やヘリコプター等の移動サービス
⑤ ヒト	利用者層を地域に送客する人材や、地域において質の高いサービスを提供するガイド等の人材	ガイド、コンシェルジュ等
⑥ コネ	利用者層の目的地として認知してもらうための売り込み	誘客に向けた観光戦略やキャンペーン等

⁸ 観光庁 地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001483862.pdf>

⁹ Fixed Base Operator 空港内または空港隣接地を拠点として、一般航空（ゼネラル・アビエーション）の航空機とその運航業者などに運航に係る関連サービスの一部もしくはいくつかを纏めて提供する事業者のこと。運航に係る関連サービスに加え、機内ケータリングやレンタカー、パイロットと乗務員用の休憩所、乗務員と乗客向けのホテル予約などのコンシェルジュサービスなど、さまざまな補助サービスを提供する場合もある。

¹⁰ 敷地内のレストランや大浴場などの施設とは分離した、1棟まるごと客室の別荘のような宿泊施設。

¹¹ 山小屋タイプの宿泊施設の総称。元々は、スイスの山岳地域に立地した宿泊施設の名称。

出発空港 ↓ 到着空港 ↓ 目的地	<サービス>	<ハード>	<想定提供者>	ヒト コネ <想定される状況や調査における留意点>
	空港 ○空港体制等 ・各種申請等 ・C I Q等	○空港設備 ・運用時間 ・F B O等 ・専用施設	国、自治体 空港事業者 航空事業者	※想定される状況は以下の通り ○国内においては首都圏空港含め事前手続等は短縮・緩和等を実施中。 ○地方は発着枠の問題は少ない。 ○利用者層の傾向より短距離移動(域内)の活用が多い。
アシ	○空港からの移動 ・高級送迎車、ヘリコプター等の活用	民間事業者	※調査における留意点 ○地方の場合需要全体の関係上、不足の可能性がある、地域特性にて富裕層が求めるものを確認する。	
ヤド	○宿泊施設 ・富裕層向け施設(付帯サービス提供含む)	民間事業者	○地方は定常的に不足している可能性があり海外の事例等富裕層が求めるものを中心に確認する。	
ウリ	○富裕層の求める観光資源等 ・ビーチ、スノー ・自然、遺産、文化 ・各種ツーリズム等	民間事業者 観光協会等 国、自治体 他	○地方地域にてウリとして潜在的なものにおいて可能性があることから、海外(主に地方)においても富裕層が求めるものを中心に確認する。	

図 1 本調査における各地域調査のポイント

第3節 深掘り調査対象地域の選定

深掘り調査対象地域の選定にあたっては、まず海外にて空港そのものがビジネスジェット等自体を誘致する取組を実施している例について調査した。しかし、ロンドンのファンボロー空港¹²のように、都市圏内にビジネスジェット等にて利用可能な空港が複数あり、それぞれの空港の競合を意識し空港におけるサービス（FBO等）をアピールする事例はあったが、地域への誘致を目的とした取組は今回発見できなかった。これは、富裕層によるビジネスジェット等が移動手段の一つであるとの認識によるものであると想定される。

今回は、ビジネスジェット等を利用する主に富裕層をターゲットとするが、インターネット調査により、主に欧米にておいてビジネスジェット等を利用する主に富裕層にて人気とされる地域は、殆どが海辺や冬のリゾート地に集中しているとされ¹³、またタックスヘイブンやカジノにより誘客を行っている地域が多いとされる¹⁴。

観光庁の「上質なインバウンド観光サービス創出に向けた観光戦略検討委員会」の報告書（令和3年6月）¹⁵の中で、今後の取組の方向として観光コンテンツの高付加価値化が必要として、以下のとおり提言されている。

- ・我が国は自然、食、伝統文化、芸術、風俗習慣、歴史、伝統工芸などの観光資源に恵まれており、これらを生かして、富裕旅行者が楽しめるアクティビティとして、観光コンテンツのストックを充実させることが必要である。

- ・富裕旅行者に人気が高い、アート・建築・デザイン・エンターテインメントなどの文化コンテンツ、スノー・ビーチ・アドベンチャーツーリズム、サイクルツーリズムなどの自然コンテンツ、ガストロノミーツーリズム¹⁶、アグリツーリズム¹⁷などの食のコンテンツ、そして医療とともにウェルネスやリトリートなどの健康関連のコンテンツについて、各省庁の施策も活用しつつ、顧客目線での磨き上げを行うべきである。

- ・ハラルやヴィーガンなど食の多様性、フードロスやプラスチック多用などのサステナビリティの課題については、世界と比較して対応が遅れており、改善が必要である。

- ・コンテンツ開発に向けては、本物を求める旅行者のニーズに沿って、コンテンツの背後にある本質を掘り下げつつ、旅行者自身の知識や関心事に関連させた形で伝える工夫を行う等の磨き上げが必要である。その際、ツアーコーディネーターやガイドの育成はもちろんのこと、アーティスト、職人、シェフなどの専門家も含め、コンテンツを語る人材を育成することが重要である。

- ・アクティビティを通じて得た知識や学びを広げ、自国に何等かの形で持ち帰りたいというニーズも高い。例えば、現代アートについては、同じアーティストの他の作品をもっと見るためにはどこに行けばよいのか、その作品のコンテクストを知りたい、その作品の題材に触れたい、直接作品を購入したいというような要望も多い。伝統工芸品を自宅に持ち帰るために海外向けに必要なカスタマイズをしてほしいという要望も多い。こうした要望に迅速に対応できる仕組みを用意しておく必要がある。

¹² Farnborough Airport（2023.3.10 閲覧）<https://www.farnboroughairport.com/>

¹³ A LUXURY TRAVEL BLOG（2023.3.10 閲覧）
<https://www.aluxurytravelblog.com/2023/03/10/top-10-private-jet-charter-destinations/>

¹⁴ BUSINESS INSIDER（2023.3.10 閲覧）
<https://www.businessinsider.com/most-popular-private-jet-destinations-bahamas-ibiza-puerto-rico-philippines-2019-7>

¹⁵ 観光庁 上質なインバウンド観光サービス創出に向けて（報告書）<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001409538.pdf>

¹⁶ その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的としたツーリズム

¹⁷ 主に農山村部など自然豊かな場所に滞在し、周囲の環境や文化、そこに住んでいる人々との交流を楽しむツーリズム

今回将来的に日本での取組への参考事例とすることを留意し、ビジネスジェット等の来訪が多い地域、及び観光庁の「上質なインバウンド観光サービス創出に向けた観光戦略検討委員会」にて進められる各分野において先進的に取組を進めている地域で、具体的には以下を選定にて考慮する。

- ・文献、インターネット等調査にてビジネスジェット等を利用する富裕層に人気の高い、もしくはビジネスジェット等による来訪が多いとされる主に地方と位置づけられる地域
- ・地域内にビジネスジェットの着陸が可能と思われる空港が存在する地域
- ・観光庁の「上質なインバウンド観光サービス創出に向けた観光戦略検討委員会」等にて進められた各種ツーリズム等において先進的に取組を進めている地域。但し、日本における参考事例とすることを留意し、タックスヘイブンやカジノが主な来訪目的とされている地域は対象より除外
- ・選定地域（欧米、アジア等）や分類（夏、冬、自然、ツーリズム）のバランス
- ・地域の広さによりウリまでのアクセスが困難な地域（主に空港から遠方にウリがある場合の富裕層向け二次交通の状況把握を目的とする）

以上を考慮の上、本調査では表 8 の 10 地域について深掘り調査の対象とし、各地域において表 7、図 1 の整理を踏まえ、調査を行った。

表 8 選定した深掘り調査対象 10 地域

地域	国	選定考慮点	想定するウリの例
イビザ	スペイン (欧州)	ビジネスジェット等来訪の実績があり富裕層に人気の高い、夏のリゾート地（離島）	ビーチ、文化等
シチリア	イタリア (欧州)		
サンモリッツ	スイス (欧州)	ビジネスジェット等来訪の実績があり富裕層に人気の高い、冬のリゾート地	スノーツーリズム等
アスペン	アメリカ (北中米)		
プーケット	タイ (アジア)	ビジネスジェット等来訪の実績があり富裕層に人気の高いアジアの夏のリゾート地	ビーチ、世界遺産等
バリ	インドネシア (アジア)		
ニュージーランド	ニュージーランド (オセアニア)	アドベンチャーツーリズムや自然等をウリとしており、エリアが広域のため二次交通の動向確認、富裕層に人気の高い地域	アドベンチャーツーリズム、自然等
パタゴニア	チリ・アルゼンチン (南米)		
コスタリカ	コスタリカ (北中米)	その他（サステナブルツーリズム先進地域）、エリアが広域のため二次交通の動向確認、富裕層に人気の高い地域	サステナブルツーリズム等
ロスカボス	メキシコ (北中米)	その他（離島以外の富裕層に人気の高い夏のリゾート）	ビーチ等

第3章 海外の空港周辺地域におけるサービス等の事例の深掘り調査

第1節 イビザ

イビザは面積約 571 km²（沖縄本島の約半分）の地中海にあるスペインの島で、人口は、約 15 万人（2022 年）¹⁸。図 2 に示すとおりヨーロッパ地中海のスペインバレアレス諸島の一部で、地中海特有の温暖な気候であり、日照時間も長く、島は多数のビーチがある。また中世の美しい町並みが存在し、それらが世界遺産となっており、ヨーロッパにおける夏のリゾートとして富裕層に人気の観光地である。また、若者達のパーティー・アイランドとして有名となり、世界的なクラブカルチャーの中心とした観光地としても発展している。



図 2 イビザ位置図¹⁹

近年はイビザを含めたバレアレス諸島をはじめとしたスペイン国内においては、オーバーツーリズムが問題となっており、地元コミュニティや自然環境への悪影響を最小にしながら、観光産業の持続可能な発展を実現しようという取り組みや、より単価の高いファミリー層や富裕層向け等の誘客が進められている²⁰。

イビザへの旅行客は、2016 年の 342 万人から 2019 年には 470 万人と約 1.4 倍に増加した。スペイン国内からの旅行客の他、英国からの旅行客が最も多く、イタリア、ドイツ、フランス、その他の国という分布となっている²¹。

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

1. イビザ空港

イビザ空港は、イビサ中心部の南西 7 km に位置し、2800m の滑走路 1 本をハイシーズンの夏期（4 月～9 月）は 24 時間運用、冬季（10 月～3 月）は 6 : 30～23 : 00 の運用である²²。

イビザ空港は、スペイン本土をはじめとしてヨーロッパ各地から多くの定期便が就航している。一般旅客ターミナルについては、国際線、国内線共用のターミナルが 1 つであるが、後述のとおりビジネスジェット等の専用施設が別にある。

イビザの市街地へは、一般的にバス、タクシー、レンタカー等での移動となり、市街地までの所要時間は約 15 分程度である。



図 3 イビザ空港位置図¹⁹

2. イビザ空港の FBO 及びビジネスジェット等の状況

イビザ空港は、2022 年の欧州の夏期におけるビジネスジェット等の到着数において、第 1 位であるスペイン国内の中で、マドリッド、バルセロナ等よりも多い第 1 位の到着空港となっており²³、ビジネスジェット等の利用が多い。一般旅客ターミナルとは別にビジネスジェット等の専用施設もあり、複数の FBO が存在し、ハンドリング、スロット調整、税関・

¹⁸ スペイン国立統計局より(2023.3.9 閲覧) <https://www.ine.es/>

¹⁹ OpenStreetMap を加工し作成

²⁰ バレアレス諸島観光局(2023.2.10 閲覧)

https://projects2014-2020.interregeurope.eu/fileadmin/user_upload/tx_tevprojects/library/file_1508251726.pdf

²¹ letusibiza (2023.2.10 閲覧) <https://letusibiza.com/ibiza-numero-visitantes/>

²² AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/LEIB>

²³ WELOJETS(2023.2.10 閲覧)

<https://www.welojets.com/blog/entradas/8/by-the-numbers-private-jet-summer-arrivals-in-spain>

入国管理サポート、飛行計画、気象・航空情報の提供、旅客及び乗務員向けサービス（VIPラウンジ、コンシェルジュサービス等の提供）をしており、サービス体制が確立されている。また、到着出発時の税関等も短時間でよいなど利便性が非常に優れている²⁴。

なお、コロナ禍前の2017年にイビザに到着したビジネスジェット等は、表9のとおり5,221機で出発地の分布は、欧州が97.3%、北中米1.1%、アジア・中東0.1%、アフリカ1.1%となっている。

表9 イビザ空港におけるビジネスジェット等到着数（2017年）²⁵

出発（領域）	出発（国別）	到着数	構成比
ヨーロッパ	Spain	1415	27.1%
	Finland	866	16.6%
	United Kingdom	669	12.8%
	Italy	539	10.3%
	Germany	399	7.6%
	Switzerland	307	5.9%
	Others（33カ国）	885	17.0%
	合計(39カ国)	5080	97.3%
北中米	US	39	0.7%
	Others（7カ国）	16	0.3%
	合計(8カ国)	55	1.1%
アジア・中東	合計(11カ国)	28	0.1%
アフリカ	合計(7カ国)	58	1.1%
総合計		5221	-

2) ウリ

イビザは、ヨーロッパでは昔からビーチリゾートとクラブカルチャーの中心として知られており、主にビーチやクラブカルチャーをはじめとした様々なウリが存在する。

1. ビーチ

島であるイビザには浅瀬と広い砂浜があり、きれいな白い砂浜、にぎやかな遊歩道のあるビーチ、さまざまなバーやレストランが立ち並ぶビーチや崖と透き通った海が広がる小さなビーチが多数存在する²⁶。

イビザではカラ・ヴァデラをはじめとしたいくつかのビーチやマリナーにおいてブルーフラッグ認証を受けている。ブルーフラッグ認証²⁷とは、ビーチが持続可能性、安全性、環境への影響、およびアクセシビリティに関する厳格な基準を満たすことを保証する国際的に認められた認証制度であり、旅行者にビーチが清潔で安全であること、十分なライフガードを持っていること、その管理が生態系と野生動物を尊重していること、基本的にそれが環境に優しいビーチであることを保証する認証制度である。

また、主要な観光資源であるクラブ等のナイトライフの代名詞となっていることから、ビーチクラブや富裕層向け高級ホテルもあり、スパとウェルネス、現地のオーガニック食材を利用したレストラン、プライベートアートツアーや、ダイビング、プライベートヨット等旅

²⁴ IBIZA AIR(2023.2.10 閲覧) <https://www.ibizair.com/>

²⁵ ANA 総合研究所にて WINGX（ドイツ Business Aviation 調査機関）データより作成

²⁶ IBIZA SPOTLIGHT(2023.2.10 閲覧) https://www.ibiza-spotlight.com/beaches_i.htm

²⁷ 2021年現在、日本国内のブルーフラッグ認証ビーチは、由比ガ浜海水浴場、若狭和田ビーチ、須磨海水浴場、本須賀海水浴場、片瀬西浜・鶴沼海水浴場、逗子海水浴場の6か所。

行者が大きな移動を伴わずビーチ近郊で楽しめるホテルが複数存在する²⁸。

2. クラブカルチャー

イビザは、世界的なクラブカルチャーを中心とした観光地として知られている。クラブというと日本では20代の若者が中心となっているイメージだが、イビサでは2000年代のダンスミュージックなど10代~20代対象のイベント、1980~1990年代のダンスミュージックなど30代~40代対象のイベント、オールディーズを一晩中かける50代以上を対象にしたイベントなど、幅広い層が楽しめるようになっている。

島には6,000~10,000人収容できる巨大クラブ5つをはじめとした各種クラブあり、世界的に有名なDJが訪れ、5月の終わりから10月の始めまで毎日クラブプレイが行われる。

主なクラブ内にはメインフロアを取り囲むように富裕層向けのVIPテーブルが設置されておりVIPエリアは平均30万円で例として50エリアで1,500万円、クラブ全体では一晩で約1億円が動いており、富裕層は一晩に1千万円以上使うケースもある²⁹。

イビザを対象とした、これらのクラブの予約困難なVIPエリア手配をはじめとした富裕層をターゲットとした独自のコンシェルジュ事業者がイビザ内外に存在するのも特徴であり、どの事業者もクラブについては、ビーチクラブ、ナイトクラブのVIPテーブルの手配³⁰を行っている。これ以外にも事業者は主にラグジュアリーヨット、高級車、プライベートなパーティーや高級レストラン、高級ヴィラや高級ホテルの手配を行っている。

3. 世界遺産³¹

イビザは島自体が1つの世界遺産「イビサ島の生物多様性と歴史地区」として自然遺産と文化遺産による複合遺産として登録されている。ルネサンス様式の城壁や多様な海洋生物が登録されており、これらを巡るツアーが設定されている。

4. ガストロノミーツーリズム³²

イビザ島特有の食文化等は存在しないが、地元のオーガニック食材を楽しむことができるレストランが存在する。生産者から直接野菜を購入したり、どのように栽培されているかを学んだり、すぐ横の菜園がまさにパントリー（食品保管庫）となっているカントリーハウスや、ガイド付きツアーや試食会を企画する農家もある。また、宿泊して菜園で採れた100%オーガニックの朝食や夕食を堪能することもできる。

5. アクティビティ³²

イビザで楽しめるアクティビティにはさまざまなものがあり、あらゆる年代を対象にしたアクティビティが楽しめる。マリンスポーツとして、ダイビングやカヤックツアーにて、地中海固有の海生植物を楽しむ。またハイキングやサイクリングで世界遺産やビーチ等、様々なルートをあらゆる年代に楽しんでもらえ、サイクルツーリズムのアクティビティが各種存在する。また、マウンテンバイクについては、オリンピックのクロスカントリーコースの条件を満たしたコースでレースが開催され、世界中のマウンテンバイクファンが集まる。

3) ヤド

ビジネスジェット等でイビザを訪れる富裕層は、別荘等の所有がない場合、高級ホテル（最上級スイートルーム）、及び一棟貸の高級ヴィラに宿泊する傾向にある。

イビザには数多くの高級ホテルがあるが、価格帯は時期により変動するが、クラブが開かれる夏季が最も高いシーズンとなっている。

また、島全体に多くの高級ヴィラがあり、1日あたりの賃貸価格は、100万円以上や約

²⁸ THE LUXURY EDITOR(2023.2.10 閲覧) <https://theluxuryeditor.com/best-hotels-in-ibiza/>

²⁹ Japan In depth(2023.2.10 閲覧) <https://japan-indepth.jp/?p=11179>

³⁰ IBIZA Luxury Concierge(2023.2.10 閲覧) <https://ibizaluxuryconcierge.com/>

³¹ UNESCO(2023.2.10 閲覧) <https://whc.unesco.org/en/list/417>

³² スペイン観光公式サイト(2023.2.10 閲覧) <https://www.spain.info/ja/>

20～30万円程度と幅広く、各高級ヴィラでは別途食事等もサービス提供が行われている。それとは別に高級ヴィラの販売・賃貸管理事業者による、ヴィラの購入者や賃借者に対する独自のコンシェルジュサービス事業者も存在する³³。

表 10 イビザにおける高級ホテルの一例³⁴

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Nobu Hotel Ibiza Bay	空港から車で15分	最上級スイート/ 約40万円/1泊 (時期により変動)	・ビーチに面したホテルで、スパ、プール2つ、キッズクラブ、屋上テラススイートを提供 ・4軒のレストランとバーを有している。
SIX SENSES IBIZA	空港から車で40分	最上級スイート/ 約90万円/1泊 (時期により変動)	・ビーチに面したホテルで、スパ、プールを提供 ・近隣にヒッピーマーケット、サイクリングロード、ハイキングコース等 ・ウェルネスも充実

表 11 イビザにおける高級ヴィラの一例³⁵

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Villa Can Nemo	空港から車で15分	1棟貸6寝室 約240万/1泊 (時期により変動)	・イビサ島の高級エリアにあり、オーシャンビューで市街地へのアクセスも良好 ・パーソナルスタッフが24時間サービス提供 ・追加サービスでシェフ、空港送迎提供 ・プール、スパ、ジム等
Can Juana	空港から車で30分	1棟貸6寝室 約30万円/1泊 (時期により変動)	・屋外プールあり ・サービスは、毎日のハウスクリーニング、タオル交換、リネン交換 ・追加サービスでシェフ、空港送迎提供

4) アシ (空港からの二次交通)

イビザは大きな島ではなく、主に富裕層は、空港と宿泊ホテルや観光地の間を送迎する高級送迎車を活用し移動している。また、港から離島への移動やクルーズを楽しむのに、ラグジュアリー・ヨットチャーターが活用されている。空港から最も離れた島の北東部にある高級ホテルまで約30km、車で40分、空港から約15kmの高級ヴィラまで車で約30分と、空港から近距離圏内にありアクセスが容易であることも利点の一つであることが分かる。

1. 高級送迎車³⁶

イビザ空港に到着した富裕層の移動は、高級車によるリムジンサービスを利用するか、高級車のレンタルサービスで車を借り自ら運転を楽しむことが多い。

イビサ空港との往復送迎の他、好きな場所へのプライベート送迎、イビザ島の観光ツアーも提供している事業者が存在しており、顧客の車のプライベートドライバーとして運転手サービスも提供している。イビザではいずれのサービスも空港のFBOや各種コンシェルジュサービス事業者でも手配が可能となっている。

2. ラグジュアリー・ヨットチャーター³⁷

空路でイビザに入った後、海を楽しむため様々な種類の高価なチャーター用クルーザーやヨットが手配可能な事業者が存在している。一例として全長15m、定員12名のイタリア製豪華クルーザーセッサ C48や定員12名のイタリア製豪華クルーザーPershing90等が1日

³³ YOURIBIZA(2023.2.10 閲覧) <https://youribiza.es/ja/type-of-villas/luxury-villas-in-ibiza/>

³⁴ Expedia より加工し作成 (2023.2.10 閲覧) <https://www.expedia.co.jp/>

³⁵ Airbnb より加工し作成(2023.2.10 閲覧)<https://www.airbnb.jp/luxury/>

³⁶ ibiRide(2023.2.20 閲覧) <https://www.ibiride.com/>

³⁷ Your Ibiza(2023.2.20 閲覧) <https://youribiza.es/ja/yacht-rentals/>

単位で手配可能となっている。

5) ヒト

1. クリエイティブツーリズムの推進

イビサは、伝統的にあらゆる種類の芸術家や創造的な人々（画家、ミュージシャン、彫刻家、職人、建築家等）が、島の自由で明るく革新的な雰囲気の中に、創造性とインスピレーションを発揮できる独自の環境を見つけようと集まる場であり、年間を通じて様々な展示会や文化イベントが開催されている。

これらの理由から、イビサ市議会は、クリエイティブツーリズム（本物のアート、文化遺産、特別な場所において参加型の学習を通じた本物の体験を得る観光）³⁸を推進し、ローシーズンでも色々なことを楽しめるという多様化を目的とした「Ibiza Creativa program」を実施している³⁹。具体的には、クリエイティブツーリズムネットワーク（クリエイティブツーリズム推進のための国際ネットワーク）⁴⁰を活用し、電子音楽、DJ、劇等を学ぶためのクラスをはじめ、様々な活動を支援・推進している。このアプローチは、古典的な文化やリソースを「リサイクル」し、ニーズに沿った新しい体験プログラムを作り出すことに寄与している。

「Ibiza Creativa program」は行政職数名と2人のイベント・観光の民間専門家のチームが中心となって、地域の人々への説明や調整、地域の人々への研修、デジタルツールの準備等が行われており、あらゆる種類の地元の事業者が、競合関係にあった他の事業者と協力して、独自の創造的な体験プログラムを共同で作り上げる機会となった。

新たに考案された35以上のクリエイティブな体験プログラムの成功例としては、クラフト飲料、蜂蜜等の知識習得や試飲の体験、美術工芸、DJ体験等のワークショップが提供されている。それ以外にもインスピレーションを受けた歌手や俳優も、夢を実現するミュージカル・シアター・クラスやサーカスのクラスもあり、サーカス全体について教えてくれるワークショップ等がある。このプログラムの良い点は、イビサの住民全員の参加を求めたことで、これまで競合相手だった事業者を含め自分たちの最高のものを分かち合うことで、島のアイデンティティを反映する非常に幅広い観光プログラムの提供につながっている。

6) コネ

1. ローシーズンの誘客推進⁴¹

イビサを含むバレアレス諸島は、冬はローシーズンとなる観光の季節性を、年間を通して観光客を惹きつけることができる、より付加価値の高い、革新的で持続可能な観光商品をデザインし提供できるように変えるという内的課題を抱えている。これについて、バレアレス諸島地方政府は、プロモーションキャンペーンとして、「BETTER IN WINTER」を2017年3月に立ち上げた。この新しいプロモーション戦略は、夏の喧騒から離れたバレアレス諸島で、ガストロノミー、遺産、文化、自然、スポーツ、健康、芸術、人気の祭り、伝統、ショッピング等を楽しんでもらうという戦略で、この戦略は、バレアレス諸島観光局を通じて推進している。具体的には、World Travel Market（ロンドン）、International Tourism Fair（マドリッド）、Travel Trade Show（ベルリン）等の主要な国際的な観光見本市にて発表、海外メディアやツアーオペレーターから大きな期待が寄せられている。

³⁸ 2008年に創造都市ネットワークと米国サンタフェ市共催による「第1回クリエイティブツーリズム国際会議」にて定義

³⁹ Interreg Europe(2023.2.20 閲覧)

<https://www.interregeurope.eu/good-practices/creative-ecosystem-in-ibiza-for-creative-tourism-development>

⁴⁰ CREATIVE TOURISM NETWORK(2023.2.10 閲覧) <http://www.creativetourismnetwork.org/new-horizons-ibiza/>

⁴¹ バレアリック諸島地域状況調査(2023.2.20 閲覧)

https://projects2014-2020.interregeurope.eu/fileadmin/user_upload/tx_tevprojects/library/file_1508251726.pdf

第2節 シチリア

シチリアはイタリア半島の南、地中海のほぼ中央に位置する島で、面積は25,460 km²（群馬を除く関東の合計とほぼ同じ）で、地中海最大の島である。

州都はパレルモ、イタリアの州のなかでは最も広く人口は約500万人（2019年）⁴²。イタリア半島とは幅3キロメートルのメッシーナ海峡によって隔てられている。

紀元前8世紀から古い歴史があり多くの人種が住み、様々な文化を残し、それらが複合されてイタリア本土とは一味違った文化を持っている。ヨーロッパ最大規模の活火山があり、周囲は地中海に囲まれ美しいビーチがありマリンスポーツも盛んである。世界遺産も多く、オリジナルの料理とワインなどさまざまな魅力にあふれている。



図4 シチリア位置図⁴³

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

1. カターニア国際空港

カターニア国際空港はカターニア市街地の南西3.2kmに位置し、シチリア内の空港で航空機の発着数が一番多い（2番目のパレルモ国際空港の約1.5倍）。2つの旅客ターミナル、滑走路は2,560mが1本あり、24時間空港である⁴⁴。空港から少し離れているが空港鉄道、もしくはバスやタクシー等での移動でカターニア市街地まで約15分である⁴⁵。



図5 シチリア島空港位置図⁴³

2. パレルモ国際空港

パレルモ国際空港はパレルモ市街地の西北西35kmにある。旅客ターミナルは1つのみで、滑走路は3,250mが1本、24時間空港である⁴⁶。空港からの主な移動手段としてはシャトルバスやタクシー等でパレルモ市街地まで約30分であり、空港鉄道も存在する⁴⁷。

3. カターニア国際空港及びパレルモ国際空港のFBO 及びビジネスジェット等の状況

カターニア国際空港及びパレルモ国際空港にはビジネスジェット等の専用施設は存在しないが、イタリアには各空港にて運航支援サービスを手配可能なFBOが存在し、税関及び入国管理サポートや送迎手配など各種コンシェルジュサービスも提供している⁴⁸。

なお、コロナ禍前の2017年にカターニア国際空港に到着したビジネスジェット等は、表12のとおり575機で出発地の分布は、地理的に近いヨーロッパが94.6%と圧倒的に多く、その中でイタリア国内が32.7%、フランス11.3%、英国10.1%である。

⁴² ISTAT (2023.2.24 閲覧) <http://demo.istat.it/bilmens2019gen/index.html>

⁴³ OpenStreetMap を加工し作成

⁴⁴ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/LICC>

⁴⁵ カターニア空港(2023.2.19 閲覧) <https://www.aeroporto.catania.it/>

⁴⁶ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/LICJ>

⁴⁷ パレルモ空港(2023.2.19 閲覧) <https://www.aeroportodipalermo.it/>

⁴⁸ ITALYFBO(2023.2.19 閲覧) <https://www.italyfb.it/>

表 12 カターニア国際空港におけるビジネスジェット到着数（2017年）⁴⁹

出発（領域）	出発（国別）	到着数	構成比
ヨーロッパ	Italy	188	32.7%
	France	65	11.3%
	United Kingdom	58	10.1%
	Others	233	40.5%
	合計(37カ国)	544	94.6%
北アメリカ	US	12	2.1%
アジア・中東	合計(5カ国)	12	2.1%
アフリカ	Egypt	7	1.2%
総合計		575	-

なお、コロナ禍前の2017年にパレルモ国際空港に到着したビジネスジェット等は、表13のとおり907機で出発地の分布はカターニア国際空港と同様ヨーロッパが97.2%とほとんどでイタリア国内59.2%、フランス8.3%、英国5.8%、スイス4.2%、スペイン3.9%である。

表 13 パレルモ国際空港におけるビジネスジェット到着数（2017年）⁴⁹

出発（領域）	出発（国別）	到着数	構成比
ヨーロッパ	Italy	537	59.2%
	France	75	8.3%
	United Kingdom	63	6.9%
	Others	207	22.8%
	合計(39カ国)	882	97.2%
北アメリカ	US	10	1.1%
アジア・中東	合計(5カ国)	9	1.0%
アフリカ	合計(4カ国)	6	0.7%
総合計		907	-

2) ウリ

シチリアでは世界遺産、歴史建造物、アートツーリズム、アドベンチャーツーリズム、ガストロノミーツーリズム、アグリツーリズム、ゴルフ、サステナブルツーリズムと様々なウリが存在する。

1. 世界遺産⁵⁰

紀元前8世紀からの古い歴史を持ち、特色のある豊かな自然に恵まれたシチリアには、世界遺産が文化遺産5件・自然遺産2件の計7件存在する。それらの世界遺産を専用車で移動、プロのガイド同行のトレッキングや、美しいビーチでリラックス、エトナ山麓に広がるワイン畑を眺めつつワイナリーで美味しいシチリア料理を楽しむ等の1~2週間程度のツアーが多数用意されている。高級ホテルに宿泊し、夜は劇場で楽しむツアーもある⁵¹。

⁴⁹ ANA 総合研究所にて WINGX（ドイツ Business Aviation 調査機関）データより作成

⁵⁰ UNESCO(2023.2.10 閲覧) <https://whc.unesco.org/en/statesparties/it>

⁵¹ BLUE PARALLEL (2023.2.19 閲覧) <https://www.blueparallel.com/mediterranean/sicily/>

2. 歴史建築物

シチリアは地中海の中心的位置のために人流、物流が交差することで文化、宗教等が複雑に合流されており、その結果種々の様式の建築物が残されている。アラブ・ノルマン様式は、ビザンチン、アラブ、ヨーロッパの3つの文化が共存した時代に誕生した、世界でも稀に見る建築様式で、イタリア本土とも違った歴史に基づく独特の建築物が残っており、それらが観光資源として活用されている⁵²。

3. アート&カルチャー⁵³

シチリア島には、数多くの文化的な遺産、美しい劇場や美術館、芸術的な街道等があり、自然の美しさ、3000年の歴史、独特の文化、そして特別な美食のシーンを体験するツアーがある。例としてシチリアの生活様式を発見し、エトナ山でシチリアワインと自家製料理を味わうツアーがある。

4. アドベンチャーツーリズム⁵⁴

シチリア島は美しい海と標高3,348mの活火山であるエトナ山があり、変化に飛んだ自然を活かした様々なアドベンチャーツアーが企画されている。種々のアドベンチャーを日ごとに楽しむことができ、飽きない長いバケーションを楽しめる。例えば、海ではタオルミーナのイソラベラの海洋公園でのカヤック、海岸にて美しい自然の湾と洞窟を探索するツアーがある。また豪華なカタマランヨットでのクルーズを楽しむことができる。エトナ山では冬はスキー、スノーシューハイキング、夏場はトレッキング、4WDバギーを使う等の種々のツアーがある。

5. ガストロノミーツーリズム

シチリア島の複雑な歴史と人種の流れ込みは料理に大きな影響を与えており、特徴ある肥沃な土壌がシチリアワインをもたらし、それらがシチリアの伝統料理やワインとなり、それらを楽しむツアーが盛んである⁵⁵。

ギリシャ人は、ブドウとオリーブを持ち込み、住民にワイン造りを紹介、ローマ人はレンズ豆、パスタ等をもたらし、肥沃な土壌に小麦を植え、穀倉地帯となり、アラブ人はアーモンド、アプリコット、米等を持ってきた。また最先端の灌漑システムを構築し、乾燥パスタを大量生産し、グラッパ（イタリアで造られる蒸留酒の一種）を作った。ノルマン人とシュヴァーベン人は、ロティサリーや魚の塩漬け技術などをもたらし、そして、フランス人は、島中の貴族の宮殿で働いていたモンソーシェフ（イタリアの食の巨匠）の形で料理の洗練をもたらし⁵⁶。

6. アグリツーリズム

シチリア島は農村地帯も多く、アグリツーリズムのツアーが非常に多い。一例として農園にプール付きの宿泊できる農村滞在型の施設が存在し、そこに宿泊しながらシチリア産オリーブオイルの知識と文化を学びつつ有機オリーブの収穫からオリーブオイルを製造しそれを味わうツアー⁵⁷等多数のツアーが設定されている。

7. ゴルフ

シチリアには、有名米国人設計家カイル・フィリップスによって造られた2つの18ホール・チャンピオンシップコース等を備える巨大な5つ星ゴルフリゾートがあり、「シチリア

⁵² CREA Travellar (2023.2.19 閲覧) <https://crea.bunshun.jp/articles/-/8525>

⁵³ GET YOUR GUIDE (2023.2.19 閲覧)

<https://www.getyourguide.jp/erichie-l2222/shichiriadao-7ri-jian-noshichiriawen-hua-toatotsua-t259062/>

⁵⁴ SICILY ADVENTURE (2023.2.19 閲覧) <https://www.sicily-adventure.it/>

⁵⁵ GET YOUR GUIDE (2023.2.19 閲覧)

<https://www.getyourguide.jp/taorumina-l1518/shichiriadao-8-ri-jian-nopuraibeto-hudo-wainai-hao-jia-tsua-t142224/>

⁵⁶ THE THINKING TRAVELLAR (2023.2.19 閲覧) <https://www.thethinkingtraveller.com/italy/sicily/>

⁵⁷ Corte Aragonese (2023.2.19 閲覧) <http://www.agriturismocortearagonese.net/tour-enogastronomici/>

オープン」が開催され、イタリアのベストゴルフリゾートに選出、米国ゴルフ誌で「世界のベストゴルフリゾート」の19位にランクインしたこともある⁵⁸。ゴルフプレー後は美しい地中海を眺めながらレストランでワインや新鮮な魚介類を楽しみ、夜は豪華で快適なスイートルームでゆっくり疲れを癒すことができる。

8. サステナブルツーリズム⁵⁹

イタリアは年間を通じて世界中の観光客が集まるが、オーバーツーリズム問題が発生しているため、シチリアをはじめ各地で地方への集客へシフトする取り組みを始めている。

シチリアでは取り組みの1つとして、2009年に地域間プロジェクトを開始。取り組みの1つとして、地域内の自然保護区間を移動するヘリテージ・トレインを運行させた。シチリア島は、持続的な旅行が旅行者だけでなく、地域経済にとってもメリットがあることを理解し取り組みを進めている。

ユニークな取り組みとして「散在するホテル」を意味する **Albergo Diffuso** (アルベルゴ・ディフーズ) がある。これは、イタリアにおいて新しく宿泊施設を建てる代わりに歴史ある村内の建物をリノベーション、宿泊者向けの施設として利用するというものであり、シチリアでもいくつかの施設が存在する⁶⁰。

また、オリーブの木により二酸化炭素を土壌に貯蔵するといったカーボンオフセットの枠組みの活用⁶¹により、旅行業を含む企業や個人はオリーブ生産者から炭素クレジットを購入することができる新たな取り組みが存在する。

3) ヤド

地中海最大の島であるシチリア島は、ヨーロッパで最も魅力的な島の1つでもあり、温暖な気候のシチリア島は一年中季節ごとにそれぞれの魅力があり、富裕層向けの高級ホテルや高級ヴィラが数多く存在する。

表 14 シチリアにおける主な高級ホテルの一例⁶²

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Belmond Grand Hotel Timeo	カタールニア国際空港から車で約1時間	最上位スイート/約100万円/1泊(時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> シチリア島で最も有名な観光地タオルミーナの中心部にあり、エトナ山とタオルミーナ岬の景観が楽しめる。 レストランでは、シチリア料理と地中海料理を提供。
VERDURA RESORT ROCCO FORTE	パレルモ国際空港から車で約80分	最上位スイート/約100万円/1泊(時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> シチリア島の南海岸地中海に面している。 カイル・フィリップスによる世界クラスのゴルフコースに隣接。 レストランでは、新鮮なオーガニック食材を使用したシチリア料理を提供。
GRAND HOTEL VILLA IGIEA	パレルモ国際空港から車で約30分	最上位スイート/約50万円/1泊(時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 元々はプライベートヴィラとして建てられ、その後高級ホテルに変更 パレルモ市内の海岸沿いに位置し、地中海を見渡せる。

⁵⁸ GOF GLOBAL (2023.2.19 閲覧) <https://golf-global.jp/2208-16-373/>

⁵⁹ ECOTOURISM WORLD (2023.2.19 閲覧) <https://ecotourism-world.com/jp/sustainable-travel-for-vacations-in-italy2/>

⁶⁰ Residenze d'Epoca (2023.2.19 閲覧) https://www.residenzedepoca.it/alberghi_diffusi/sicilia/

⁶¹ Olive Oil Times (2023.2.19 閲覧)

<https://www.oliveoiltimes.com/production/carbon-credit-in-italy-provides-revenue-olive-growers/104740>

⁶² FIVE STAR ALLIANCE (2023.2.19 閲覧) <https://www.fivestaralliance.com/luxury-hotels/580/europe/italy/>

表 15 シチリアにおける主な高級ヴィラの一例⁶³

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Villa Aranjaya	カタールニア国際空港から車で約 30 分	1 棟貸 10 寝室 /約 450 万円/7 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・田園風景を一望、全室にアンティーク家具を使用、サウナ、屋外プール、テニスコート等併設。 ・パーソナルスタッフ、シェフ付き。
Villa Commenda di San Calogero 12	カタールニア国際空港から車で約 30 分	1 棟貸 12 寝室 /約 420 万円/7 週 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな自然遺跡 (エトナ等)、遺跡や建築芸術にも近い。 ・古代シチリアに沿って設計、ヴィンテージ家具や骨董品を使用、サウナ付きスパ、屋外プール等併設。 ・コンシェルジュやシェフ、ウェイターサービスあり。

4) アシ (空港からの二次交通)

各空港とホテルや観光地の間を高級送迎車で移動するサービスが存在する。また、ヘリコプター送迎を提供する事業者やラグジュアリー・ヨットチャーターも存在する。

シチリア島は比較的面積が広く、富裕層に人気のヤド (高級ホテルや高級ヴィラ)、ウリ (世界遺産、代表するビーチ) は、広域に点在しており、2つの代表的な空港からもかなり距離があるところが多く、チャーター・ヘリコプター等の提供例があるものと考えられる。

1. 高級送迎車

パレルモ、カタールニア国際空港からホテルや観光地等への豪華な送迎やシチリア島内のツアーのために豪華な車両 (メルセデス S クラス、V クラス等) を専属ドライバー付きで提供するリムジンサービスを提供している事業者⁶⁴がある。

2. チャーター・ヘリコプター

カタールニア、パレルモの両空港から各地への送迎を行うヘリコプターによるサービス⁶⁵が存在する。パレルモ国際空港から有名観光地のタオルミーナまで道路を車で移動すると 300km で約 3 時間 30 分のところ、ヘリコプターだと約 1 時間と大幅に時間短縮が図られる。空港からのヘリコプター送迎サービス等を有しているリゾートホテル⁶⁶ (パレルモ国際空港から 130km あり、車で 80 分以上掛かるが、ヘリコプターでは 20 分) もある。

3. ラグジュアリー・ヨットチャーター

シチリア島を中心に豪華ヨットで地中海最大の島々を航海する豪華なチャーターヨットを提供する事業者が存在する⁶⁷。それとは別に船内にて最高品質のシチリア産の新鮮な果物とワインを提供するものをはじめ、各種クルーズプログラムを提供する事業者が存在する⁶⁸。

5) ヒト

1. コンシェルジュを養成するスクール

イタリアは世界的規模でレストラン、旅行等の提案を提供するコンシェルジュサービスがあり、シチリアでも提供されているコンシェルジュを養成するスクールがある。また、ホテルコンシェルジュ連合のセクションで高級ホテル業界に必要なコンシェルジュの育成と認定

⁶³ myprivatevillas.com (2023.2.19 閲覧) <https://www.myprivatevillas.com/luxury/europe/italy/>

⁶⁴ PALERMO TRANSFER (2023.2.19 閲覧) <https://www.palermotransferlimousine.com/chi-siamo/>

⁶⁵ HeliSicily (2023.2.19 閲覧) <https://helisicily.com/>

⁶⁶ Verdura Resort (2023.2.19 閲覧)

<https://www.roccofortehotels.com/hotels-and-resorts/verdura-resort/experience-activities/helicopter-rides/>

⁶⁷ CREW CHARTER YACHTS (2023.1.23 閲覧) <https://yachtchartersicily.it/>

⁶⁸ SicilySpot (2023.1.23 閲覧) <https://www.sicilyspot.com/yacht-day-cruise/>

を専門とする協会が設立されている⁶⁹。

2. 観光ガイドの専門制度による資格認定

イタリア政府観光省により観光ガイドの専門制度による資格認定が2023年12月31日までの期限で実施されており、これまでにツアーガイドやツアーリーダーを含む9,000人以上のオペレーターが資格認定されている⁷⁰。シチリア島では考古学的な場所、美術館、カトリック教会等でガイドするためには州が認めた資格が必要である⁷¹。

3. 富裕層向けツアーオペレーターの存在

シチリアのDMC（当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う事業者）で高級旅行のオプションを専門とするツアーオペレーターが存在する。35年以上の経験、各方面にネットワークがあり、シチリアで富裕層のニーズに応じたサービスを提供し、ツアー全体を通して、地元の各方面の専門家が随行する⁷²。

6) コネ

1. 欧州観光指標システム（ETIS）の活用

欧州委員会にて、共通のアプローチを使用して、観光地が持続可能な観光パフォーマンスを監視および測定できるようにすることを目的として、欧州観光指標システム(ETIS)を導入し、シチリアでも活用されている⁷³。

2. イタリア政府観光省における取組

イタリア政府観光省では地方自治体、外務国際協力省、欧州機関等、業界団体および企業と協力して国家観光政策の計画、調整および推進を行っている⁷⁴。

国家復興・強靱化計画では、2021年7月13日のEU経済環境理事会の決定により承認された観光分野における投資プロジェクト「観光と文化」に合計20億ユーロが割り当てられている。企業の競争力を高め、環境の持続可能性、革新、サービスのデジタル化に基づく観光オファーを促進するという目的を持っている。

主な事業として、以下のとおり誘客向上のためのデジタルツーリズムハブの導入⁷⁵、税額控除ツール等による宿泊インフラの改善支援⁷⁶等が行われている。

誘客向上のためのデジタルツーリズムハブの導入として新しいデジタルサービス、データ分析、および観光客やオペレーターが活用するデジタルサービスに投資している。イタリア政府観光局が推進するポータルサイト『Italia.it』の改善等が主に想定されており、これにより多くの情報追加、観光客やオペレーターが利用できるサービスが拡大され、また特定の人々を対象としたテーマ別コンテンツが作成され、新たな顧客の開発が期待されている。

また、税額控除ツール等による宿泊インフラの改善支援として、環境の持続可能性と再開発を目的とした投資で観光客のおもてなしの質を高めることを目的に、宿泊施設を運営する企業の建物（ホテル施設のほか、アグリツーリズムを行う施設、スパ、アウトドア施設等）の改修、環境に配慮した持続可能な投資については80%の税額控除と最大50%および最大40,000ユーロ（さらに100,000ユーロ増額可能）の助成金が支払われている。

⁶⁹ UIPA SCHOOL (2023.2.19 閲覧)

https://www.lesclefsdor.it/wp-content/uploads/2022/01/1-Progetto-Formativo-FULL_compressed-1.pdf

⁷⁰ イタリア政府観光省 (2023.2.19 閲覧)

<https://www.ministeroturismo.gov.it/riforma-dellordinamento-professionale-delle-guide-turistiche/>

⁷¹ New Travel Services (2023.2.19 閲覧) <https://www.newtravelservices.net/en/1-167-local-guides>

⁷² TOUR OF SICILY (2023.2.25 閲覧) <https://www.touofsicily.com/luxury-sicily-tours/>

⁷³ EUROPEAN Commission (2023.2.19 閲覧)

https://single-market-economy.ec.europa.eu/sectors/tourism/offer/sustainable/indicators_en

⁷⁴ イタリア政府観光省 (2023.2.19 閲覧) <https://www.ministeroturismo.gov.it/ruolo-del-ministero-missione-e-funzioni-2/>

⁷⁵ イタリア政府観光省(2023.2.19 閲覧) <https://www.ministeroturismo.gov.it/tourism-digital-hub/>

⁷⁶ 税額控除 (2023.2.19 閲覧)

<https://www.ministeroturismo.gov.it/miglioramento-infrastrutture-di-ricettivita-attraverso-lo-strumento-del-tax-credit/>

第3節 サンモリッツ

サンモリッツは人口約 5000 人（2018 年）⁷⁷ 面積は約 28.7 km²（北海道ニセコ町の約 15%）である。スイスグラウビュンデン州、標高 1,822m の高地にあり、サンモリッツ湖の湖畔に位置するこの街は、アルプスに囲まれた高級山岳リゾート地である。

サンモリッツが人気となったのは、冬季オリンピックが 2 回開催されたためであるが、3,000 年前に鉱泉が発見され温泉地、避暑地として知られていた。1904 年に州都クールとサンモリッツを結ぶ世界遺産でもあるレーティッシュ鉄道アルブラ線が開通。

その後 1910 年にサンモリッツとイタリアのティラーノを結ぶベルニナ線も開通し、一年を通じて多くの観光客が訪れる人気の街となった。年間平均 320 日の晴天に恵まれ、澄んだ空気と気候が特徴である。



図 6 サンモリッツ位置図⁷⁸

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

1. エンガディン空港

エンガディン空港は、サンモリッツ市街地からちょうど 5km のところに位置する。標高 1,707m にあり、ヨーロッパでも特に標高が高い場所に位置する空港である。後述のとおりターミナルはなく、滑走路は 1800m が 1 本、運用時間は 8 時から 19 時（冬季は日没）であり⁷⁹、滑走路の長さが限られているため、大型機の商用フライトには適していないが、ビジネスジェット等やヘリコプターでは活用可能である。

2013 年～2017 年までの到着数⁸⁰は平均して年間約 7,500 であり、最も多いのはヘリコプターで全体の 45% の到着を占めビジネスジェット等は全体の 15% 程度である。なお、定期航空便は設定されていない。エンガディン空港とサンモリッツ市街地間は近距離（約 10 分）であるため、車両での移動が殆どである。また、ダボスに最も近い空港でもあるため、毎年 1 月の世界経済フォーラムの時期は需要が高くなり、VIP 用旅客機も駐機場等の空き状況に応じて運航されている。

なお、日本人建築士が運営する企業と、海外の企業により、エンガディン空港を改修するための計画⁸¹が存在するが、コロナウイルス等による影響により計画は大幅に遅延している。具体的な開発計画として、ターミナルは発着の場としてだけでなく、イベントや展示会開催時のホワイエとしても利用できるよう、通関や配送を伴うロジスティクス、オフィス、



図 7 サンモリッツ空港位置図⁷⁸

⁷⁷ スイス連邦統計局(2023.2.15 閲覧)

<https://www.bfs.admin.ch/bfs/de/home/statistiken/bevoelkerung.assetdetail.7966022.html>

⁷⁸ OpenStreetMap を加工し作成

⁷⁹ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/LSZS>

⁸⁰ Entwicklung Regionalflughafen Samedan (2023.2.15 閲覧)

https://www.engiadinota.ch/resources/Airport/Studienauftrag/Infra_praes_Infoveranstaltung_STA_180827_final.pdf

⁸¹ THE SKI GURU(2023.2.15 閲覧)

<https://www.the-ski-guru.com/2018/09/19/engadin-airport-europes-highest-revamped/>

レストラン、屋外テラス、ラウンジ、宿泊施設等が設計されている。

2. エンガディン空港の FBO 及びビジネスジェット等の状況

エンガディン空港においては定期航空便がないため、ターミナルやその運営は行っていないが、空港運営事業者にて FBO 機能と専用施設（ヘリコプター等利用者含む）を運用している。主なサービスとして、他の地域の FBO 運営事業者と同様に、給油、ハンドリングに加え、除雪氷作業、荷物輸送、通関サポート、ケータリング手配、送迎車や宿泊施設の手配などを提供している⁸²。

なお、コロナ禍前の 2017 年にエンガディン国際空港に到着したビジネスジェット等は表 16 のとおり 1,065 機で、出発地の分布としてうち欧州内からの到着数は、年間 1,038 機と全体の 97%を超える構成比であった。

表 16 エンガディン空港におけるビジネスジェット到着数（2017 年）⁸³

出発（領域）	出発（国別）	到着数	構成比
ヨーロッパ	United Kingdom	172	16.2%
	Germany	152	14.3%
	France	151	14.2%
	Switzerland	139	13.1%
	Italy	103	9.7%
	Austria	50	4.7%
	Russia	47	4.4%
	Czech Republic	39	3.7%
	Spain	39	3.7%
	Others（28 カ国）	146	13.7%
	合計(37 カ国)	1038	97.5%
北アメリカ	United States	11	1.0%
ラテンアメリカ	合計(3 カ国)	3	0.3%
アジア・中東	合計(6 カ国)	9	0.9%
アフリカ	合計(2 カ国)	4	0.4%
総合計		1065	-

なお、エンガディン空港を拠点とするビジネスジェット運営事業者は存在せず、スイスをはじめとしたヨーロッパ内の各事業者が活用されている。

本社がスイスのジュネーブにある事業者⁸⁴は、2012 年にプライベートジェットチャーターサービス、航空機管理、航空機取得コンサルティングを専門として設立され、カスタムメイドの体験を提供することに重点を置き、希望のグルメケータリングの要件が満たされた機内サービス、パリとジュネーブのオフィスより、フライトの詳細（航空機の位置、到着時間、天候の変化）を同僚や家族と共有するリアルタイムのフライト追跡サービスや、顧客対応のコンシェルジュサービスを行っている。また、サンモリッツの事業者とのネットワークにより、出発時または到着時にリムジンによる送迎、ビジネスジェット等やヘリコプターの手配、有名なホテルの予約やレストランでの食事、イベントの参加、VIP 対応の管理も手配できる。

⁸² ENGADIN AIRPORT AG(2023.2.15 閲覧) <https://www.engadin-airport.ch/>

⁸³ ANA 総合研究所にて WINGX（ドイツ Business Aviation 調査機関）データより作成

⁸⁴ IBC Aviation(2023.2.22 閲覧) <https://www.ibc-aviation.com/en/about-us.html>

2) ウリ

サンモリッツのウリである観光資源や各種ツーリズムは、スノーツーリズムが有名である。富裕層のニーズは、複合的なものになっており、スノーツーリズム、ウェルネスツーリズム、サステナブルツーリズム、世界遺産をはじめとした様々なウリが存在する。

1. スノーツーリズム

サンモリッツのスキー場は、3つのエリアに分かれており、車両または電車のいずれかでアクセスできる。また、スキー場とは別に近隣に150kmのトレイルがあり、クロスカントリーに非常に適したエリアで、これらも車両または電車でアクセスできる。

表17及び表18に示すように、ニセコ（北海道）と比較すると、サンモリッツのスキー場の滑走標高が1,700m以上高いことが分かる。パウダースノーのニセコと比較して、アスピリンスノーのサンモリッツだが、雪量によって造雪機を活用している。コース数やリフト数、最長コースを比較すると、その規模は殆ど変わらないことが分かる。

表 17 サンモリッツの3つのスキー場比較⁸⁵

	スキー場	滑走標高 (m)	コース数	リフト ゴンドラ	最長コース (km)
①	コルヴィリア	1,735～3,057	36	23	8.00
②	コルヴァッチ	1,797～3,303	26	14	5.00
③	ディアボレッツァ ラガルブ	2,093～3,006	25	5	10.00
	合計	-	87	42	-

表 18 ニセコ（北海道）4つのスキー場比較⁸⁶

	スキー場	滑走標高 (m)	コース数	リフト ゴンドラ	最長コース (km)
①	ニセコHANAZONO	308～1,308	11	3	3.30
②	ニセコグラン・ヒラフ	260～1,200	30	16	5.60
③	ニセコビレッジ	280～1,170	27	10	5.00
④	ニセコアンヌプリ国際	400～1,156	13	6	4.00
	合計	-	81	35	-

2. ウェルネスツーリズム⁸⁷

サンモリッツのウェルネス・スパはスキーやスノースポーツの後に、セラピーマッサージ、アロマバス、サウナセッション等で心と体をリラックスすることを目的とされている。

ベラビータプール&スパは、サンモリッツ空港から約6kmに位置し、マッサージゾーンには、リラクスマッサージ等などの提供がある。プールゾーンには、健康増進を目的として室内と屋外に温水プールを完備しており、子供が楽しめるエリアもある。また、新鮮でヘルシーな料理を専門とするビストロレストラン等も併設されている。

⁸⁵ Skiresort.info (2023.2.25 閲覧)データより作成 <https://www.skiresort.info/ski-resort/>

⁸⁶ Snoway (2023.2.25 閲覧)データより作成 <https://snoway.jp/gelände/hokkaido/hokkaido/niseko/>

⁸⁷ St.Moritz Switzerland TRAVEL (2023.2.25 閲覧) <https://www.stmoritzswitzerland.travel/activity/23-bellavita-pool-spa>

3. サステナブルツーリズム

世界がより持続可能なライフスタイルへと移行している現在、サンモリッツにあるホテル経営においても環境に配慮した最大限の取組を行っている。

取組の一例として長い年月をかけてエコに取り組んできたホテルが存在⁸⁸し、サンモリッツ湖から熱を抽出してホテルの暖房を確保し、多くのエネルギーを節約、地域の空気の質の改善に大きく貢献している。この新しいヒートポンププラントのおかげで、年間約 475,000 リットルの灯油が節約（CO2 排出量が 1,200 トン削減）され、ホテルの総エネルギー需要の 80%以上をカバーしている。地球を守るための更なる対策として、古い石炭のリサイクルや地産地消、寄付による食品廃棄物の削減にも成功している。

4. 世界遺産

サンモリッツはスイスを代表する特別列車、氷河急行（Glacier Express）とベルニナ急行（Bernina Express）という二つの路線が運行しており、2008年にこれらの路線そのものが世界遺産（鉄道関連の世界遺産⁸⁹としては世界で3例目）に登録されている。

氷河急行⁹⁰はベルニナ急行より豪華仕様で、エアクッションとエアコンを備えたパノラマカーである。車内は広々として快適で、6ヶ国語対応のオンボードインフォメーションシステムを備え、電車は夏季と冬季に毎日運行している。一部の鉄道駅にはエクセレンスクラス専用のチェックインデスクがあり、荷物を受け取り、シャンパンと旅を始めるための情報が提供され座席に案内される。専用のバーと、あらゆるニーズに応えるパーソナルコンシェルジュが存在している。食事は、列車の車内のキッチンで調理される郷土料理が含まれ、6つのコース料理が提供されている。

5. クラブカルチャー⁹¹

サンモリッツでは、ナイトライフを満喫させるためにホテル自体が主に施設を運営しており、ディスコとバー施設があるホテルや、3つの独立したバーがあるホテル等が存在する。

ホテル以外にも常駐ミュージシャンがいるクラブや、英国スタイルのパブがあるが、以前のような騒音のないオーバーツーリズムを意識した街並みとなっている。

6. ショッピング⁹²

富裕層は他では見つけられない限定品、入手困難な高級品を探しており、サンモリッツはブランドの本拠地となっている。ホテルの超豪華なパレスギャラリーが有名で、ゴールドングーススニーカーメーカーにて自分のアイテムを共創できる体験や、スキーウェアはもちろん高級時計とジュエリーなど、サンモリッツでしか購入できないものが多く存在し、スキーやアクティビティに興味のない家族も楽しめる。

7. アート&カルチャー⁹³

サンモリッツには旅行客をターゲットとした美術館、博物館が存在し、セガンティーニ美術館は、エンガディン地方の景色をモチーフにした作品を数多く残したイタリア人画家ジョヴァンニ・セガンティーニの美術館である。

エンガディン博物館は、エンガディン地方の家具や調度品、農業器具、衣装などを中心に約 2,300 点を展示しており、外観も伝統的なエンガディン地方の邸宅風の施設である。

⁸⁸ Luxurious magazine (2023.2.25 閲覧) <https://www.luxuriousmagazine.com/going-eco-badrutts-palace-hotel/>

⁸⁹ SWISSTOURS (2023.2.26 閲覧) https://www.swisstours.jp/area_stmoritz.html

⁹⁰ ALPENWILD (2023.2.26 閲覧) <https://www.alpenwild.com/staticpage/glacier-express-excellence-class/>

⁹¹ Frommer's (2023.2.26 閲覧) <https://www.frommers.com/destinations/st-moritz/nightlife/overview>

⁹² TOWER REVUE (2023.2.26 閲覧) <https://towerrevue.com/life-style/luxury-shopping-in-st-moritz/>

⁹³ SWISSTOURS (2023.2.26 閲覧) https://www.swisstours.jp/area_stmoritz.html

3) ヤド

サンモリッツを訪れる富裕層は、別荘等の所有がない場合、よりプライベート感のある一棟貸の高級シャレー、高級ホテル（最上級スイートルーム）に宿泊する傾向にある。

表 19 サンモリッツにおける高級シャレーの一例⁹⁴

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
CHESA LARET	空港から車で8分	1棟貸6寝室 /約1,500万円/7泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 最大12人収容、ベッド12台。 室内ジャグジー、サウナ、フィットネスルーム、暖炉、スキールーム付き 専用シェフとコンシェルジュ付き、別途ガイド手配等可能。
CHESA MUSI II	空港から車で9分	1棟貸6寝室 /約2,000万円/7泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 最大20人収容、ベッド20台。 屋内スイミングプール、マッサージルーム、フィットネスエリア、暖炉、ガレージ 駐車場9台分 専用シェフとコンシェルジュ付き、別途ガイド手配等可能

表 20 サンモリッツにおける高級ホテルの一例⁹⁵

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Carlton Hotel St. Moritz	空港から車で9分	最上級スイート /89万円~/1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 3ベッドルーム、リビング、暖炉 部屋からはサンモリッツ湖の景観 直通コンシェルジュ、スキーコンシェルジュ付き レストランはミシュランの2つ星
Badrutt's Palace Hotel St. Moritz	空港から車で9分	最上級スイート /85万円~/1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 3フロアに4つのベッドルーム、レイクビュー、リビングルーム、キッチン 1896年に創業し著名人が宿泊 直通コンシェルジュ、スキーコンシェルジュ付き

また、サンモリッツの居住用不動産市場⁹⁶は、スイスと他のヨーロッパ諸国の両方のバイヤーから、ヴィラやシャレーなどのあらゆる種類の高級不動産に対する高い需要が続いている。エンガディン渓谷の湖に囲まれた魅力的な環境は需要が高く、非常に高品質のアメニティを備えた物件が多く、これらヴィラやシャレーの不動産価格は、2018年には最大5,000万スイスフラン（約73億円）に達している。

2018年、サンモリッツの外国人顧客の割合は約30%で、バイヤーの大半はドイツとイタリアの企業であった。但し、エンガディン地方で不動産を取得する場合、国際的なバイヤーには制限があり、最大200㎡のスペースを持つ住宅のみを購入することが許可されている。

4) アシ（空港からの二次交通）

エンガディン空港から、サンモリッツ市街地までの移動時間は概ね10分以内と近距離であるため、富裕層向けのエンガディン空港と宿泊ホテルや観光地の間を送迎する高級車（専用のサービスを提供）が用意されている。

富裕層に人気のヤド（高級ホテルや高級1棟貸ヴィラ）、ウリ（代表するスキー場）は、

⁹⁴ Ski In Luxury (2023.2.26 閲覧) <https://www.skiinluxury.com/resorts/switzerland/st-moritz/luxury-chalets>

⁹⁵ ST.MORITZ HOTELS (2023.2.26 閲覧) <http://www.st-moritz-hotels.com/>

⁹⁶ E&V (2023.2.26 閲覧) <https://www.engelvoelkers.com/en/blog/property-insights/market-trends/sankt-moritz-demands-for-top-properties-and-villas-remain-high/>

エンガディン空港から南西に 15km、南東 15km まで扇形に広がっており、車移動で 10～30 分圏内である。宿泊の中心は、サンモリッツ市街に集中しており、エンガディン空港からは、6～9 分圏内と近距離である。

1. 高級送迎車

空港から宿泊場所や、サンモリッツ周辺の移動のため、豪華なチャーターサービス（ドライバー付き）を提供する事業者が存在⁹⁷している。特にスキーシーズンは、寒冷地に対応したスノータイヤ、四輪駆動、スキーを積める追加貨物用のラゲッジラックが標準装備であり、あらゆる道路状況でパワーと安全性を提供している。メルセデスの S クラスからスキー道具を載せる貨物・バスなどの車種も豊富に提供している。なお、送迎と時間貸しの 2 つの予約オプションを用意しており、料金に含まれるサービスは、ドライバー、空港担当者による到着時の空港送迎サービス、ガソリン、保険、すべての税金が含まれる。

また、地域に関する優れた知識を持ち、多言語に対応したドライバーが、要望に応じてゲートまたは手荷物受取所で待機、荷物を運ぶサービスや観光ツアーを提供する事業者⁹⁸も存在し、サンモリッツで利用可能なヘリコプターサービスとも連携している。

5) ヒト

サンモリッツは、スイスの戦略として、観光産業に携わる人材提供にも力を入れており、観光ガイドやプロインストラクターの育成⁹⁹を強化しサービスを提供している。

1. 観光ガイドやプロインストラクターの育成

サンモリッツでは、ツアーやエクスカッションがパーソナライズされているガイド付きツアーに参加することができる。セガンティーニ美術館、エンガディン博物館、Serlas（国際ブランドが集まっているセルラス通り）ショッピング等、富裕層にも対応できる様々なツアーに特化した地域のガイドスキルが育成されている。

またサンモリッツでは、スキーインストラクターの資格に細心の注意を払っており、膨大なスキースキルのトレーニングだけでなく、安全と子供たちの楽しい取り扱い、顧客志向の文化とエチケットをカバーしている。最高レベルのスキーとスノーボードの指導、フリーライディング中の顧客のガイドも行えるスキルを持っている。指導は、英語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語で 1 名から提供されている。

2. ベビーシッター、乳幼児教育の専門家の存在

サンモリッツには、大人が十分楽しめるように、ベビーシッター等が存在している。特徴なのは、主に保護者の不在時に、依頼先に出向いて、一時的に子どもの世話をを行うベビーシッターに対し、ベビーシッターの業務にプラスして、子どもの教育に数年単位で継続的に関わる教師的な側面を持つ「乳幼児教育の専門家（ナニー）」の存在がある。

6) コネ

サンモリッツにおける近年のプロモーションは、コロナ禍に影響を受けたスキーや観光需要回復に向けて、スイス連邦政府やサンモリッツ市が先頭に立ち、地域の事業者等を融合、戦略をプログラム化したものを展開している。

⁹⁷ Switzerland carservice (2023.2.26 閲覧)

<https://switzerland-carservice.com/zrh/zurich-airport-transfer/taxi-transfer-from-zurich-airport-to-st-moritz/>

⁹⁸ Group Need Limousine & Concierge Service (2023.3.01 閲覧)

<https://st-moritz-car-service-transportation.groupneed.ch/samedan-airport-transport-st-moritz/>

⁹⁹ St.Moritz Switzerland TRAVEL (2023.2.26 閲覧) <https://www.stmoritzswitzerland.travel/>

1. スイス連邦政府による観光戦略¹⁰⁰

スイスの観光産業が直面する課題に対処し、長期的に連邦政府の観光に対するビジョンを反映している。枠組みの条件を改善、起業家精神を促進しながら、デジタル化によってもたらされる機会を活用し、観光の魅力とスイスの市場での存在感を高めることが目的である。持続可能な開発を支援するという、新しい目標が戦略に追加され、観光に対する持続可能な開発の重要性が増していることと、それらがもたらす多くの機会が認識された。

観光戦略の資金調達手段は、Innotour（観光地、民間組織などのイノベーション過程をサポートするシンクタンク）、スイスホテルクレジット協会、スイス政府観光局、およびNRP（スイスにおける新しい地域政策であり、観光分野においては新しいオファーや革新的な商品の開発のサポート及び目的地間の連携プロジェクトを促進し、地域の付加価値を高める観光インフラへの資金提供も支援している）で、資金提供の申請は4年ごとに促進活動の派遣とともに、スイス連邦議会に提出される。スイス連邦議会は、現在の2020～2023年の期間に利用可能な資金として、スイス政府観光局には年間約5,750万スイスフラン、Innotourには年間750万スイスフランを割り当てており、スイスホテルクレジット協会は、2億3,000万スイスフランの無利子長期ローンでの連邦政府の支援を受けている。またNRPには、投資用に付与できる2億スイスフランの融資と、地域経済に影響を与えるプロジェクトに関連するサンクコスト（既に投資した事業から撤退しても回収できないコスト）をカバーするための1億2,000万スイスフランの助成金が用意された。

2. サンモリッツスポーツツーリズム戦略¹⁰¹

サンモリッツスポーツツーリズム戦略は、この地域のスポーツ関連の観光のレベルを高めることを目的として、サンモリッツ市によって作成および実施された包括的な計画で、観光客を誘致、維持するために、エリートアスリートにおけるウィンタースポーツの本拠地として、サンモリッツの世界的な評価を強化・構築するものである。サンモリッツは1928年に冬季オリンピックが開催され、続いて1948年に2回目の冬期オリンピックが開催され、サンモリッツは世界で最初の冬期オリンピックの複数回開催地となり、評価を受けている。

戦略は3本柱となっており、策定と実行は市のスポーツ、イベント、文化プログラムを所管する組織であるサンモリッツ市のスポーツイベント部門が行っている。

第1の柱は、国内および国際スポーツイベントの入札と開催で、これにより、市の知名度が国際的に高まり、サンモリッツがエリートスポーツ活動の主要な中心地であることを示すことができた。第2の柱は、エリートアスリートの準備に最適な場所として、マーケティングを中心に展開している。高地、質の高い施設、アクセスの容易さなどの主要な利点を活かし、世界最高のウィンタースポーツのエリートアスリートをこの地域に誘致してきた。

第3の柱は、インフラへの投資で、オリンピックにおける建造物等を改修し、最先端の機器を設置することで、エリートアスリートにおけるウィンタースポーツの分野における品質と専門知識の伝統的な中心地として、サンモリッツのイメージをさらに高めている。

市は毎年平均80～100のエリートアスリートのためのウィンタースポーツイベントを開催しており、エリートアスリートの準備に最適な場所になっており、直近の2年間に記録されたトレーニング活動におけるエリートアスリートの宿泊数は20,000泊以上であった。

¹⁰⁰ 国家経済事務局 (2023.2.26 閲覧)

<https://www.oecd-ilibrary.org/sites/50e854cd-en/index.html?itemId=/content/component/50e854cd-en>
観光戦略(2023.2.26 閲覧)

<https://www.seco.admin.ch/dam/seco/en/dokumente/Standortfoerderung/Tourismus/Tourismusstrategie%2025.10.2022.pdf.download.pdf/Tourismusstrategie%2025.10.2022.pdf>

¹⁰¹ 世界オリンピック都市連合(2023.2.26 閲覧) <https://www.olympiccities.org/st-moritz-sport-tourism-strategy/>

第4節 アスペン

アスペンの人口は、6,949人（2020年）¹⁰²、面積は約9.1km²（北海道ニセコ町の20分の1）である。アスペンは、図8に示すようにアメリカ合衆国コロラド州西部、ロッキー山脈に位置する都市で、19世紀後期に銀鉱山の町として発展したが、1893年の恐慌の影響で銀の生産量は激減、街は寂れていった。20世紀中盤に入ると、この地の良質な雪質を活かしたスキーリゾートとして生まれ変わり、20世紀後半に入ると、富裕層や芸能人などがアスペンに住居や別荘を構えるようになり、高級ブランドのブティック等が立ち並ぶ高級リゾート地となった。アスペンの気候は高山性で、気温の年較差と日較差がともに大きく、平均気温だけを見ると冷涼な夏と寒さの厳しい冬に特徴付けられる亜寒帯性の気候である。



図8 アスペン位置図¹⁰³

1) 空港概要・FBO及びビジネスジェット等の状況

1. ピッキン・カウンティ空港

ピッキン・カウンティ空港は、アスペン市街地から車で10分程の近距離に位置しており、定期便は季節運航が大半である。空港運用時間は7時から23時、一般旅客ターミナルが1つであるが、後述のとおりビジネスジェット等の専用施設が別にある。滑走路は2,440mが1本で、アスペンの町からわずか5kmの近距離に位置する¹⁰⁴。繁忙期には3分に1機程度離着陸するほどの忙しい空港で、その多くはビジネスジェット等である。中型機・大型機では滑走路の長さ、幅が足りず運航できないため、各社がリージョナル航空事業者へ委託するという形態をとっている。また南側にそびえる山が障害となり、一本しかない滑走路を、一方通行でしか使えない空港である。

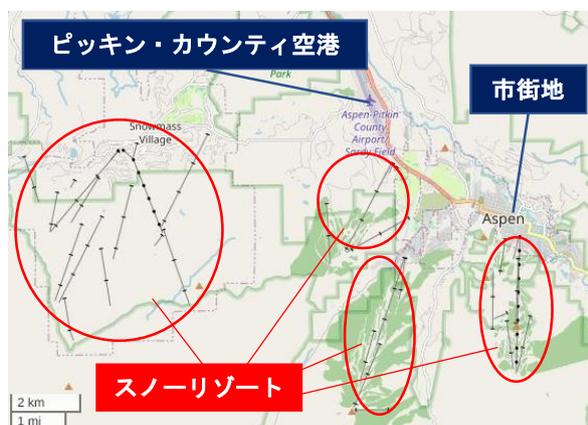


図9 アスペン空港位置図¹⁰³

2023年スキーシーズンにおいて、各航空各社（アメリカン、ユナイテッド、デルタ）は、ロサンゼルス、サンフランシスコ、フェニックス、デンバー、シカゴ、ヒューストン、ダラス等の路線（直行便）¹⁰⁵を運航している。

2. ピッキン・カウンティ空港 FBO 及びビジネスジェット等の状況

米国30州に65を超えるFBOを擁する空港サービス事業者が、ピッキン・カウンティ空港においてFBOを運営¹⁰⁶している。

美しい丸太小屋スタイルのビジネスジェット等の専用施設があり、提供サービスは、給油およびハンドリング、地上輸送、手荷物サービス、ケータリング、大型格納庫、除氷、ラン

¹⁰² 米国国税調査局データ(2023.2.15 閲覧)

<https://www.census.gov/programs-surveys/decennial-census/about/rdo/summary-files.html>

¹⁰³ OpenStreetMap を加工し作成

¹⁰⁴ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/KASE>

¹⁰⁵ FLY TEAM AVIATION COMMUNITY(2023.2.21 閲覧) https://flyteam.jp/airport/aspden-pitkin-county-airport/airline_route

¹⁰⁶ Atlantic Aviation Aspen(2023.2.08 閲覧) <https://aviapages.com/fbo/atlantic-aviation-aspden/>

プスペースなど、幅広い航空機の地上処理および飛行サポートや各種サービスを提供している。

なお、FBO では、検証可能なカーボンオフセットを使用して、使用される燃料の 100% のオフセットを開始、ピッキン・カウンティ空港から出発するすべてのフライトの一部に SAF (Sustainable Aviation Fuel) の利用を開始した¹⁰⁷。

なお、コロナ禍前の 2017 年にピッキン・カウンティ空港に到着したビジネスジェット等は、表 21 のとおり 10,971 機だったが、出発地の分布としてうち米国内からの到着数は、年間 10,781 と全体の 98% を超える構成比であった。

表 21 ピッキン・カウンティ空港におけるビジネスジェット到着数 (2017 年)¹⁰⁸

出発 (領域)	出発 (国別)	到着数	構成比
北アメリカ	US	10781	98.3%
ラテンアメリカ	Brazil	103	0.9%
	Colombia	29	0.3%
	Venezuela	24	0.2%
	Others (5 カ国)	13	0.1%
	合計(8 カ国)	169	1.5%
アジア・太平洋	Australia	11	0.1%
	Japan	1	0.0%
	Indonesia	1	0.0%
	合計(3 カ国)	13	0.1%
中東・その他	合計(2 カ国)	8	1.1%
総合計		10971	-

なお、アスペンにおけるビジネスジェット等の状況として、ビジネスジェット等の機体を所有、アスペンを市場とし米国内 10 都市を結ぶ事業者があり¹⁰⁹、保有する ERJ-190 を、ソーシャルディスタンスを確保した 30 席のエグゼクティブ構成に改装し、輸送サービスを提供している。また、乗客ペット用のペットラウンジ等のサービスも提供している。

また、2006 年にコロラド州アスペンで設立され、ニューヨーク市に本社を置く事業者があり¹¹⁰、ビジネスジェット機材等を保有しており、最大 18 名乗りの機材を提供している。

2) ウリ

アスペンのウリである観光資源や各種ツーリズムは、サンモリッツ同様スノーツーリズムが有名である。富裕層のニーズは、複合的なものになっており、スノーツーリズム、ウェルネスツーリズム、サステナブルツーリズムをはじめとした様々なウリが存在する。

1. スノーツーリズム¹¹¹

アスペンを代表するスキー場は 4 エリア、スノーマス、アスペンマウンテン、アスペンハイランズ、バターミルクが存在し、アスペンスキーカンパニーが、これらのスキー場を運営している。アスペンの市街地から車両等にてアクセスし、ゴンドラで絶景を堪能しながら山

¹⁰⁷ Atlantic Aviation Aspen(2023.2.16 閲覧)

<https://www.atlanticaviation.com/news/atlantic-aviation-announces-new-carbon-offset-program-at-aspen-fbo>

¹⁰⁸ ANA 総合研究所にて WINGX (ドイツ Business Aviation 調査機関) データより作成

¹⁰⁹ aspenJet(2023.2.08 閲覧) <https://www.aspenjet.net>

¹¹⁰ EVOJETS(2023.2.08 閲覧) <https://www.evojets.com>

¹¹¹ ASPEN SNOWMASS(2023.2.08 閲覧) <https://www.aspensnowmass.com/>

頂に行くことができ、湿度が低いため雪質はパウダースノー、快適な条件でスキーを満喫できる。表 22 及び表 23 に示すように、アスペンを北海道のニセコと比較すると、滑走路面積が約 6 倍、コース数が約 4 倍、滑走標高が 2,000m 以上高いことが分かる。

表 22 アスペンの 4 つのスキー場比較¹¹²

	スキー場	滑走路 面積 (ha)	滑走標高 (m)	コース数	リフト ゴンドラ	最長コース (km)
①	スノーマス	1,348	2,264~3,607	94	21	8.50
②	アスペンマウンテン	273	2,422~3,418	76	8	4.83
③	アスペンハイランズ	421	2,669~3,777	122	5	5.63
④	バターミルク	190	2,400~3,018	44	9	4.80
	合計	2,232	-	336	43	-

表 23 ニセコ（北海道）4 つのスキー場比較¹¹³

	スキー場	滑走路 面積 (ha)	滑走標高 (m)	コース数	リフト ゴンドラ	最長コース (km)
①	ニセコHANAZONO	56	308~1,308	11	3	3.30
②	ニセコグラン・ヒラフ	135	260~1,200	30	16	5.60
③	ニセコビレッジ	90	280~1,170	27	10	5.00
④	ニセコアンヌプリ国際	84	400~1,156	13	6	4.00
	合計	365	-	81	35	-

また、アスペンの各スキー場においては、表 24 のとおり世界的なスノーイベントが開催されている。

表 24 アスペン・スノーイベント一覧¹¹⁴

スキー場	イベント名	詳細
スノーマス	NASTAR National Championships	スノースポーツ世界大会
アスペンマウンテン	Audi FIS Ski World Cup	スノースポーツ世界大会
アスペンハイランズ	Audi Power of Four Ski Mountaineering	スキー世界耐久レース
	Town Race Series	スキータウンレース
バターミルク	X Games Aspen	スノースポーツ世界大会

2. ウェルネスツーリズム

コロラド州を代表するグレンウッド・スプリングスは、アスペンからは北へ 60 キロ、車で 1 時間の場所にあり、アスペンからの日帰り温泉としても多く利用されており、世界最大の温泉プールと多種多様なアクティビティが楽しめる観光スポットとなっている。ミネラル豊富な天然水、世界最大の温泉プールだけでなく、モダンで快適なロッジ、プールサイドグリル、フィットネス施設、ブティックなどがある。

¹¹² Link-USA より作成 http://www.link-usa.jp/us-dictionary/archives/2015/03/20_184719.html

¹¹³ Snoway データより作成 <https://snoway.jp/gelande/hokkaido/hokkaido/niseko/>

¹¹⁴ ASPEN SNOWMASS (2023.2.13 閲覧) <https://www.aspensnowmass.com/>

3. サステナブルツーリズム

アスペンは近年オーバーツーリズムを改善し、持続可能な生活の場を構築する富裕層のステータスシンボルとなり、アスペンを好むウェルネスブレイク¹¹⁵の場となっている。また、アスペンを含め壮大な自然を主に活用しウリを提供しているコロラド州では、観光面でもアメリカの自然の保護や持続可能性を意識した取り組みが推進されている。

非営利の環境科学教育組織であるアスペン環境研究センター(ACES)¹¹⁶は、環境意識を高めるための国家課題に貢献するため、環境科学教育、生態学的リテラシー、持続可能な農業、森林と生態系の健康、土地の回復、環境リーダーシップに焦点を当てたツーリズムプログラム、70の連携事業者とともに、キッズキャンプ、大人向けのクラス、ガイド付きハイキング等、あらゆる年齢層向けのプランを、毎年14万人以上に提供している。

4. クラブカルチャー¹¹⁷

アスペンではコンサートホール兼ライブミュージック会場が存在し、音楽活動等が盛んに行われており、有名なミュージシャンにより、年間300以上のコンサートを開催している。その他、スキータウンホテルラウンジやワインバーなどがある。

5. ショッピング¹¹⁸

アスペンは、スキー用品の新作アップグレードができる他、ファッションや美容、アクセサリーに至るまで最高級ブランド商品が、富裕層向けにラインナップされている。美術ギャラリーも多く、現代の巨匠の作品を含む崇高なコレクションが購入できる。その他アスペンは食通の宝庫であり、チーズや、チョコレートファクトリー、ワイン、リキュール、クラフトビールなども富裕層が長期滞在するために必要なファクターとなっている。

6. アドベンチャーツーリズム

自然保護区での冬期のファットバイクのみならず、夏期のフラットウォーターカヌー、フィットネスハイキングなどのアドベンチャースポーツプログラム¹¹⁹が設計され、冬のスキーだけでなく、夏場のアスペン誘客拡大策が強化されてきた。またアスペンマウンテン、アスペンスノーマスエリアの遊覧飛行¹²⁰やパラグライダー¹²¹も人気である。

7. 世界遺産

アスペンには世界遺産は存在していないが、車で5時間30分の距離に、1978年に世界で最初に世界遺産に登録された12の世界遺産の一つ、メサ・ヴェルデ国立公園がある。

8. アート&カルチャー

1889年に設立されたオペラハウス¹²²があり、年間を通じてコンサート、スタンダップコメディ、映画祭、その他のイベントが開催される。また日本人建築家が設計した建築物であるアスペン美術館¹²³は、国際的な現代美術のインスタレーションを展示しており、教育プログラム含めて無料となっている。

3) ヤド

アスペンを訪れる富裕層は、別荘等の所有がない場合、よりプライベート感のある一棟貸の高級ヴィラ、高級ホテル（最上級スイートルーム）に宿泊する傾向にある。

¹¹⁵ Luxury TRAVEL ADVISOR (2023.2.08 閲覧) <https://www.luxurytraveladvisor.com/>

¹¹⁶ ACES (2023.2.16 閲覧) <https://aspennature.org/about/>

¹¹⁷ Belly Up Aspen (2023.2.13 閲覧) <https://bellyupaspen.com/>

¹¹⁸ ASPEN SNOWMASS (2023.2.13 閲覧) <https://www.aspensnowmass.com/>

¹¹⁹ SUN DOG ATHLETICS(2023.2.13 閲覧) <https://www.sundogathletics.com/>

¹²⁰ SoarAspen(2023.2.13 閲覧) <https://soaraspen.com/>

¹²¹ ASPEN PARAGLIDING(2023.2.13 閲覧) <https://www.aspenparagliding.com/>

¹²² WHEELER OPERA HOUSE(2023.2.16 閲覧) <https://wheeleroperahouse.com/>

¹²³ Aspen Art Museum(2023.2.16 閲覧) <https://www.aspenartmuseum.org/>

また、アスペンは、新たな定住・多重拠点生活者のターゲットとなっており、ニューヨークの金融業界エリートの割合が高く、フロリダ州のパームビーチやマイアミと同様、富裕なビジネス界の大物の流入が発生している¹²⁴。地域の学校は転入者の子供の増加で膨れ上がり、高級不動産への需要の高まりにより、富裕層目当てに飲食店や小売店が進出してきている。一戸建て住宅価格（中央値）は、2022年上期にて1,320万US\$で、前年から35%上昇した。

表 25 アスペンにおける高級ヴィラの一例¹²⁵

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
The Mother Lode	空港から車で9分	1棟貸5寝室 /約2000万円~17泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 最大10人収容、ベッド5台 キッチン、暖炉、ホームシアター、スパ、ホームジム、ガレージ等付き 追加料金でアクティビティ、専用シェフ等手配可能
Lumin 2	空港から車で14分	1棟貸3寝室 /約300万円~15泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 最大8人収容、ベッド6台 キッチン、暖炉、ホームシアター、スパ、ホームジム、ガレージ等付き 追加料金でベビーシッター、アクティビティ、専用シェフ、警備員等手配可能
Luxurious Core Townhome	空港から車で11分	1棟貸3寝室 /約340万円~17泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 最大8人収容、ベッド6台 キッチン、暖炉、ホームシアター、スパ、ホームジム、ガレージ等付き 追加料金でベビーシッター、アクティビティ、専用シェフ、警備員等手配可能

表 26 アスペンにおける高級ホテルの一例

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Hotel Jerome ¹²⁶	空港から車で7分	最上級スイート /約52万円~1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> キッチン、暖炉、プール、スパ、フィットネスセンター等付き 直通コンシェルジュ、スキーコンシェルジュ付き
The St.Regis Aspen Resort ¹²⁷	空港から車で8分	最上級スイート /約48万円~1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> キッチン、暖炉、プール、スパ、フィットネスセンター等 直通コンシェルジュ付き

4) アシ（空港からの二次交通）

ピッキン・カウンティ空港と宿泊ホテルや観光地の間が近距離であることから、富裕層向けの高級送迎車が用意されている。富裕層に人気のヤド、ウリは、ピッキン・カウンティ空港から西に10km、南東10kmと非常に狭い範囲に存在しており、概ね車で15分圏内である。

1. 高級送迎車¹²⁸

ピッキン・カウンティ空港から宿泊場所や、アスペン周辺のツアー等を訪れるためにも、高級送迎車のチャーターサービス（ドライバー付きレンタル）を提供する事業者が存在する。特にスキーシーズンは、寒冷地に対応したスノータイヤ、スキー板を積める追加貨物用

¹²⁴ Bloomberg(2023.2.14 閲覧) <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2022-09-02/RHGAUFDWLU6801>

¹²⁵ Airbnb (2023.2.14 閲覧) <https://www.airbnb.com/aspen-co/stays/luxury>

¹²⁶ auberge resorts (2023.2.14 閲覧) <https://aubegeresorts.com/hoteljerome/>

¹²⁷ The St. Regis Aspen Resort (2023.2.14 閲覧) <https://www.marriott.com/en-us/hotels/asexr-the-st-regis-aspen-resort/>

¹²⁸ Aspen Luxury Limo(2023.2.14 閲覧) <https://www.aspenluxurylimo.com/services>

のラゲッジラックが標準装備であり、あらゆる道路状況におけるパワーと安全性を提供しており、リムジンコーチ（13名）シリーズ等が提供している。提供サービスは、ドライバー、空港担当者による出迎えサービス、ガソリン、保険等が含まれる。

5) ヒト

アスペンはコロラド州及びアスペン市の戦略として、観光産業に携わる人材育成にも力を入れてきた。特徴的なものとして、観光ガイドやプロインストラクターの育成を強化しサービスを提供している。

アスペンに存在する観光ガイド事業者の一つは、**Emergency wilderness medicine**（緊急を要する荒野での医療）の認定を受けているプロのガイドがバックカントリースキー旅行、クロスカントリースキーレッスン、冬のスノーシューアドベンチャーを提供している¹²⁹。

また、スキー及びスノーボードのインストラクター事業者においても¹³⁰、単なるインストラクターではなく、4つのスキー場のガイド的役割を果たしており、レッスン内容はプライベートから大人、子供、ティーン、障害者向けと細分化されており、短時間だけでなく数日間のキャンププログラムまであり、そのためのインストラクター育成が行われている。その他、大人が充分楽しめるよう、チャイルドケア施設も併せて運営しており、幼児、未就学児（4歳まで）を対象とし育児ケアも行われている。

6) コネ

アスペンにおける近年のプロモーションは、コロナ禍に影響を受けたスキーや観光需要回復に向けて、アスペン市や地域の企業を融合、戦略をプログラム化したものを展開している。また単なる観光資源のアピールに留まらず、再生可能エネルギー100%利用をアスペン市が宣言し、それらをベースにしたサステナブルツーリズムが最大の特徴となっている。

1. 再スタートプログラム（コロラド州政府観光局とアスペン市の協力体制）¹³¹

コロラド州政府観光局は、米国経済開発局による240万US\$のCARES Act Recovery Assistance（助成金）によって、28の地域で再スタートプログラムを開始し、アスペンはその1つとして承認された。プログラムの目的は、コロナの影響を受けたアスペンを復興させるべく観光関係者を招集し、観光キャンペーンを開始するためのアスペンデスティネーションマネジメントプランを立案することにあった。推進すべき優先事項は、オフピーク観光機会の促進、観光労働力の向上、観光価値の擁護、来訪者の経験を発展、包括的な旅行機会の促進、ビジネスや体験を宣伝することにあった。アスペンにおいては、ビジネスコミュニティをサポートし、来訪者の体験を向上させることを専門とする非営利団体ACRA（Aspen Chamber Resort Association）が、アスペン商工会議所と約750以上の地元企業、コンベンションビューロー等の融合体として発足した。ACRAのマーケティング活動は、アスペン市で徴収される2%の宿泊税の75%によって賄われている。

2. 再生可能エネルギー100%宣言（アスペン市）¹³²

アスペン市は、市のすべてのエネルギーを再生可能エネルギーで賄うことを宣言した。米国内で、都市のエネルギーを100%切り替えたのは3番目となる。市の環境部局によると、同市の再生可能エネルギー・ポートフォリオの中心は、風力発電と水力発電で、さらに太陽光と地熱発電が補助的に活用されている。

¹²⁹ Aspen Alpine Guides(2023.2.14 閲覧) <https://www.aspenalpine.com/>

¹³⁰ ASPEN SNOWMASS (2023.2.13 閲覧) <https://www.aspensnowmass.com/visit/lessons>

¹³¹ コロラド州(2023.2.14 閲覧) <https://oedit.colorado.gov/es/node/25596>

¹³² (一社) 環境金融研究機構(2023.2.14 閲覧) <https://rief-jp.org/ct10/54904>

3. ケア・フォー・コロラド (コロラド州政府観光局)¹³³

コロラド州政府観光局は「ケア・フォー・コロラド (Care For Colorado)」¹³⁴というプロジェクトを始動し、コロラドを訪れる旅行者に向けてアメリカの自然と正しく関わる方法をウェブサイトやポスター、パンフレットなど様々な媒体で分かりやすく提示し、森林や野生動物などの自然環境に負担をかけることなく観光を推進する取り組みとなっている。

4. 米国軍人向け Challenge Aspen Military Opportunities (CAMO)

寄付者、スポンサー、助成金によりにより運営されている事業者である Challenge Aspen¹³⁵にて、承認された米国軍人に無料で CAMO プログラムを提供している。このプログラムは、現役の軍人や退役軍人に、適応型のレクリエーションやウェルネスの実践を通じて癒しを見つけていただくもので、順応性のあるアウトドアレクリエーションスキルを教え、個々に応じたウェルネスセッションを提供し、社会的交流を促進するように設計された、2日以上にわたって行われる総合的なレクリエーションやウェルネスのプログラムとなっている。

この他にも4つのスキー場を運営するアスペンスキーカンパニーは、米国の退役軍人が利用できる特別な特典を提供している¹³⁶。一例として米国陸軍のすべての現役および予備軍要員とその扶養家族は、割引シーズンパスを利用できる。すべての退役軍人と現役軍人がこの国に示した献身とコミットメントに畏敬の念を抱いてできたプログラムであることを、米国内にアピールしている。

5. エコ (カーボンオフセット) と新たなビジネスに向けた投資¹³⁷

アスペンスキーカンパニーは、関連企業と提携して、アスペンから1時間離れたコロラド州サマセットの石炭工場から廃棄されるメタンを使用可能な電力に変換し、温室効果ガスの排出を削減することに成功した。このプロジェクトが開始されて以来、年間2,500億立方フィートのメタンが大気中に排出されるのを防ぎ、地球温暖化に関する大きな問題を緩和している。これは、1年間で517,000台の乗用車を道路から撤去することに相当する。

このメタンから電気への変換による電力と炭素クレジットの販売により、月あたり100,000 ~ 150,000 US\$の収益を生み出している。ほぼ10年が経過した現在、アスペンスキーカンパニーが初期投資した534万US\$の完済まで残り約75万US\$となっており、この投資が他の企業や地方自治体にとって、実行可能なプロジェクトであったことを証明している。

¹³³ ECOTOURISM WORLD (2023.2.16 閲覧) <https://ecotourism-world.com/jp/ecotourism-in-colorado/>

¹³⁴ コロラド州政府観光局(2023.2.16 閲覧) <https://www.colorado.com/CareForColorado>

¹³⁵ CHALLENGE ASPEN (2023.2.17 閲覧) <https://challengeaspen.org/military-opportunities/>

¹³⁶ ASPEN SNOWMASS (2023.2.17 閲覧)

<https://www.aspensnowmass.com/discover/who-we-are/philanthropy/commitment-to-veterans>

¹³⁷ ASPEN SNOWMASS (2023.2.17 閲覧)

<https://www.aspensnowmass.com/discover/experiences/stories/capturing-coal-methane-to-power-operations>

第5節 プーケット

プーケットの人口は約 42 万人（2019 年）¹³⁸
プーケット島の面積は約 543 km²（淡路島とほぼ同じ／沖縄本島の約半分）である。

タイ南部のアンダマン海に面するタイ最大の島で、エメラルドグリーン的大海と真っ白な砂浜の美しさから「アンダマン海の真珠」と称されており、年間を通してビーチリゾートやマリンスポーツが楽しめるほか、様々なアクティビティを体験することができる。

タイと日本の国際観光客到着数及び国際観光収入（2019 年）を比較すると、タイの国際観光客到着数は、3827 万 7000 人、世界第 9 位で世界シェア 11.0%（なお、日本は約 3119 万人で第 11 位）であり、また国際観光収入は 630 億 4200 万 US\$、世界第 4 位（なお、日本は約 411 億 US\$ で 9 位）であった。また、訪タイ外国人旅行者の国別ランキング（2019 年）のトップ 5 は、中国、マレーシア、インド、韓国、ラオス（日本は 6 位）の順である¹⁴⁰。

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

1. プーケット国際空港

プーケット国際空港はタイ国内のみならずアジアやヨーロッパ各地から多くの定期便が就航する。2019 年の旅客数は 1,811 万人¹⁴¹でタイの空港では 3 番目であり、旅客ターミナルは、チャーター専用、国際線、国内線の 3 棟があり、全体で年間 2,000 万人の旅客を扱うことができる。滑走路は 3000m が 1 本、24 時間空港である¹⁴²。

プーケット市街地へは一般的にはバス、タクシー、レンタカーでの移動となり、所要時間は約 1 時間程度である。

2. プーケット国際空港の FBO 及びビジネスジェット等の状況

旅客ターミナルとは別に 2021 年に正式にオープンしたビジネスジェット等の専用施設が空港の北側に位置し、1,200 m²のターミナルビル、7000 m²の格納庫スペース、12000 m²の駐車エプロンがあり、格納庫はボーイングビジネスジェットやエアバスコルセトジェットなどの大型ビジネスジェット機を収容できる¹⁴³。

FBO は、国際線は 45 分、国内線の場合は 30 分で、乗客と乗務員を空港に出入りさせることができ、英語、タイ語、北京語にてフライト計画、ケータリング、ホテルの宿泊施設、地上輸送等を調整できる。また格納庫や各種サービスは事前に通知することで利用できる。

また、ビジネスジェットオペレーター、航空チャーターブローカー、フライトサポート事業者等を対象に、専用施設における乗務員と乗客の地上輸送のニーズをカバーしており、24 時間のカスタマーサポート、多言語での対応を可能にしている。



図 10 プーケット位置図¹³⁹



図 11 プーケット空港位置図¹³⁹

¹³⁸ タイ内務省発表による 2019 年の州レベルでの人口統計より(2023.1.23 閲覧)

<https://stat.bora.dopa.go.th/stat/statnew/statMenu/newStat/home.php>

¹³⁹ OpenStreetMap を加工し作成

¹⁴⁰ International Tourism Highlights 2019 Edition 2019(2023.1.23 閲覧) <http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/508.pdf>

¹⁴¹ AOT Annual Airport 2019 (2023.2.14 閲覧) <https://www.airportthai.co.th/wp-content/uploads/2020/08/Report-2019.pdf>

¹⁴² AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/VTSP>

¹⁴³ SIAM LAND (2023.2.14 閲覧) <https://siamlandpjt.com/>

タイには複数のビジネスジェット等の運航事業者があるが、その内の一つ¹⁴⁴は、バンコクのドンムアン国際空港に同国初の FBO を開設し、東南アジアの国全体で高まるビジネス航空の需要を開拓、乗客とパイロット用の施設としてエグゼクティブラウンジを保有している。また、乗務員は5つ星ホテルにてトレーニングされており、機内での高級サービスを提供している。その他運航事業者の中には、ビジネスやレジャーだけでなく救急医療サービスも提供し、医療チームと一緒に24時間利用できるものや、主に米国、ヨーロッパ、中国からの顧客向けにチャーターを運営している事業者、運転手付きの送迎から機内食、宿泊予約ができる事業者が存在する。

なお、ビジネスジェット等の到着数は、表27のとおりバンコクのドンムアン国際空港への到着が圧倒的に大きい中、プーケット国際空港はタイ国内の約2割程度である。またコロナ前の2019年をピークとすると、2017年から徐々に到着数は拡大していたが、2020年以降はコロナの影響を大きく受けて減少したことがわかる。

表 27 タイ主要各空港におけるビジネスジェット等到着数¹⁴⁵

INTERNATIONAL FLIGHTS	【Business & VIP Aviation】				
	2017	2018	2019	2020	2021
空港到着数（年間）					
プーケット国際空港	455	649	751	372	160
スワンナプーム国際空港	35	24	25	10	8
ドンムアン国際空港	2,884	3,029	3,240	1,137	662
チェンマイ国際空港	86	94	94	42	10
4 空港合計	3,460	3,796	4,110	1,561	840
プーケット国際空港2019年対比	-39%	-14%	0%	-50%	-79%

2) ウリ

プーケットのウリである観光資源や各種ツーリズムは多岐に渡るため、ニーズは、複合的なものになっているが、主にビーチ、医療ツーリズム、ウェルネス・スパツーリズムをはじめとした様々なウリが存在する。

1. ビーチ¹⁴⁶

プーケットの西岸には、アンダマン海の真珠と称される個性的なビーチが南北に連なっている。いつも観光客で賑わい昼も夜も楽しめるパトンビーチや高級リゾートが建ち並ぶ「ラグーナ・プーケット」を有するバンタオビーチがある。その他、海洋国立公園に指定され、珊瑚礁でのシュノーケリングやキャンプもできるナイヤンビーチ、透明度の高い海水とグリーンシーズンの波質がサーファーたちに人気のカタビーチ、タイで最も美しい夕陽が眺められるといわれているプロムテープ岬に近いナイハンビーチなど、どのビーチも海はエメラルド色に輝き、ダイビングをはじめとした多彩なアクティビティを可能にしている。

2. 医療ツーリズム

以下のとおりタイはプーケットをはじめとして、医療ツーリズムに非常に力を入れており、医療ツーリズム目的の観光客も多い。

a) プーケットにおける医療ツーリズム

- ・プーケットを「世界医療観光ハブ」に育成する試み¹⁴⁷

タイ国政府は、プーケットを「世界医療観光ハブ (World Medical Tourism Hub)」 に育

¹⁴⁴ MJETS(2023.1.23 閲覧) <https://www.mjets.com/>

¹⁴⁵ AOT Annual Airport データを加工し作成

<https://www.airportthai.co.th/en/airports-of-thailand-plc/about-aot/air-transport-statistic/>

¹⁴⁶ タイ国政府観光庁(2023.1.23 閲覧) <https://www.thailandtravel.or.jp/areainfo/phuket/>

¹⁴⁷ THAILAND HYPERLINKS (2023.2.1 閲覧) <https://www.thaich.net/news/20220306zr.htm>

成するとしている。プーケットの医療サービスセンターには、国際保健医療プラザ、ホスピスホーム、リハビリテーションセンター等が含まれる。

- ・医療ツーリズム受け入れで、更に4つの空港を使用可能¹⁴⁸

これまで医療目的の外国人旅行者のタイ入国は、バンコクの主要2空港のみに許可が出されていたが、その対象が広げられた。健康関連サービス推進局は、2020年10月2日、医療目的の外国人旅行者に、さらにプーケット空港を含む4つの空港を開く方針を承認した。

b) タイ全体の医療ツーリズム

- ・国家戦略としてのメディカルツーリズムの変遷¹⁴⁹

2004年、タイ国政府は「タイをアジアの医療拠点として開発する」ことを掲げ、そのための5ヵ年計画を策定し、「メディカルツーリズム」(医療観光)を国家的な戦略として打ち出している。大規模な病院であれば外国人患者への対応も手厚く、バンコクにある「バムルンロード病院」では、英語、タイ語、アラブ語、ベンガル語、カンボジア語、中国語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、ベトナム語を話すスタッフがおり、日本語しか話せない患者であっても問題なく治療を受けることが可能となっている。実際、中東や一部ヨーロッパからは、タイで受けられる先進医療を求め、通院・入院を目的にタイを訪問する。タイの医療は「サービス」「観光資源」であり、社会保障制度を刷新するだけでなく、医療機関そのものをグローバルな水準に高めることで、外貨獲得にも努めている。

- ・医療用ビザの発行でメディカルツーリズム促進¹⁵⁰

タイ国政府は、2021年11月30日の閣議で、医療ビザの発行を承認した。タイ国政府はメディカル&ウェルネスツーリズムを重要産業として捉えており、今回の新規ビザ発行で同産業のさらなる発展と国際的メディカルハブセンターを目指している。今回発行が承認された医療ビザの有効期間は1年間、連続滞在可能日数は90日以内となっており、有効期間内であれば複数回の入国が可能となる。同ビザの取得対象は、リハビリテーション、アンチエイジング、循環器系疾患、がん、美容整形などの医療サービスを受ける外国人富裕層となっている。

- ・タイの医療事情及び医療制度¹⁵¹

タイの医療水準は、療施設と医療プログラムの評価・認定を行っているアメリカの非営利団体「JCI(国際医療施設認定合同機構)」によると、医療の安全と質が最高位のGold Medalに認定された病院は、タイ国内に52施設(世界1,000余施設、日本30施設)あり、世界74ヵ国中、第4位にランクインしている。東アジアと東南アジアでランクインしている国は、中国(3位)、タイ(4位)、韓国(9位)、シンガポール(12位)、日本(15位)の5ヶ国だけである。2020年12月、タイ国政府は、これらの施設を活用するメディカルツーリズム(医療目的の旅行)を推奨し、成果を上げている。

3. ウェルネスツーリズム¹⁵²

タイにおけるウェルネスツーリズム(温泉ウェルネス・医療スパ)は、富裕層誘客の大きな武器となっている。一例としてリゾートスパ宿泊施設の一部として医療施設及び総合保健センターを展開する事業者が存在し、施設では日本人デザイナーがデザインを担当したスパや温泉、最新医療機器を用いた人間ドック、メディカルチェックを受け、一流の病院の医療専門家チームによる治療及びリハビリテーション、スポーツジム、スカッシュコート、ビリヤード、シミュレーションゴルフ等様々なサービスが提供されている。また、タイならではのスパ・マッサージは、心身ともにリラックスすることが健康につながると考えられ、古来よりマッサージによる医療が発達してきた。近年ではスパも人気があり、プーケットをはじめ

¹⁴⁸ NATIONAL NEWS BUREAU OF THAILAND(2023.2.01 閲覧)

<https://thainews.prd.go.th/en/news/detail/TCATG201003121109657>

¹⁴⁹ グローバルマーケティングラボ(2023.1.23 閲覧) <https://www.global-marketing-labo.jp/column/?id=1537829544-891597>

¹⁵⁰ JETRO(2023.1.23 閲覧) <https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/12/6428ff9cd0446731.html>

¹⁵¹ 鳥取県(2023.2.1 閲覧) <https://www.pref.tottori.lg.jp/298047.htm>

¹⁵² タイ国政府観光庁(2023.1.23 閲覧) <https://www.thailandtravel.or.jp/varin-wellness-khaoyai/>

めとした主要観光地では、一軒家スパなどのデイスパを提供する店も増えている。

4. 世界遺産

タイには、文化遺産が3つと、自然遺産が3つ、合計6つの世界遺産があるが、プーケットには存在していない。プーケットよりこれらの世界遺産に赴く手段としては、近隣の各空港まで空路移動等を活用している。

5. クラブカルチャー¹⁵³

人気のクラブは、入場無料、クラブのはしごが人気となっている。その中でもイリュージョンプーケットは、ダンスフロアだけで5,000人規模であり、VIP席は数百にのぼる。

6. 市場（マーケット）¹⁵⁴

ローカルフードと特産品を販売する市場（マーケット）が数多く存在し、島内全体で8つのマーケットが賑わいをみせている。

7. ショッピング

高級品も扱うショッピングモールがプーケットには点在する。一例としてプーケットの活気に満ちた旧市街の中心部に位置するコートヤード・バイ・マリOTT・プーケット・タウン¹⁵⁵は、タイ南部の豊かな文化遺産を満喫するのに最適なロケーションで、ショッピングやダイニング、島内に点在する美しいビーチへのアクセスも便利である。

8. ゴルフ

年中温暖な気候のプーケットには、ゴルフ場が多数存在している。一例としてタイ国内に複数展開するホテルリゾートにより運営されている施設¹⁵⁶では、近隣に同系列の2つのゴルフコースがあり、ビジネス施設やレストランも併設するホテルもあり、ビーチや歓楽街からも近く長期滞在に最適な環境が提供されている。

9. ガストロノミーツーリズム¹⁵⁷

タイはその土地に行かないと食べられない地方色豊かな郷土料理が数多く存在し、プーケットにもそれらを提供するレストラン等が存在する。また、プーケット近隣には、初代県知事が中華系福建人であったため料理に影響したラノーン県や、マレーシアに国境を接していることから料理も影響を受けたサトゥーン県がある。

3) ヤド

プーケットを訪れる富裕層は、別荘等の所有がない場合、高級ホテル（最上級スイートルーム、もしくは敷地内にて個別にスイートクラスのヴィラが多数あるタイプのリゾートホテル）、または一棟貸の高級ヴィラに宿泊する傾向にある。

表 28 プーケットにおける高級ヴィラの一例¹⁵⁸

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Baan Haad Ngam Boutique Resort & Villa	空港から車で53分	1棟貸10寝室 /約130万円～/1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチン、庭園、プールと一体型ジャグジー付き ・南部に位置し、ピピ島などの玄関口 ・タイで最も優れた建築家が設計

¹⁵³ Phuket 101(2023.1.23 閲覧) <https://www.phuket101.net/ja/phuket-nightclubs/>

¹⁵⁴ トラベル・スタンダード・ジャパン <https://www.travelwith.jp/city-phuket/special/2581>

¹⁵⁵ タイ国政府観光庁(2023.1.23 閲覧) <https://www.thailandtravel.or.jp/courtyard-by-marriott-phuket-town/>

¹⁵⁶ タイ国政府観光庁(2023.1.23 閲覧) <https://www.thailandtravel.or.jp/tinidee-golf-resort-phuket/>

¹⁵⁷ タイ国政府観光庁(2023.1.23 閲覧) <https://www.thailandtravel.or.jp/gastronomy-tourism/>

¹⁵⁸ Agoda より作成(2023.1.23 閲覧) <https://thailand-navi.com/phuket-luxury-hotel>

表 29 プーケットにおける高級ホテルの一例¹⁵⁹

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Trisara Villas & Residences Phuket	空港から車で17分	最上級スイート 189万円/1泊 (時期により変動)	・ビーチに面したホテルで、スパ、プール等を提供 ・ミシュランガイドで一ツ星レストランを有している。
Banyan Tree Phuket	空港から車で29分	最上級スイートヴィラタイプ/33万円/1泊 (時期により変動)	・プール付きヴィラタイプ ・シーフード料理と西洋料理の2つのレストラン、各ルームにてシェフによる調理提供も可能
Paresa Resort Phuket	空港から車で45分	最上級スイートヴィラタイプ/ 13万円/1泊 (時期により変動)	・ヴィラタイプで全室オーシャンビュー ・レストランを有しており、各ルームにてシェフによる調理提供も可能

4) アシ（空港からの二次交通）

主に富裕層は、プーケット国際空港と宿泊ホテルや観光地の間を、高級送迎車を活用し移動している。また、ヘリポートがあるホテルや距離が離れた目的地へは、チャーター・ヘリコプター、港から離島への移動には、ラグジュアリー・ヨットチャーターも活用されている。富裕層が利用しているヤドやウリはプーケット国際空港から最大で約40km、車移動で約75分圏内にある。

1. 高級送迎車

プーケット国際空港からすべての場所への豪華な送迎やプーケット周辺のツアー、レストラン、有名なショー等を訪れるために、豪華なチャーターサービス（ドライバー付き）を提供している事業者¹⁶⁰が存在する。サービスとして、到着、出発時のVIP国際空港サービスは、入国審査の混雑や混雑したターミナルを避けるために、パーソナライズされた出迎えサービス、迅速な出入国手続き、ラウンジを提供している。

また海外移住者向けの特別な特典を享受できるタイ国家メンバーシップであるタイランド・エリートにより、国際線利用時の際は空港（スワンナプーム、ドンムアン、プーケット、チェンマイ）より近距離（60km以内）及び長距離（275km以内）リムジン送迎のサービスが提供されている¹⁶¹（但し提供内容はメンバーシップによって異なる）。2022年には従来の国際線利用時に加え、国内線利用時にもリムジン送迎サービスを利用できるようになった。2003年にできた法律に基づいてタイ国政府観光庁直営の国営企業が運営している。

2. チャーター・ヘリコプター¹⁶²

プーケットではチャーター・ヘリコプターサービスを提供している事業者が存在する。空港近郊からのプライベートで迅速かつ便利なヘリコプター送迎や、プーケットで最も有名な観光スポットを訪れたい場合でも、サービスが利用できる。また、空港からのチャーター・ヘリコプターでの送迎等を手配可能な高級宿泊施設も存在し¹⁶³、観光スポット等への周遊ツアーの提供もある。

3. ラグジュアリー・ヨットチャーター¹⁶⁴

プーケットの有名な近隣の島を目的地として探索する豪華なスピードボートとチャーター

¹⁵⁹ Ultimate Luxury Villa Rentals より作成(2023.1.23 閲覧) <https://www.ultimateluxuryvillarentals.com>

¹⁶⁰ PHUKET LUXURY TRANSFER(2023.1.23 閲覧) <https://plt.limo/>

¹⁶¹ newsclip.be(2023.1.23 閲覧) <http://www.newsclip.be/article/2022/04/29/46583.html>

¹⁶² sky dance(2023.1.23 閲覧) <https://www.skydance.aero/>

¹⁶³ ANANTARA(2023.1.23 閲覧)

<https://www.anantara.com/en/layan-phuket/offers/luxury-helipad-and-charter-helicopter-service>

¹⁶⁴ Limestone Adventures(2023.1.23 閲覧) <https://limestoneadventures.com/private-charters>

ヨットが提供されている。モダンでスタイリッシュ、快適、完璧にメンテナンスされたヨットのみを所有している。例として豪華な英国製ヨットは設備の整ったキャビンと広いサロンを有し、プーケット周辺の島々の素晴らしい景色を楽しみながら快適にくつろぐことができ、3日間の夜間クルーズや、1日でのチャータークルーズ等を提供している。

5) ヒト

タイは国家戦略として、インバウンド誘客に向けた多岐に渡る施策を投入しており、観光産業に携わる人材育成にも力を入れている。富裕層対応のためのコンシェルジュ育成や、言語教育に留まらず、地域における伝統や文化の伝承を目的としたガイドの育成を強化し、そのサービス品質を海外に保証することにより、観光需要拡大を目論んできた。

タイ国政府における主な観光関係機関¹⁶⁵としてタイ観光局は、観光・スポーツ省内の一部局として、主に特産品・サービス・観光地の開発、人材育成、観光サービスの標準化などを担当している。またタイ国政府観光庁は観光・スポーツ省所管の独立行政機関で、主に観光マーケティングを担当している。国内に45か所、海外に29か所（日本は東京、大阪、福岡の3か所）事務所があり、国内外で活発なプロモーション活動を展開している。国内各所に地方事務所を設置するとともに、本部内に国内市場向けの部署を有し、タイ人による国内旅行のプロモーションも担当している。

1. タイ国内におけるコンシェルジュ育成（タイランド・エリート）¹⁶⁶

高級コンシェルジュサービス「タイランド・エリート」は、入国の手伝いだけでなく、高級なサービスに対応しており、会員の方々が滞在を延長し居住することまで可能にしている。タイランド・エリートとは、外国人のビジターと国外在住の方対象の国際的な会員制クラブである。入国の際の特別対応はもちろん、ゴルフクラブやスパ、その他の高級施設へ足を運べる特典付きのプログラムとなっている。タイ国政府観光庁がタイの法律に基づいて運営し、コンシェルジュの育成を強化している。

2. 外国人集客力向上へ人材育成 観光業従事者10万人に講習¹⁶⁷

タイ国政府は、観光分野で働く10万人以上にサービス向上関連の講習を受講させて人材を育成し、観光産業の強化を図っている。国家観光政策の一環として、観光ガイドや旅行添乗員ら観光産業に従事する合計10万7,020人を対象に、サービスの向上を図るための講習を実施する計画を打ち出した。また、首都バンコクや旅行先として人気の南部プーケットなどで、違法な営業をしている旅行事業者やツアーガイド、無認可ホテルの摘発を強化するといったクリーン作戦も展開している。

3. ローカルガイドの育成（第2次国家観光開発計画、2036年に向けた国家戦略¹⁶⁸）

観光人材を育成するとともにタイ国民の意識を向上させる計画が策定されている。コミュニケーションスキルや地元のアトラクション知識の指導、観光客との文化的な違いについての教育を通じて、ローカルガイドの質を保証し、ローカルコミュニティのビジネススキル向上を図っている。地元の人々に、トレーニングコースなどのビジネススキルを身に着ける機会を提供し、ユニークな観光商品開発を促すことで、収入を高められるよう努めている。

4. 子供たちを含む地域住民や観光事業者の人材育成の取り組み¹⁶⁹

タイ観光局により地方にタイ人又は外国人の英語教師を派遣して、地域住民や観光事業者

¹⁶⁵ (一財)自治体国際化協会 シンガポール事務所(2023.2.07 閲覧)

<https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/508.pdf>

¹⁶⁶ Thailand Elite(2023.2.07 閲覧) <http://thailandelite.fudousan.info/thailandelite.php>

¹⁶⁷ KATE のバンコクガイド(2023.2.07 閲覧) <https://kate-bangkok.hatenablog.com/entry/42471615>

¹⁶⁸ 第2次国家観光開発計画(2023.1.23 閲覧)

https://www.rolandberger.com/publications/publication_pdf/roland_berger_the_second_national_tourism_development_plan_2017_2021.pdf

¹⁶⁹ (一財)自治体国際化協会(2023.1.23 閲覧) <http://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/508.pdf>

に対して英語教育を行う取組を行っている。2015年から実施しているプロジェクトで、観光・スポーツ省が教育省と連携し、観光客をもてなす良いホストになる方法や、地域の伝統と文化を観光客に印象付ける方法などについて、地域社会の子供たちを対象に研修（リトルガイド研修）を行っている。

5. 観光産業に従事する人のための無料英語講座を実施¹⁷⁰

タイ国政府観光庁は、地方で観光産業に携わる人たちの教育の面にも力を入れている。宿泊施設や飲食店の従業員、タクシーやトゥクトゥク（三輪のタクシー）の運転手など、観光業に携わる人向けに無料の英語講座を実施している。対象によって期間は異なるが、必要最低限の英語表現を学ぶことができる。

6) コネ

タイ国政府の観光関係機関は、首都であるバンコクやその周辺地域及びプーケットなどの有名な南部ビーチに観光客が集中しているため、地方への誘客を目的にインフラ整備やプロモーション強化（「Discover Thainess」タイらしさを再発見キャンペーン）を推進している。また、ラグジュアリー戦略の一環として、海外富裕層向けの施策（新たなビザ発給や各種プログラム）を進め、商談会や旅行エージェント招聘などにも力を入れている。

1. 第2次国家観光開発計画における2036年に向けた国家戦略¹⁷¹

2036年に向けた第2次国家観光開発計画では、主に首都であるバンコク及びその周辺と、有名なビーチリゾートがある南部に観光客が集中している現状があることから、バランスの取れた観光地域開発を掲げ、観光客及び観光収入の殆どがバンコクとプーケットなど南部の一部に集中している中で、より多くの地域に収入を分配するために、インフラ整備や潜在的なエリアを特定し開発することにより、まだ有名でない地域での観光発展を促し、観光の地理的バランスを改善する戦略となっており、航空輸送ネットワークの開発、国内航空輸送の最適化、まだ有名でない観光アトラクションの認知度向上、地方への権限移譲、地方における協力体制の促進と予算・人的資源配分の最適化等が策定されている。

2. タイ国政府観光庁による観光キャンペーン¹⁷²

2015年、主要コンセプトに「タイネス」のアイデアを取り入れた「Discover Thainess」が発表され、「タイネス」を実感できる場所として、バンコクやプーケットなどの既存の観光都市から地方へ目を向ける「タイ12の秘宝」キャンペーンが登場した。これは主要都市や有名観光地に続く観光目的地として、あまり知られていないが豊かな自然や文化遺産などの魅力ある12の県を選定し、PRに力を入れることで誘客を図るものである。

12の県の選定にあたっては、まずはアクセス可能か、次にホテルや病院をはじめ観光客を受け入れる能力があるかどうかなどを総合的に判断し、新たな観光地としてPRしても問題ないかという視点が重視されることで、全体的な地域バランスというよりも、既存の観光地からあと一步という場所が戦略的に選ばれている。キャンペーンはタイ国内外問わず全ての観光客を対象として展開される。

3. タイ国政府観光庁による各種取り組み¹⁷³

・エージェントファミトリップ（AFT : Agent Fam Trip）

海外市場ごとに旅行エージェントをタイに招聘し、今後PRしていきたい場所を実際に訪

¹⁷⁰ アルク plus(2023.1.23 閲覧) <https://plus.alc.co.jp/2018/05/thailand/>

¹⁷¹ 第2次国家観光開発計画(2023.1.23 閲覧)

https://www.rolandberger.com/publications/publication_pdf/roland_berger_the_second_national_tourism_development_plan_2017_2021.pdf

¹⁷² TAT NEWS(2023.1.23 閲覧)

<https://www.tatnews.org/2017/11/play-thailands-conqueror-12-hidden-gems-plus-social-media-contest-win-travel-privileges-prizes/>

¹⁷³ (一財)自治体国際化協会 シンガポール事務所(2023.2.07 閲覧)<https://www.clair.or.jp/j/forum/pub/docs/508.pdf>

問して、魅力を紹介するとともに、商品として対応できるかエージェントの意見を聞くものである。毎年、海外市場ごとに重点セグメント（女性、学生、ウェディング、スポーツなど）を設定し、それぞれのセグメントのニーズに沿う地域・テーマを選定して実施される。数十人規模を招待するような規模の大きいものはメガファミと呼ばれ、特に重要なセグメントにお勧めしたい目的地を選んで開催されている。日本市場を例にとると、年間約10回程度のAFTが実施され、そのうちメガファミは年1~2件である。AFTでは視察を通じて主催者であるタイ国政府観光庁が魅力を紹介するだけでなく、視察終了後に実際には回れなかったホテルやアトラクションの関係者も集めて商談会を開き、現地の事業者とエージェントが直接意見交換できる場を設けるとともに、商品化するための課題や改善要望などを聞くためのワークショップなど、双方向のやりとりが行われており、観光客へ商品を販売するエージェントの立場から率直な意見が伝えられることで、より魅力的な観光地づくりにつながる仕組みが構築されている。

・メディアファミトリップ (Media Fam Trip : MFT)

海外市場によっては、観光客の個人旅行化が進むなか、AFTに加えメディアを招聘するものである。AFTに比べMFTはさらにテーマを絞ることが可能で、雑誌やオンライン記事・ブログだけでなく、インスタグラマーやユーチューバーも含め、日本市場では年に10~20回程度招聘している。MFTの実施にあたっては、事前にターゲットやイメージを打合せるとともに、実施後にはどのような形・内容で発信されるのかというのを確認し、より効果的な発信となるようタイ国政府観光庁としてフォローアップをしている。団体旅行はまだ多い国や地域もあるが、日本に限らず他の国向けのマーケットでも浸透しており、世界各国から年間1,800以上のメディアを招聘したMFTが実施され、世界全体でAFTとMFTあわせて年間300回以上のツアーが行われた。

4. タイ国政府による富裕層向けビザ発給とプロモーション¹⁷⁴

タイ国政府は、2022年9月1日より新たにタイ長期居住者ビザの発給を開始している。このタイ長期居住者ビザは、最大10年（有効期間5年、最長5年延長可能）ビザが取得できることに加え、タイの国際空港でファストトラックサービスが利用可能、通常90日のところ1年間の出入国登録及び再入国許可申請免除等の特典が受けられる。100万米ドル以上の資産を持つ富裕層、50歳以上の定年退職者で年金受給者または安定した収入がある者、海外の有力企業で働くリモートワーカー等が発給対象となる。

5. タイランド・エリート（外国人富裕層向けレジデンシープログラム）¹⁷⁵

タイ国政府観光庁直営の国営企業が運営する有料のメンバーシップであるタイランド・エリートが2022年にタイ長期滞在ビザを取得できるなど、海外移住者向けの特別な特典を享受できる新サービスとして外国人富裕層向けレジデンシープログラムを開始した。最長20年間（5年ビザを4回）の長期滞在ビザが取得できることに加え様々な特典がある。

6. タイ国政府観光庁におけるラグジュアリー戦略¹⁷⁶

タイ国政府観光庁としては、「観光のクオリティを上げていく」ことでさらなる成長を目指している。具体的な活動として都内で「アメージング・タイランド・ロードショー in 東京 2017」と銘打った商談会を実施した。2018年度は、質の高いデスティネーションでタイのイメージアップを図るとともに、富裕層向けのリゾートや世界遺産をアピールし、テーマ旅行の拡大を推進した。更にプレミアムサービスやビザ発給などを通じて長期滞在しやすくし、顧客単価の向上によって、観光産業の利益向上につなげている。

¹⁷⁴ JETRO(2023.1.23 閲覧) <https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/07/95dab648de315b29.html>

¹⁷⁵ THAILAND PRIVILEGE(2023.1.23 閲覧) <https://www.thailandprivilege.co.th/>

¹⁷⁶ トラベル watch(2023.1.23 閲覧) <https://travel.watch.impress.co.jp/docs/news/1062829.html>

第6節 バリ

バリの人口は、436万人（2021年）¹⁷⁷、面積は約5,780km²（愛媛県と同等、東京都の2.5倍／沖縄本島の4.7倍）である。

バリは、インドネシア共和国バリ州の島である。バリの観光等の開発は、1969年のデンパサール国際空港の開港によってマス・ツーリズム向けの大規模開発が始まり、1980年代に入ると、高級リゾート向けの計画的な開発が進められた。

インドネシア全体への外国人旅行者¹⁷⁸は、コロナ前2013年の880万人から2017年には1404万人と1.6倍に増加した。その内バリを訪れた外国人は、約600万人で、インドネシア全体の約43%を占め、首都ジャカルタの2倍以上に上る。国別¹⁸⁰にみると、1位から10位は、中国（137万人）、オーストラリア（106万人）、インド（27万人）、日本（25万人）、イギリス（24万人）、米国（19万人）、フランス（18万人）、マレーシア（17万人）、韓国（16万人）、シンガポール（12万人）の順であり、中国とオーストラリアからのインバウンド需要が非常に高いことが分かる。



図12 バリ位置図¹⁷⁹

1) 空港概要・FBO及びビジネスジェット等の状況

1. イングラ・ライ国際空港

ングラ・ライ国際空港は、通称はバリ国際空港もしくは、デンパサール国際空港であり、バリ市街地近郊南部に位置する。3000mの滑走路が1本、24時間空港（時期により時間運用）である¹⁸¹。ングラ・ライ国際空港はインドネシアで2番目に利用者数の多い空港で、年間2,000万人近くの乗客を処理しており、その乗客総数は過去10年間で、2倍以上になっており、国際線用と国内線用の各ターミナルが存在する。バリ市街地へは一般的にはバス、タクシーでの移動となり、所要時間は約20分程度である。



図13 バリ空港位置図¹⁷⁹

2. イングラ・ライ国際空港のFBO及びビジネスジェット等の状況

ングラ・ライ国際空港の南側に位置するビジネスジェット等の専用施設¹⁸²は、3,590m²のエリア内に2階建ての専用建屋があり、駐機場や格納庫を備えている。インドネシアで唯一専用建屋が存在する空港であり、GAT（ジェネラルアビエーションターミナル）と呼ばれるFBO¹⁸³が、2017年から運営されている。専用施設における乗務員と乗客のためのサービスには、X-RAY、専用ラウンジ、手荷物、入国管理、国際検疫サービス、会議室利用、要望に応じてホテルやケータリングの手配などがある。航空機サービスには、航空機の誘導および駐機、機体の内外クリーニング、給油調整などがある。バリへのビジネスジェット等での移動は、その殆どが海外にて手配されている状況である。

¹⁷⁷ インドネシア中央統計局より(2023.1.27閲覧) <https://www.bps.go.id/>

¹⁷⁸ インドネシア総合研究所(2023.1.27閲覧) <https://www.indonesiasoken.com/news/column-sekaiisan/>

¹⁷⁹ OpenStreetMapを加工し作成

¹⁸⁰ インドネシア共和国観光クリエイティブエコノミー省(2023.1.27閲覧) <https://www.visitindonesia.jp/media/01.html>

¹⁸¹ AC-U-KWIK (2023.2.14閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/WADD>

¹⁸² GENERAL AVIATION TERMINAL (2023.2.07閲覧) <https://baketrans.dephub.go.id/file/184>

¹⁸³ AFM Aviasi(2023.1.27閲覧) <https://www.afmaviasi.com/ground-handling.htm>

なお、ビジネスジェット等の到着数は、表 30 のとおり 2017 年 1 月～8 月におけるングラ・ライ国際空港への到着・出発数を片道ベースで見ると、月別平均は 69 機となる。これを年間ベースで換算すれば、約 830 機程度と推測される。

表 30 ングラ・ライ国際空港におけるビジネスジェット等到着・出発数
(2017 年 1 月～8 月、各月のデータ)¹⁸⁴

2017年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
到着数	46	54	65	64	72	64	77	110	552
出発数	50	55	62	63	76	61	78	112	557

2) ウリ

バリのウリである観光資源や各種ツーリズムは多岐に渡るため、ニーズは複合的なものになっているが、主にビーチ、ウェルネスツーリズム、世界遺産、サステナブルツーリズム、アグリツーリズムをはじめとした様々なウリが存在する。

1. ビーチ

バリには多数のビーチが存在するが、富裕層は、一般旅行客で溢れるバリ内ビーチよりも、離島にある美しいビーチを目的にすることが多い。その内の一つであるヌサ 3 島の一つであるレンボンガン島¹⁸⁵は、サーフィン、シュノーケリング、ダイビング、ビーチクラブ、マングローブ探検、マリンスポーツなど、様々なアクティビティが楽しめ、バリから船で約 30 分程度の日帰り可能な島である。また、ペニダ島¹⁸⁶は、バリのサヌール港やスランガン港から約 45 分程度で、島内の移動手段は車やバイクレンタルとなっている。

ギリ島¹⁸⁷は、ギリ・トラワンガン島、ギリ・メノ島、ギリ・アイル島の 3 つの島からなり、ギリ三島と呼ばれている。バリからギリ島へはバリの 3 つの港から高速船で約 2 時間半とロンボク島に接する位置にあるが、富裕層からの人気が高い離島となっている。

2. ウェルネスツーリズム

海辺の景色、ビーチ、クラブ、緑豊かな水田、神々の島と呼ばれるバリの魅力は、リーズナブルなスパから高級リゾートのトリートメントまで、ビーチフロントのヨガスタジオ等、ウェルネス関連の観光スポットは数多く存在¹⁸⁸する。バリのスパとウェルネスツーリズムの特徴は、熟練した地元のセラピスト、スパ製品に使用される豊富な地元の食材、素晴らしい自然景観が含まれることにある。

また、インドネシアとして、2015 年のウェルネスツーリズム市場のトップ 20 (グローバルウェルネスエコノミーモニター 2017) で、17 位となっている。スパの数は 2,070、スパ施設の雇用者数は 60,682 人となっている。ウェルネスツーリズムは、インドネシアで新しく発展している観光セクターとなっている。インドネシア政府は、ウェルネスツーリズムを開発するため、特にスパツーリズムの促進に注力している。

¹⁸⁴ GENERAL AVIATION TERMINAL データを加工し作成

¹⁸⁵ Travel book(2023.1.27 閲覧) <https://www.travelbook.co.jp/topic/34659>

¹⁸⁶ Travel book(2023.1.27 閲覧) <https://www.travelbook.co.jp/topic/36654>

¹⁸⁷ キリトルセカイ(2023.1.27 閲覧) <https://kiritorsekai.com/entry/gili-howtogo/>

¹⁸⁸ インドネシア観光クリエイティブエコノミー省データより作成(2023.2.07 閲覧)

<https://www.indonesia.travel/gb/en/trip-ideas/6-spa-destinations-in-bali-that-will-rejuvenate-your-mind-body-and-soul>

3. 世界遺産

表 31 のとおりバリには世界遺産が 5 つ存在し、観光客のツアー等でも活用されている。

表 31 バリの世界遺産¹⁸⁹

世界遺産	距離/所要時間	特徴
タマンアユン寺院	空港から 29km/64 分	ロイヤル・ウォーター・テンプルと呼ばれ、境内にはバリの割れ門やヴィシュヌ神やガルダなどの石像がある
ジャティルウィのライステラス	空港から 58km/110 分	欧米人のツアーではよく利用され、水田管理の良好さが評価
グヌンカウィ遺跡	空港から 57km/97 分	巨大な石の像が断崖絶壁に掘られた、王家の墓とされている
ティルタエンプル寺院	空港から 54km/91 分	プクリサン川が源流となっている聖なる泉がある
ウルン・ダヌ・パトゥール寺院	空港から 68km/124 分	湖の守護神である水の女神、デウィ・ウルン・ダヌが祀られている

4. サステナブルツーリズム¹⁹⁰

深刻なバリの環境問題を受け、インドネシア政府は 2020 年にプラスチックゴミの大幅な削減を目指す計画を打ち出した。旅行者もバリへのプラスチック製品の持ち込みや使用を控えることが求められ、ホテルでも当たり前のように紙製のストローが使われている。

また、伝統工芸やバリ文化の中心地として有名なウブドにあるバンブー・インダーは、美しい竹の建物が特徴のエコホテルで、食品廃棄物をすべて堆肥化し、水を節約するろ過システムを採用し、光源としては LED ライトと石油ランプのみを使用している。

カンチャナ村にあるバリ・エコステイ（エコロッジ）は、厳格なプラスチック不使用ポリシーを掲げており、水を節約するために低水圧シャワーを使用、大部分の電力は近くの川を利用して生み出している。持続可能なエコツアーでは、サイクリング、楽器が竹で出来ている伝統音楽リンディック、環境にやさしい健康的な料理、田園地帯の新鮮な空気の香り、伝統的な織物等を体験することができる。バリには、送迎だけでなく多言語に堪能なプライベートガイド、トラベルコンシェルジュを含むエコツアー¹⁹¹が企画されている。

5. アグリツーリズム¹⁹²

バリには農村を活用したアグリツーリズムも数多く存在する。インドネシア有数のカカオ生産地でチョコレートが一から作られる様子を見学できるツアーや、コーヒーになるまでの加工方法を学ぶプランテーションツアー、バリ島北部で最も広大なブドウ園を巡るツアー等が企画されている。

6. クラブカルチャー¹⁹³

バリにはナイトクラブが数多く存在し、インダストリアルからディープベース、ハウスミュージック、ヒップホップに至る上品なラウンジや、観光に訪れた若者を中心に盛り上がりを見せるバウンティシップとも呼ばれる大型クラブが存在する。

7. 市場（マーケット）¹⁹⁴

バリの生鮮市場では、早朝に地元の人たちが料理や家事で使う基本的な生活必需品を調達

¹⁸⁹ UNESCO より作成(2023.1.29 閲覧) <https://whc.unesco.org/en/statesparties/id>

¹⁹⁰ ECOTOURISM WORLD(2023.1.29 閲覧) <https://ecotourism-world.com/jp/>

¹⁹¹ ecotours BALI(2023.1.29 閲覧) <https://ecotoursbali.com/>

¹⁹² インドネシア観光クリエイティブエコノミー省 (2023.1.29 閲覧)

<https://www.indonesia.travel/nl/en/trip-ideas/5-best-agrotourism-destinations-in-bali-you-should-visit>

¹⁹³ HOTELS.COM(2023.1.29 閲覧) <https://jp.hotels.com/go/indonesia/best-bali-nightclubs>

¹⁹⁴ 4travel(2023.2.03 閲覧) <https://4travel.jp/overseas/area/asia/indonesia/bali/retail-markets>

しており、新鮮な野菜や肉は島内の農場や農園で、魚介類はインド洋で収穫されたものである。早朝の市場は、外国人にも人気のツアーのスポットであり、外国人に人気のバリ料理教室では、レッスンの前に市場に足を運び、新鮮な食材を調達するなど、人気の観光スポットとなっている。

8. ショッピング¹⁹⁵

バリの主要なリゾート地には、ショッピングモールがある。大都市のように高層ビルやきらびやかなモールはないが、さまざまな食事やエンターテインメントを楽しめる比較的大きな複合施設が揃っている。バリのショッピングモールには、デパートやギフトショップが入っている施設もある。

9. ゴルフ¹⁹⁶

高級リゾートホテルが立ち並ぶヌサドゥア・ホテルエリアに隣接という絶好のロケーションと、アジアベスト5に選ばれた名門コースがあるゴルフクラブや、ウルワツ寺院を望む美しい風景とプロトーナメントも行われる本格的チャンピオンコースがあるゴルフクラブがある。

10. エンターテインメント

動物たちとの記念撮影やユニークなレストランがあり、併設のプールエリアや動物も参加するショーが楽しめるサファリ&マリナーパーク¹⁹⁷、バリ3大舞踊の中で最も優美で華麗だと言われるレゴンダンス鑑賞ができる施設¹⁹⁸や、2017年にアジアで1番と評価されたウォーターパーク¹⁹⁹がある。

11. 医療ツーリズム²⁰⁰

バリの72の病院のうち、14の病院（6つの公立病院と8つの私立病院）と3つの診療所がメディカルツーリズムサービスを提供している。バリの病院はメディカルツーリズムを持つことが奨励されている。また、バリのサヌールエリアを医療やウェルネスのハブとして開発する計画²⁰¹が進んでおり、国営企業が所有する41万㎡のエリアを数百万ドル投じて特区として開発するもので、海外からの旅行者だけでなく、日本を含めて海外へ治療を受けに行くインドネシア人の取り込みも目指している。

12. アドベンチャーツーリズム

バリは豊富な鳥種がいることで知られ、7~8時間のバードウォッチング体験²⁰²が多数企画されている。送迎に英語のツアーガイドも存在。7月から9月にかけては、ホエールウォッチングに参加でき、ザトウクジラの回遊パターンや行動について、学ぶことが出来る。

13. パワースポット

バリは全体がパワースポット²⁰³と言われスポットが点在しており、バトゥール山とバトゥール湖、アグン山とブサキ寺院、ランプヤン寺院、タマンアユン寺院、GWKカルチュラルパーク、インフィニティリング、タナロット寺院、グヌン・カウィ・スバトゥ寺院とスバトゥの沐浴場等に海外から観光客が多数訪れている。

¹⁹⁵ HOTELS.COM(2023.1.29 閲覧) <https://jp.hotels.com/go/indonesia/best-bali-shopping>

¹⁹⁶ バリ島旅行.com(2023.2.03 閲覧) <https://www.balitouryokou.com/golf/>

¹⁹⁷ bali-chili(2023.2.03 閲覧) <https://bali-chili.com/introduce/optional-balisafari/>

¹⁹⁸ 4travel(2023.2.03 閲覧) https://4travel.jp/os_shisetsu/10310954/pict

¹⁹⁹ 4travel(2023.2.03 閲覧) https://4travel.jp/os_shisetsu/10334628/pict

²⁰⁰ VOI(2023.2.03 閲覧) <https://voi.id/ja/news/213493>

²⁰¹ Travel weekly(2023.2.03 閲覧)

<https://www.travelweekly-asia.com/Destination-Travel/Bali-wants-to-be-medical-tourism-hub>

²⁰² GET YOUR GUIDE(2023.1.29 閲覧)

<https://www.getyourguide.jp/baridao-1347/baridao-zhong-ri-badoutsuchinguti-%E3%80%80yan-t222123/?partner=true>

²⁰³ maimai(2023.1.29 閲覧) <https://maimai-bali.com/contents/feature/kanko.html>

3) ヤド

バリを訪れる富裕層は、別荘等の所有がない場合、高級ホテル（最上級スイートルーム、もしくは敷地内にて個別にスイートクラスのヴィラが多数あるタイプのリゾートホテル）、または一棟貸の高級ヴィラに宿泊する傾向にあり、欧米等と比較して安価の傾向にある。

表 32 バリにおける高級ヴィラの一例²⁰⁴

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Villa Sky Li	空港から車で 33 分	1 棟貸 3 寝室 /9.3 万円~/1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・プールとトロピカルガーデン ・徒歩 10 分圏内にビーチや有名レストラン、ビーチクラブ有り ・専属コンシェルジュによるサービス等

表 33 バリにおける主な高級ホテルの一例²⁰⁴

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Bulgari Resort Bali	空港から車で 30 分	最上級スイート 24.5 万円/1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・インド洋を臨むプール ・ブルガリブティック、バリ島のアートや工芸品ショップ、イタリアン、インドネシアンレストラン
The Villas at AYANA Resort BALI	空港から車で 20 分	最上級スイート ヴィラタイプ /17 万円/1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・広いヴィラタイプルーム ・世界最大級アクアトニックプール完備 ・ロックバー併設（世界のベストホテルバー トップ 30）
Kupu Kupu Barong Villas & Spa by L'Occitane	空港から車で 75 分	最上級スイート ヴィラタイプ /11 万円/1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・溪谷を臨む絶景ヴィラタイプ ・フランス発の自然派ブランド・ロクシタン・マンゴーツリースパ ・フローリングに木製の家具を使用

4) アシ（空港からの二次交通）

主に富裕層は、ングラ・ライ国際空港と宿泊ホテルや観光地の間を、高級送迎車を活用し移動している。また、ヘリポートがあるホテルや距離が離れた目的地へは、ヘリチャーター、港から離島への移動には、ラグジュアリー・ヨットチャーターも活用されている。

富裕層に人気のヤド、ウリは、南岸から北に延びており、高級宿泊地、中心街はングラ・ライ国際空港から最大で 30km、車移動で 80 分圏内にある。

1. 高級送迎車²⁰⁵

ングラ・ライ国際空港から宿泊場所や、バリ周辺のツアー、レストランでのプライベートディナー、有名なショーを訪れるための、高級送迎車等のチャーターサービスの事業者が存在する。料金に含まれるサービスは、プロドライバー、空港出迎えサービス（到着時の空港送迎）、ガソリン、保険等が含まれる。空港出発・到着時の VIP 出入国審査サービスやエグゼクティブラウンジ利用も追加サービスとして提供されている。

2. チャーター・ヘリコプター²⁰⁶

空港からヘリポートがある高級ホテルや、距離のある 5 つの世界遺産や離島を訪れることもありチャーター・ヘリコプターサービスの需要があり事業者が存在する。提供するサービスは空港から宿泊施設の送迎や、ゲストのニーズに合わせたオーダーメイド型の移動となっ

²⁰⁴ STW データより作成(2023.1.29 閲覧) https://stworld.jp/feature/BL_ID/SK1/hotel/SVSKL/

²⁰⁵ BALI TRANSPORTS(2023.1.29 閲覧) <https://balitransports.com/limousine-mercedes-benz/>

²⁰⁶ BALI AERO TRAVEL(2023.1.29 閲覧)

<https://baliaerotravel.com/vip-services/bali-vip-transfer-to-your-hotel-in-bali-by-helicopter/>

ており、ングラ・ライ国際空港から 9km の位置にあるプライベートヘリポートから出発し、バリ内のホテル等への送迎や離島（ギリ、ロンボク島）への送迎が提供されている。

3. ラグジュアリー・ヨットチャーター²⁰⁷

イタリアから輸入された 56 フィートのフライブリッジトリプルデッキスーパーヨットでいくデイクルーズ体験（8 時間）や、約 45～55 分の距離にあるレンボンガン島、ペニダ島、チュニガン島までの移動を提供している。クルージング、シュノーケリング、フィッシングの後は、新鮮なバーベキュー料理、インドネシア料理を楽しむことができる。エアコン完備のサロンとダイニングエリア等を備えている。

5) ヒト

バリはインバウンド誘客に向けた多岐に渡る施策を投入し、また観光産業に携わる人材育成にも力を入れており、特に地域における伝統や文化の伝承を目的としたガイド等の育成を強化し、サービス品質を保証し観光需要拡大を進めていることが分かる。

1. ツアーガイド免許制度

バリでガイドを行うには州政府発行のガイド免許²⁰⁸が必要で、免許取得には文化や言語に関する知識が求められ、外国人には免許は発行していない。理由は、自国民の雇用確保とガイドのプレゼンス向上、バリの正しい文化、歴史を観光客に伝えることと考えられる。またガイドの際はバリの民族衣装を着用することや、ガイドは適切な報酬を受けることも州政府にて定められている。

2. 観光人材の育成

観光サービスを提供する労働力を拡大させるために、国立観光専門学校や国立観光学大学等、バリには観光系の学校が 5 校存在する。ヌサドア開発の時、州政府は当初 8 軒のホテルを建てる計画を立て、ホテルで働く人材開発のため、学校を作ったことが発端となり、現在でもホテルなどの観光業に携わる人材を数多く輩出している。²⁰⁹

また、伝統芸能や舞踊などが盛んで、歌舞団も多く、芸術村と呼ばれるバリ島内のウブド村では長年地元近隣の音楽家や舞踊家と協力し村の子供たちの伝統舞踊を育成²¹⁰するなどの事例もある。

6) コネ

バリについては政府の観光関係機関にて、現在医療ツーリズム振興やウェルネス、サステナブルツーリズム等のプロモーションを強化している。プロモーション手段は進化しており、メタバースの活用や、富裕層誘客に向けては、中東及び北アフリカをターゲットとしたオンライン旅行プラットフォームと連携し、新しいビザの発給などを開発している。

1. 医療ツーリズム振興

インドネシアの国営企業にてバリのサヌールエリアに数百万ドルを投じて特区とし、医療やウェルネスのハブとして開発する計画が進んでいる。また、バリを医療観光地として国際病院開業へ向けた投資家へのアプローチ²¹¹を強化している。

2. ウェルネス及びサステナブルツーリズムにおけるプロモーション

2022 年にインドネシアにて G20 のサイドイベントとしてインドネシアの観光クリエイティブエコノミー省等により開催された International Wellness Tourism Conference &

²⁰⁷ ultimatebali(2023.1.29 閲覧) <https://www.ultimatebali.com/indonesia-yacht-charters/burjuman-super-yacht/>

²⁰⁸ バリ州政府観光局(2023.1.29 閲覧) <https://disparda.baliprov.go.id/peraturan-gubernur/>

²⁰⁹ 齊藤功高(2020)

²¹⁰ CLUB WORLD (2023.2.3 閲覧) <https://www.villas-world.net/blog/2999/>

²¹¹ TRVLWIRE(2023.1.29 閲覧) <https://trvlwire.jp/?p=30946>

Festival (IWTCF)²¹²において、バリのウェルネス資産の豊富さを世界へアピールした。ウェルネスビレッジのコンセプトを持つ地元の24の中小企業と中小企業以外の30業種が作った、8つのカテゴリーに分けられた様々なウェルネス製品を紹介した。カテゴリーには健康的な食事と栄養と減量、身体活動、ウェルネスツーリズム、伝統医療と補完医療、公衆衛生、予防と個別化医療、ウェルネス不動産、メンタルヘルスが含まれ、ウェルネスツーリズムへの資金提供と資金調達の手段、およびその分野での人的資源の構築についても検討された。また、サステナブルツーリズムにおけるプロモーションの一環として、2019年インドネシア観光クリエイティブエコノミー省は、各観光地の持続可能のために保存する必要がある人々を魅了する美しい写真を活用した、フォトコンテスト²¹³を実施している。

3. メタバースの活用による観光プロモーション²¹⁴

インドネシア観光クリエイティブエコノミー省と、デジタルマーケティングのコンサルタント事業者であるMagnus Digital Indonesiaは、インタラクティブかつデジタル手法を用い、インドネシアの観光と創造的な経済発展に向けたプロモーションを可能にするメタバーステクノロジーチャンネルである、WonderVerse Indonesiaを開発した。

このプロジェクトの目的は、インドネシア観光クリエイティブエコノミー省がインドネシア文化の美しさを世界に紹介することであり、国際レベルで促進することだけでなく、観光および創造的な経済のプレーヤーが、WonderVerse Indonesiaにて、各種事業をデジタルにてプロモーションできることにある。また観光および経済部門で、新しい雇用を創出することも期待されている。

4. 富裕層向けプロモーション

バリへの富裕層観光を活性化させる取り組みとして、インドネシア観光クリエイティブエコノミー省は、MENA (Middle East と North Africa、中東と北アフリカ地域の国々を指す略称)における主要なオンライン旅行プラットフォームであるWego²¹⁵との提携を行った²¹⁶。インドネシア政府観光局は、Wegoの膨大なMENAのユーザーデータベースを通じてバリを広く宣伝し、富裕層のインバウンド増加を目指している。

5. オンライン観光プロモーション戦略²¹⁷

バリは、これまでトラベルフェアなど多くの直接的なイベントにてプロモーションを行っていたが、近年は観光マーケティング戦略の一環として、デジタルコンテンツの作成、観光向けのイベント、ターゲットを絞った旅行プロモーションに力を入れている。バリ州の観光局は、インフルエンサーやブロガーによるプロモーション強化を含めて、2022年以降の最新のオンライン観光プロモーション戦略に約323,000US\$を投資した。

6. 新たな富裕層向けビザ発給²¹⁸

インドネシア政府は新しいビザカテゴリーにより、銀行に130,000US\$を超える貯蓄がある外国人が、バリやその他の人気のある目的地に、10年間の一時滞在許可を申請できるセカンドホームビザを開始した。高所得者および高度なスキルを持つデジタルノマド²¹⁹を引き付けて、インドネシアでの生活スタイルを構築させることが目的であり、ビザの費用はわずか192US\$で、投資やその他の活動を行うことができる。

²¹² ITB(2023.1.29 閲覧) <https://news.itb.com/topics/wellness/indonesia-wellness-tourism/>

²¹³ インドネシア観光クリエイティブエコノミー省(2023.1.29 閲覧) <https://www.visitindonesia.jp/news/190828-1.html>

²¹⁴ インドネシア観光クリエイティブエコノミー省(2023.1.29 閲覧)

<https://www.indonesia.travel/gb/en/news/wonderverse-indonesia>

²¹⁵ Wego(2023.1.30 閲覧) <https://company.wego.com/>

²¹⁶ THE GLOBAL ECONOMICS(2023.1.30 閲覧) <https://www.theglobaleconomics.com/2022/07/14/indonesia-wego-bali/>

²¹⁷ THE BALI SUN(2023.1.30 閲覧)

<https://thebalisun.com/bali-to-hire-vloggers-and-influencers-to-aggressively-promote-tourism/>

²¹⁸ インドネシア投資情報局(2023.1.30 閲覧) <https://idn-investment.com/resettlement/2034/>

²¹⁹ IT 技術を活用し、国内外含め場所に縛られず、ノマド(遊牧民)のように旅をしながら仕事をする人達

第7節 ニュージーランド

ニュージーランドは北島と南島の2つの主な島と、周辺の多数の小さな島々で構成されており、面積は約27万km²で、日本全体の3/4程度であるが、人口は約512万人（2022年）²²⁰で日本よりかなり少ない。多様性に富んだ国で先住民のマオリとヨーロッパ、太平洋諸島、アジアからの移民がともに歩んで歴史を築いてきた。多彩な文化が融合し、地質学的にも魅力ある風景とユニークな動植物が相まってニュージーランドは幅広い楽しみ方ができる国になっている。壮大な氷河、美しいフィヨルド、険しい山々、広大な平野、うねるような丘陵地、亜熱帯の森林、火山台地、砂浜を結ぶ長い海岸線等様々なロケーションが存在する。

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

ニュージーランドは国土が険しく広く、またウリの場所が1カ所に集中しておらず各地に点在していることから、目的地への短時間での移動は、主要空港からのヘリコプターでの直接移動、もしくは目的地近隣の小規模空港へビジネスジェット等やプロペラ機、ヘリコプターで一度移動し、そこから車両やヘリコプターで移動するのが主な交通手段となっている。

本調査ではニュージーランド国内での目的地への主な移動元となっている北島ニュージーランド最大の都市にあるオークランド国際空港、南島最大都市にあるクライストチャーチ国際空港、南島の主要な観光地が近隣に多数あるクイーンズタウン国際空港の3空港について主に確認した。



図 14 ニュージーランド主要空港位置図²²¹

1. オークランド国際空港

オークランド国際空港はニュージーランドで一番大きく最も発着便の多い空港であり、ニュージーランド最大の都市であるオークランド市（人口約144万人（2022年）²²²）中心部から約20km南に位置する。滑走路は3,635mが1本、24時間運用の空港である²²³。一般旅客ターミナルについては国際線、国内線用のターミナルがそれぞれ存在し、後述のとおり、ビジネスジェット等の専用施設が別にある。空港の旅客数は約644万人（2021年）²²⁴であった。空港からオークランド市街地への一般的な移動手段はバスもしくはタクシーで約30～60分、鉄道アクセスは存在しない。

2. クライストチャーチ国際空港

クライストチャーチ国際空港は南島最大の都市であるクライストチャーチ（人口約39万人（2022年）²²²）中心部から北西約12kmに位置する。夏季に北西風の影響を受ける為、滑走路は十字型に3,287mと1,741mが各1本、24時間運用の空港である²²⁵。オークランド国際空港に次いで乗降客の多い南島最大の空港で旅客数は約370万人（2021年度）²²⁶であ

²²⁰ ニュージーランド統計局(2023.3.6 閲覧) <https://www.stats.govt.nz/>

²²¹ OpenStreetMap を加工し作成

²²² ニュージーランド統計局(2023.3.6 閲覧) <https://www.stats.govt.nz/>

²²³ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/NZAA>

²²⁴ Auckland international airport 年次報告書(2023.2.26 閲覧)

<https://www.annualreports.com/Company/auckland-international-airpor-limited>

²²⁵ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/NZCH>

²²⁶ Christchurch airport 年次報告書(2023.3.2 閲覧) <https://www.christchurchairport.co.nz/>

った。国内線、国際線共用の一般旅客ターミナルが1つ存在し、後述のとおり、ビジネスジェット等の専用施設が別にある。空港からクライストチャーチ市街地への一般的な移動手段はバスもしくはタクシーで約20～40分、鉄道アクセスは存在しない。

3. クイーンズタウン国際空港

クイーンズタウン国際空港はクイーンズタウン（人口約1万6千人（2022年）²²⁷）中心部から8kmに位置する。滑走路1,777mが1本（他草地の滑走路1本）、6～22時の16時間運用の空港である²²⁷。クイーンズタウン周辺地域はニュージーランドの中で人口、規模も小さいが、周辺には世界的に有名な観光地も多く旅客数（出発）は約115万人（2021年）²²⁸でニュージーランド内4番目である。国内線、国際線共用の一般旅客ターミナルが1つ存在し、後述のとおり、ビジネスジェット等の専用施設が別にある。空港から市街地への一般的な移動手段はバスもしくはタクシーで約15～25分、鉄道アクセスは存在しない。

4. 各空港のFBO及びビジネスジェット等の状況

上記3空港においては、ビジネスジェット等の対応が可能なFBO及び専用施設が存在し、利用客はラウンジ等が利用可能で各種サービスを受けられる。

各空港ではハンドリング、スポット確保、給油、コンシェルジュサービス、ケータリングサービスを利用可能、さらに空港からの二次交通としてリムジン、ヘリコプターチャーター、小型のビジネスジェット等のチャーターまで手配できる事業者が存在する²²⁹。

なお、ニュージーランドでの各空港におけるビジネスジェット機の離発着回数については把握できなかった。

2) ウリ

ニュージーランドは「アドベンチャーツーリズム開発指標2020」²³⁰において、世界ランキングが3位（1位アイスランド、2位スイス）であり、ウリの最上位にアドベンチャーツーリズムを位置づけているが、それ以外にサステナブルツーリズム、ビーチ、世界遺産等の様々なウリが存在する。

1. アドベンチャーツーリズム（スノーツーリズム含む）

ニュージーランドの有名なアドベンチャーアクティビティやエクストリームスポーツにはバンジージャンプ、ジェットボート、スカイダイビング等がある。²³¹また、アドベンチャーツーリズムではヘリコプターを活用したツアーが数多く存在するのが特徴である。

ニュージーランドはバンジージャンプの本拠地と言われ、渓谷などの自然や逆に海上の大きな橋を利用する等種々のスタイルのバンジージャンプを楽しむことができる。

ジェットボートは1950年代にニュージーランドの農民が開発してそれをアドベンチャーツアーとして活用するようになり、ニュージーランドで最も長い川でジェットボートのスリルを体験することができる。²³¹

ニュージーランドは世界のスカイダイビングの中でも人気のスポットであり、南島の西岸にある氷河ガイド基地から小型航空機で30分かけてマウントクック国立公園上空の高度20,000フィートまで上昇し、山々、氷河、湖、川、海の景色のパノラマを楽しむ。そしてベテランスカイダイバーと一体となって飛行機からジャンプ、自由落下し、パラシュートで安全に着地するスリルを楽しむものである²³¹。

ニュージーランドのスキーゲレンデの多くは、同国における森林限界（高緯度地方などで森林が生育できる限界線）である標高約1,000mよりも高い位置にあるため、木々のない

²²⁷ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/NZQN>

²²⁸ Queenstown airport (2023.2.26 閲覧) <https://www.queenstownairport.co.nz/facts-figures>

²²⁹ globalnetnz (2023.3.6 閲覧) <https://www.globalnetnz.com/premiumtour/transfer.html>

²³⁰ Adventure Travel Trade Association (2023.2.27 閲覧) <https://www.adventuretravelnews.com/atta-and-gw-release-list-of-most-competitive-adventure-tourism-destinations-in-2020>

²³¹ ニュージーランド観光局(2023.2.27 閲覧) <https://www.newzealand.com/>

面雪の中を滑走できるツアーや、世界遺産マウントクックエリアをダイナミックに滑る、ウィルダネスヘリスキーを楽しむヘリスキーツアー等がある。²³²

レンタカー等ではアクセスしづらい遠隔地のバックカントリー等へ、ヘリコプターで移動して釣りを満喫できるヘリフィッシングツアーが多数存在し、日帰りまたは一晩の小屋滞在のオプションが選択できるツアー等がある。²³¹

南島東岸にある美しい港町カイコウラ沿岸海域はホエールウォッチングで世界的に有名であり、クジラ、オットセイ、イルカ、アザラシが生息しており、ヘリコプターを利用し周辺の自然を探索し、上空からクジラの姿やイルカが水中で遊んでいるところを楽しむツアーがある。²³³

2. サステナブルツーリズム

ニュージーランドでは様々な事業者がサステナブルツーリズムに向けた取組やサービスの提供を行っている。一例として、観光ガイドとして地元の観光ベンチャーを選択し、観光地の地元社会を支援する、市場や屋台で食べ物を購入する際にはパッケージ食品を避けて量り売りで購入して無駄なパッケージを避ける、ビーチで日焼け止めを使う際にはサンゴ礁に被害を与えないかを考える、野生動物を観に行っても必要もなく彼らの生息地に踏み込まない、海洋生物を見に行く際はニュージーランドの自然保護局が提供する SMART（レクリエーションと観光における持続可能な海洋哺乳類の行動）許可証を持つ海洋ツアーオペレーターを利用し、海洋生物へのインパクトを最小限とする、旅行ガイド社が毎月のウェブサイトへのクリック数に基づいて、3,000人の訪問者ごとに20本の木を植樹する、等の取組が行われている²³⁴。

また、格付けの設定によるサステナブルツーリズムの推進としてニュージーランド政府観光局は関連事業者の協力のもとクォールマーク²³⁵を運用し、宿泊施設等を対象に品質評価や格付けを行い、包括的に持続可能性に貢献している事業者を評価するためサステナブルツーリズムビジネスとして独自の基準を設け、その評価に応じてブロンズ、シルバー、ゴールドを認定することで、サステナブルの推進を図っている。

一例としてリサージェンスラグジュアリーエコロッジ²³⁶では、ナショナル・ジオグラフィック・トラベラー・マガジンの「世界のベストエコロッジ」のひとつに選ばれたことがあり、クォールマークからは「ゴールド」を認定されている。自然の空気の流れを利用した特別なデザインを客室に取り入れているため、このホテルは熱帯雨林の中に建設されているが、エアコンが不要で電気を節約することができる。また、敷地内の建物は再生可能な国産の木材で建設されており、水はエネルギー効率の高いガスヒーターで温められている。

また、サステナブルツーリズム国際認証の取得の取組として、SDGs（持続可能な開発目標）11.4「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する」を達成するために持続可能な観光を実施している地域の国際認証としてサステナブルツーリズム国際認証があり全世界で16カ所が取得しているが、ニュージーランドではカイコウラが認証を取得した²³⁷。認証は国際基準に則り、認証準備の支援制度もある。認証準備が地域観光地管理の持続可能性を高め、認証されることで世界有数の持続可能な観光地と認知される。高所得旅行者向けの観光を扱う観光業者は持続可能性認証を持つ観光地を必要としており、認証観光地との契約時に優遇措置を講じている。

²³² Fellow Travel (2023.2.27 閲覧) <https://www.fellow-travel.co.jp/ski/special3.html>

²³³ ニュージーランド観光局(2023.2.27 閲覧)<https://www.newzealand.com/>

²³⁴ Best Bits Travel Guides (2023.2.28 閲覧) <https://nzjane.com/nz-conservation-tourism-activities/>

²³⁵ ニュージーランド観光局(2023.2.28 閲覧) <https://www.newzealand.com/jp/feature/qualmark/>

²³⁶ ECOTOURISM WORLD(2023.2.27 閲覧) <https://ecotourism-world.com/jp/lets-stay-at-eco-friendly-hotels-in-new-zealand/>

²³⁷ 富士通総研(2023.2.27 閲覧) <https://www.fujitsu.com/jp/group/fri/report/newsletter/2017/no17-006.html>

3. ビーチ

ニュージーランドは柔らかな白い砂浜、壮大な景色を望む約 14,000km の太平洋の海岸線があり数多くの魅力的なビーチがある。

特に北島の北東部で太平洋に面した波打ち際、有名なホットウォータービーチ²³⁸では自分で砂浜を掘って温泉を湧出させ、自分だけの天然温泉に浸かる事ができる。

また、北島の北端にある美しい夕焼けとサーファーに人気の 90 マイルのビーチ²³⁹はビーチそのものが国道の一部となっており、ビーチにてオフロード走行を楽しめる。

4. 世界遺産

ニュージーランドには世界遺産が存在し、北島にマオリの聖地「トンガリロ国立公園」、南島に国内最高峰の山「マウントクック」、フィヨルドの海「ミルフォードサウンド」、氷河の影響を受けた地形「テ・ワヒポウナム」がある。火山と氷河が生み出したダイナミックな自然景観は世界的に人気がある。それらを遊覧飛行やクルーズ、ハイキングなど、あらゆる角度から楽しむことができるツアーが存在する²⁴⁰。

クイーンズタウン国際空港から小型機やヘリコプターで世界遺産のひとつ、フィヨルドランド国立公園へ移動し、入り組んだ山々を抜けて大自然の絶景を空から楽しんだ後、帰りは船にて今度は海上から絶景を楽しみながらクイーンズタウンへ戻るツアー等世界遺産を観光資源として活用するツアーが多数ある²⁴¹。

5. ゴルフ

ニュージーランドはスコットランド系移民によってゴルフがもたらされ、長年にわたって親しまれている。近年では自然を生かした最先端の設備をそろえた国際級のコースが増えてきており、多彩なアクティビティを組み合わせたツアーが設定されている²⁴²。

3) ヤド

ニュージーランドには主に都市部に高級ホテルが存在するが、ニュージーランドの特色を生かした、自然豊かな地域、アドベンチャーを楽しみたい人、リラックスしたい人へのニーズに応えることのできる高級ヴィラ、高級ロッジ等が地方に存在する。地方においては交通事情からヘリコプターでのアクセスが主となるロッジも存在する。

表 34 ニュージーランドにおける高級ヴィラの一例²⁴³

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Eagles Nest	オークランド空港からベイオブアイランズ空港移動(約 40 分)し、そこから車で約 45 分	ヴィラタイプ/ US\$19,995/1 泊 (時期により変動)	・敷地内に 5 件のヴィラあり ・4 ベッドルーム、プール、デッキ付き ・敷地内にプライベートビーチ、ヘリポートもある ・コンシェルジュサービス、ローカルエリア内へ高級車利用、パーソナルシェフによる食事手配

²³⁸ ニュージーランド観光局(2023.2.28 閲覧) <https://www.newzealand.com/jp/hot-water-beach/>

²³⁹ ニュージーランド観光局(2023.2.28 閲覧) <https://www.newzealand.com/jp/feature/ninety-mile-beach/>

²⁴⁰ ニュージーランド観光局(2023.2.28 閲覧) <https://www.airnewzealand.jp/newzealand-world-heritage>

²⁴¹ VELTRA(2023.3.2 閲覧) https://www.veltra.com/jp/oceania/new_zealand/a/147280#change_currency

²⁴² ニュージーランド観光局(2023.2.28 閲覧) <https://www.newzealand.com/int/golf/>

²⁴³ ニュージーランド観光局データを加工し作成(2023.2.27 閲覧)<https://www.newzealand.com/>

表 35 ニュージーランドの地方における高級ロッジ等の一例²⁴⁴

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Minaret Station Alpine Lodge	クイーンズタウン空港からヘリコプターで約 30 分	テントの中の豪華なスイート US\$3,550/1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・サザンアルプスの大自然に囲まれたラグジュアリー・ロッジ、ロッジまでは主にヘリコプターでのアクセス ・トラウト・フィッシングにぴったりの場所であり、ヘリ送迎のアドベンチャーツアー各種、ガイド付きフィッシング、ハンティング、ヘリスキー等も手配可能
The Lodge at Kauri Cliffs	オークランドからケリケリ空港移動 (約 50 分) し、そこから車で約 25 分	最上級スイート /US\$11,320/1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋を一望するパノラマ風景 ・世界の名コース 100 選にランクインするゴルフコース併設 ・植民地時代の重厚な様式の建物
Matakauri Lodge	クイーンズタウン空港から車で約 30 分	最上級スイート /US\$ 12,750/1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・湖畔に位置し湖と山のパノラマを一望 ・プール、スパ、ニュージーランド料理提供のレストラン併設 ・ヘリ送迎のアドベンチャーツアー、ヘリスキー、ゴルフ等も手配可能

4) アシ (空港からの二次交通)

オークランド国際空港、ウェリントン国際空港及びクイーンズタウン国際空港の 3 空港において空港と宿泊ホテルや観光地の間を高級車で送迎するサービスがあり、ヘリコプターによる空港や目的地への送迎サービスもある。

ニュージーランドではヘリコプターの活用例が非常に多く、ニュージーランド政府観光局のウェブサイトで紹介されているヘリコプターを利用する空港から宿泊施設や観光地にアクセスするコースは 2022 年 3 月確認時点で 588 件も登録されていた²⁴⁵。

ニュージーランドの高級ホテルは都心型のものは最大都市オークランドに多く存在するがリゾート型の宿泊施設は景勝地等に点在しており、これらの点在する宿泊施設はオークランド、クライストチャーチ、クイーンズタウンの 3 空港からかなりの距離がある。

1. 高級送迎車

空港送迎をはじめ、チャーターサービス (ドライバー付きレンタル) を提供している事業者が存在した。一例としてオークランドでは超高級車であるロールスロイスゴーストを使用する送迎サービスがある²⁴⁶。また、前述のクォールマークを有する事業者もある。²⁴⁷

2. チャーター・ヘリコプター

チャーター・ヘリコプターサービスを提供している事業者が存在し、ビジネスエリア、ブドウ園、ロッジ、ゴルフコース等へ行く際に活用される。またはそれ以外の場所についても必要に応じて飛ぶことができ、観光等に多く活用されており、IFR (Instrument Flight Rules (計器飛行方式による飛行)) 機能を有するヘリコプターもあり悪天時にも運航可能なサービスを提供する事業者も存在する²⁴⁸。

なお、ニュージーランドの道路は幅が狭く、カーブや起伏も多く、その種類も高速道路から未舗装の砂利道まで様々であり、主要都市以外の地域では、ほとんどの道路は片側一車線

²⁴⁴ ニュージーランド観光局データを加工し作成(2023.2.27 閲覧) <https://www.newzealand.com/>

²⁴⁵ ニュージーランド観光局 (2023.2.27 時点登録数) <https://www.newzealand.com/>

²⁴⁶ BRIGHTLANE (2023.2.28 閲覧) <https://www.brightlane.co.nz/>

²⁴⁷ Queenstown airport (2023.2.28 閲覧) <https://www.queenstownairport.co.nz/vip-transport-operators>

²⁴⁸ Heletranz Helicopters (2023.2.28 閲覧) <https://www.heletranz.co.nz/airport-transfers/>

である。また、ニュージーランドの鉄道には高速列車はなく、観光を兼ねて移動するものが多いため、日本のような便利な鉄道網ではなく、これらの事情からヘリコプターが移動手段として発展している。

3. ラグジュアリー・ヨットチャーター

ニュージーランドのヨットチャーターの目的地として人気のある北島と南島、多くの美しい周辺の島々がある。北島の北にあるベイオブアイランズは、ニュージーランドで人気のあるヨットチャーターの目的地であり、白い砂浜とエメラルドブルーの海に囲まれた 100 以上の亜熱帯の島々があり、それらを巡ることができるモーターヨットが手配できる²⁴⁹。

5) ヒト

ニュージーランドでは、コンシェルジュの育成や観光分野におけるスペシャリストの育成等の取組について確認した。

1. コンシェルジュ等の育成

Queenstown Resort College²⁵⁰は、スイスにある世界的に有名なホテル経営やホスピタリティ分野の専門学校である Swiss Hotel Management School²⁵¹を参考として 2006 年に設立された私立の観光業とホスピタリティの専門学校である。

同校はニュージーランドにおける「一流の観光マネジメント専門学校」であることを目指しており、ホスピタリティ・マネジメント、アドベンチャー観光マネジメントの 2 つのコースに毎年約 180 人の生徒が入学している。21 ヶ月のコースの中には、9 ヶ月のインターンシップも含まれており、地元のホスピタリティ業界、アクティビティ事業者等の現場を経験する。同校では地域住民向けにクイーンズタウンの歴史等を講義する「観光大使」プログラムを提供しており、地域コミュニティが観光産業の重要性・価値を理解し、他の国のカルチャーを学ぶ場となっている。

2. ニュージーランド・スペシャリスト・プログラム

ニュージーランド政府観光局が実施しているスペシャリスト養成事業「100%ピュア・ニュージーランド・スペシャリスト・プログラム」がある。

楽しくインタラクティブにニュージーランドに関する知識を深めることができ、ブロンズ、シルバー、ゴールドと、達成度に応じてステータスをアップグレードしていくと、特典の幅が広がる。メリットとしては限定コンテンツ、ツール、資料類にアクセス可能、当局が主催するイベントやトレーニングに参加できる等がある。

6) コネ

ニュージーランドにおいては、政府における観光機関であるニュージーランド政府観光局を中心に誘客に向けた取組が進められている。

1. ニュージーランド観光持続可能性コミットメント

ニュージーランド政府観光局は 2025 年までにすべてのニュージーランドの観光事業が持続可能性に取り組むことを目指している。持続可能性コミットメントの内容は抜粋すると、価値と機会を創造、持続可能性の実践を推進するために投資する、常に訪問者の期待に応えるか、それを超えるよう努める、水、生物多様性、景観、きれいな空気などニュージーランドの環境の保護と強化に貢献する、観光カーボンチャレンジは、すべての観光事業者に、二酸化炭素排出量を測定し、2030 年までに炭素排出量を大幅に削減するための措置を講じ、ニュージーランドの 2050 年の目標に先立ってネットゼロカーボンを目指す観光産業に

²⁴⁹ YACHTZOO(2023.2.28 閲覧) <https://www.yacht-zoo.com/yachts/ghost-ii-37m-gulf-craft-yachts-for-charter>

²⁵⁰ Queenstown Resort College (2023.3.1 閲覧) <https://www.qrc.ac.nz/>

²⁵¹ Swiss Hotel Management School (2023.3.1 閲覧) <http://www.shms.com/en/>

貢献するよう促す、等である²⁵²。

2. 観光に関係する情報を一元的に紹介する公式ウェブサイトの運営²⁵³

ニュージーランド政府観光局が観光に関係する情報を一元的に紹介している公式ウェブサイト運営しており、オフィシャル情報として発信している。観光地情報、ツアー、サービス、交通事情等のみならず多岐にわたる情報を富裕層向け宿泊施設などもカバーし、10カ国語以上で発信している。当サイトにはニュージーランド国内の現地オペレーターやニュージーランドへの旅行商品を販売する海外の旅行事業者など観光関連業者のデータベースがあり、このデータベースにアクセスして直接連絡、予約することも可能である。

情報掲載を希望する事業者等はオンラインで申請し、ニュージーランド政府観光局が内容をチェックの上、承認された場合は掲載される。

3. 観光業成長パートナーシップによる観光インフラ整備への投資

ニュージーランド政府の「観光業成長パートナーシップ」は、年間800万NZ\$の予算枠で、個別プロジェクト（自転車ルート整備等）に対して民間企業と協働して資金を投じるものである。ニュージーランドの観光関連企業は中小企業が殆どであり、資金余力が乏しい中、3百万人を超える外国人観光客が訪問することに伴い、観光インフラ整備の必要性とそのため資金負担のあり方が大きな議論となっている²⁵⁴。

²⁵² 観光持続可能性コミット(2023.2.27 閲覧)<https://www.sustainabletourism.nz/>

²⁵³ ニュージーランド観光局 (2023.2.27 閲覧) <https://www.newzealand.com/>

²⁵⁴ 観光庁 国内外の観光地域づくり体制に関する調査業務の報告書(2023.2.27 閲覧)
<https://www.mlit.go.jp/common/001136271.pdf>

第8節 パタゴニア

パタゴニアは、アルゼンチン本土の南部のほぼ全域を占め、面積は約 673,000 km²で、南緯 37 度から 51 度まで続く広大な草原と砂漠を構成している。西はパタゴニア・アンデス、北はコロラド川（川の北側がアンデス国境地帯の場合を除く）、東は大西洋、南はマゼラン海峡にほぼ囲まれ、アルゼンチンとチリに属している。

アルゼンチン²⁵⁵はラテンアメリカで 2 番目に面積の大きな国であり、主要な空港として、エセイサ国際空港があり、国際線を利用する旅行者の玄関口となっている。

2010 年代の終わりまでに、アルゼンチンは年間約 700 万人の国際観光客を受け入れたが、新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックにより国の観光部門は大きな影響を受けた。

チリ²⁵⁶は 主要な空港として、サンティアゴ国際空港が国際線を利用する旅行者の玄関口となっている。2018 年に 570 万人の外国人観光客を迎え、2017 年と比較して 11.3% 減少。主に 2017 年の全外国人観光客の半分以上を占めるアルゼンチンからの観光客の減少が影響している。チリは、アルゼンチン以外にも、オーストラリア、ブラジル、中国、フランス、ドイツ、スペイン、英国、米国などからの訪問者をマーケティングリソースのターゲットしており、中国からの来訪者は 2018 年に前年比 12.4%の成長率を示している。



図 15 パタゴニア位置図²⁵⁷

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

パタゴニア地方へは 2 つの主要空港を経由して目的地へ移動することが一般的であり、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスにあるエセイサ国際空港を経由し、ロスグラシアレス国立公園に最も近いエルカラファテ空港や南パタゴニアにあるウシュアイア空港へ、また、チリの首都サンティアゴにあるサンティアゴ国際空港を経由し、トレス・デル・パイネ国立公園に近いプエルトナタレス空港、チリ湖水地方に近いテムコ空港やプエルトモンテ空港、南パタゴニアのプンタアレナス空港へ飛行機を乗り継いで目的地へ向かうことが一般的なルートとして知られている。

1. アルゼンチン エセイサ国際空港

エセイサ国際空港は、空港運用時間は 24 時間で、ブエノスアイレス市の南西 35km に位置し、空港からブエノスアイレス市街地までの所要時間は車で 40～45 分。滑走路は 3,300 m と 3,105m の合計 2 本あり、空港の東側に一般旅客用ターミナルが 3 つある²⁵⁸。

2. チリ サンティアゴ国際空港

サンティアゴ国際空港は、チリの首都サンティアゴの東 19 km に位置しており、空港運用時間は 24 時間で、滑走路は各 3,800m で合計 2 本あり、2 つのターミナルで構成される²⁵⁹。新しい国際線ターミナルは 2021 年に供用し、空港の収容人数は年間 1,500 万人から

²⁵⁵ アルゼンチンの旅行と観光 – 統計と事実 – Statista (2023.2.14 閲覧)

<https://www.statista.com/topics/6802/travel-and-tourism-in-argentina/#topicOverview>

²⁵⁶ チリ 2020 OECD 観光動向と政策 (2023.2.14 閲覧)

<https://www.oecd-ilibrary.org/sites/30565925-en/index.html?itemId=content/component/30565925-en>

²⁵⁷ OpenStreetMap を加工し作成

²⁵⁸ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/SAEZ>

²⁵⁹ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/SCEL>

3,000 万人に倍増した。年間約 2,500 万人の乗客が利用する南アメリカで最も利用者の多い空港の 1 つとなっている。



図 16 パタゴニア地域の主要空港位置図²⁶⁰

3. エセイサ国際空港の FBO 及びアルゼンチンのビジネスジェット等の状況

エセイサ空港のビジネスジェット等の専用施設はターミナルより滑走路を挟んで北側に位置し、FBO も複数存在し、ハンドリング、給油、駐機場手配、機内ケータリングサービス、航空機整備、税関、入国管理から旅行のサポートまで幅広くサービスを行っている事業者²⁶¹もある。なお、アルゼンチンにおけるビジネスジェット等の離発着回数については把握できなかった。

4. サンティアゴ国際空港の FBO 及びチリのビジネスジェット等の状況

サンティアゴ国際空港のビジネスジェット等の専用施設²⁶²は並行する滑走路間の中央付近にあり、FBO も存在し、駐機施設、整備作業、機内ケータリングサービス、駐車場、専用の税関及び入国管理機能が充実している。また、VIP 旅客の送迎サービスなどもあり、VIP 専用の税関が存在し、また入国管理をより早く通過できる様コンシェルジュが案内している。なお、チリにおけるビジネスジェット等の離発着回数については把握できなかった。

2) ウリ

パタゴニアのウリである観光資源は、氷河や雪原、活火山などを含む国立公園が数多く点在し、これらを中心に富裕層をはじめとした誘客がなされており、自然環境や世界遺産を生かした各種ツーリズムが存在する。

²⁶⁰ OpenStreetMap を加工し作成

²⁶¹ UNIVERSAL AVIATION (2023.2.15 閲覧) <https://www.universalaviation.aero/locations/argentina/>

²⁶² JETEX (2023.2.22 閲覧) <https://www.jetex.com/network/santiago-chile/>

1. 国立公園²⁶³

パタゴニアには国立公園が数多く存在し、特に代表的とされるトレス・デル・パイネ国立公園やロスグラシアレス国立公園、チリの湖水地方にあるビジャリカ国立公園などは人気の観光地となっている。また、パタゴニアは全域で最も有名な氷河がいくつかあるが、水上から船でアクセスするツアーもあり、多くの観光ポイントが点在している。

・トレス・デル・パイネ国立公園

花崗岩の塔が象徴的なトレス・デル・パイネ国立公園は、パタゴニアで最も人気のある観光地の一つ。トレッキングで最も有名だが、その他にも人里離れたエスタンシアでの乗馬、氷河でのアイスハイキング、氷山でのカヤック、厳しい山道でのサイクリングができる。

・ロスグラシアレス国立公園

アルゼンチンで最も有名な国立公園でハイカーはフィッツロイ山塊を探索するためにここに集まり、スリルを求める人は世界遺産であるペリトモレノ氷河の壁を船からアクセスする。また、人里離れたエスタンシアでは、何マイルも続く広大な景色を楽しむことができ、ロスグラシアレス国立公園への旅行は通常 5 日間、エルカラファテ空港から出発し、氷河や山脈ハイキングを終え、エルカラファテ空港へ戻る往復ルートが最も人気となっている。

・ビジャリカ国立公園・チリ湖水地方

ビジャリカ国立公園は、3 つの火山（うち 1 つは現在も活動中で噴煙をあげている）があり、これらの火山へ多く観光客が訪れる。チリのアドベンチャースポーツの中心地であり、整備された多くのトレイルはアウトドアプレイグラウンドとなっている。ハイキングやマウンテンバイク、乗馬、ビジャリカの森、草原、火山、氷河が探検の対象となっている。

・南パタゴニア チリ フィヨルド地方

南パタゴニアの起伏に富んだ地形は、最も優れたハイカーでさえも到達できないエリア。パタゴニア・クルーズは、海洋生物が生息するチリのフィヨルド、ホーン岬、そしてエレクトリックブルーの氷河へ近づくことができる。



図 17 パタゴニア国立公園の位置図²⁶⁴

2. 世界遺産²⁶⁵

パタゴニアには世界遺産が 4 件登録されており、自然遺産としてバルデス半島、国立公園でもあるアルゼンチンのロスグラシアレス、ロス・アレルセスの 3 件、文化遺産としてパタゴニアの洞窟芸術を残すクエバ・デ・ラス・manosの 1 件が登録されている。

²⁶³ SWOOP PATAGONIA (2023.2.15 閲覧) <https://www.swoop-patagonia.com/>

²⁶⁴ OpenStreetMap を加工し作成

²⁶⁵ UNESCO (2023.2.15 閲覧) <https://whc.unesco.org/>

3. アドベンチャーツーリズム²⁶⁶

パタゴニアは、アンデス山脈、パタゴニアの氷帽、大西洋と太平洋の合流点など、世界最大の地理的影響によって形成されており、氷河原、山、火山、湖、フィヨルド、さまざまなフィールドで数多くのアドベンチャーツーリズムを楽しむことができる。

世界有数のハイキングコースを巡るハイキング、氷河や火山のトレッキングや登山、他の方法ではアクセスできないフィヨルドをカヤックやラフティングで移動、バックカントリースキー、マウンテンバイクでのアドベンチャー・サイクリング、フィッシングや乗馬、アドベンチャークルーズ等が提供されている。

4. サステナブルツーリズム

チリでは毎年 25 万人がトレス・デル・パイネ国立公園を訪れるが、地域環境の悪化が進み、廃棄物が急増し自治体で対応できなくなっており、過酷な気候であるパタゴニアはインフラのメンテナンスが非常に困難な状況となっている。そこでトレス・デル・パイネ・レガシーファンド²⁶⁷を設立し、国立公園を訪問者と住民が協力して自然と文化資産の永続的な保護と促進をおこなう世界クラスの目的地にすることを目指している。プロジェクトは、インフラストラクチャと地域の生態系回復、およびコミュニティ開発、安全な観光の促進に焦点を当てている。地元企業と協力してリサイクルシステムを開発し、毎週「リサイクルの日」を設け、リサイクル可能な材料を貯めるための「クリーンポイント」を設置した。回収した利用可能な材料は地元の港に運ばれ 2,000km 以上離れたプエルトモンにあるリサイクル施設へ送られた。このプロジェクトは成功を収め、現在では地元のコミュニティメンバーによって管理されている。こうしたボランティア活動と組み合わせたボランティアツーリズムもあり²⁶⁶、参加者はボランティア活動をしながらい費用で観光を楽しむこともできる。

5. ガストロノミーツーリズム²⁶⁶

ロスグラシアレス国立公園への玄関口となっているフィッツロイ山脈にある小さな町、エルチャルテンには主に観光客向けのバーやレストランがあり、ハイキングの後に足を休めることができる。エルチャルテンの料理とワインは、ブエノスアイレスから山のライフスタイルを味わうためにやってきたシェフたちによって、ここ数年で急速に発展している。

3) ヤド

パタゴニアでは富裕層向けに最高級のホテルやロッジが各国立公園の近くにあり、ここから直接アドベンチャーツーリズムにアクセスする補助、専用ガイド、また、空港とホテルを結ぶ送迎などの支援を行っている高級ホテルも一部存在している。

トレス・デル・パイネ国立公園へはプエルトナタレス空港からアクセスが可能、ロスグラシアレス国立公園へはエルカラファテ国際空港からアクセスできる。チリ湖水地方は、ビジャリカ国立公園の近くにあるテムコ空港からアクセスでき、チエロ島方面へはプエルトモント空港からアクセスできる。

1. トレス・デル・パイネ国立公園の高級ホテル

豪華なホテル、ロッジやグランピング施設があり、数日間のハイキングでは、キャンプをしてもプライバシーが保たれ、テントもすでに張られているので道具を運ぶ必要もなく、主要なトレイルにアクセスしやすい場所にありパタゴニア文化に浸ることもできる。

²⁶⁶ SWOOP PATAGONIA (2023.2.15 閲覧) <https://www.swoop-patagonia.com/>

²⁶⁷ Grassroots Collective (2023.2.15 閲覧) <https://www.thegrassrootscollective.org/torres-del-paine-legacy-fund>

表 36 トレス・デル・パイネ国立公園の高級ホテルの一例²⁶⁸

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Tierra Patagonia	プエルトナタレス空港から車で1時間	ロジタイプ1室 1名あたり約 US\$6000から/3泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・スパ、バーを提供 ・スイートの部屋より国立公園の景観 ・トレッキングなどアドベンチャーツアー手配可 ・空港からのプライベート送迎付き
Explora Patagonia	プエルトナタレス空港から車で1時間40分	ホテルタイプ1室 1名あたり US\$5320から/4泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・温水プール、スパ、バーを提供 ・部屋より国立公園の景観 ・ハイキング、乗馬、トレッキングなどの専属ガイド付きツアー手配可能 ・小型プロペラ機による近隣の空港や国立公園等への送迎付き

2. ロスグラシアレス国立公園の高級ホテル

ロスグラシアレス国立公園の玄関口であるエルカラファテには数多くのホテルやロジがあり、中心部にはレストランやバーも点在している。

表 37 ロスグラシアレス国立公園の主な高級ホテル²⁶⁸

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Hotel Eolo	エルカラファテ空港から車で1時間	ホテルタイプスイート1室/1名あたり約US\$1280から/1泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・プール、サウナ併設 ・レストランは世界的一流のメンバーシップを授与(ルレ・エ・シャトー) ・トレッキング、バードウォッチングなどアドベンチャーツアー手配可能 ・空港、エルカラファテからのプライベート送迎

3. チリ湖水地方の高級ホテル

チリ湖水地方はプエルトモンントに近く、チエロ島付近には高級なリゾートホテルがある。このプエルトモンントから西におよそ2kmに位置するアンヘルモもチリの重要な港で、魚介類が豊富に取れる活気ある漁港として、プエルトモンント観光の人気スポットとなっている。

表 38 チリ湖水地方の主な高級ホテル²⁶⁸

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Hotel Vira Vira	テムコ空港から車で1時間40分	ヴィラタイプスイート1室/1名あたり約US\$5080から/4泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・暖炉、スパがあり ・レストランでは敷地内乳製品工場、農園の生産品を調理提供 ・ハイキング、カヤック等のツアー手配可能 ・空港からのプライベート送迎付き ・ヘリによる送迎やツアー手配も可能

4) アシ(空港からの二次交通)

パタゴニアはエリアとしては広大であるが、ごく一部富裕層向けの移動手段があり、プエルトナタレス空港(チリ)からトレス・デル・パイネ国立公園の宿泊ホテルや観光地を結ぶ高級車による送迎や、チャーター・ヘリコプターのサービスを提供する事業者が存在するが、基本的には高級宿泊施設にてプライベートな移動手段で送迎サービスを準備している。またチリのフィヨルド地方ではスーパーヨットをチャーターしてアドベンチャークルーズに活用することもできる。

²⁶⁸ SWOOP PATAGONIA より作成 (2023.2.15 閲覧) <https://www.swoop-patagonia.com/>

1. 高級送迎車

空港から高級ホテル、国立公園へ、プライベートな専用車での送迎を提供する事業者があり²⁶⁹、エルカラファテ空港（アルゼンチン）からトレス・デル・パイネ国立公園までの送迎サービス等を行っている。また、プエルトナタレス空港（チリ）からトレス・デル・パイネ国立公園への豪華送迎を行っている事業者²⁷⁰ではラグジュアリー・トランスポートーションを提供している。客の旅程に応じてルートやスケジュールの計画を立て毎日運行が可能となっている。旅程を厳守し訪問を成功させるために知識豊富なドライバーを雇っている。

2. チャーター・ヘリコプター

パタゴニアでは空港からヘリポートのある高級ホテルや、トレス・デル・パイネ国立公園近くのプエルトナタレス空港（チリ）からロスグラシアレス国立公園近くにあるエルカラファテ空港までのチャーター・ヘリコプターによる送迎サービスを提供する事業者²⁶⁹がある。また、エルカラファテ空港（アルゼンチン）からペリトモレノ氷河へチャーター・ヘリコプター遊覧飛行サービス等も提供している。

5) ヒト

パタゴニアを対象としたツアーガイドを養成するアドベンチャーガイド資格取得コース²⁷¹があり、現地で12週間にわたる必要なトレーニングで、International Wilderness First Aid Certificate または Pre-Hospital Emergency Care（料金：12週間/10,495 US\$）の資格を取得し、パタゴニアでのアドベンチャーガイドとして活躍することができる。資格取得には年齢制限や、一定程度の会話力（英語、スペイン語）、安全にガイドを行うために必要な体力や精神力、泳力等の条件がある。

6) コネ

パタゴニアはアルゼンチンとチリに分かれているが、国間で連携、パタゴニアに特化して行われている取組は確認できなかったが、各国それぞれの取組について紹介する。

1. アルゼンチンの観光プロモーション²⁷²

アルゼンチン政府は、「国家観光計画 2016-2019」を策定し、観光分野での野心的な目標を掲げており、観光大臣によると、4年間で海外からの観光客数を50%増加させ、その支出を90%と大幅に増加させることを目指している。さらにこの目標を達成することで、「観光産業のバリューチェーン全体において4年間に30万人の新規雇用を創出し、革新的な新技術の適用、起業家の支援、アルゼンチンのすべての観光地におけるトレーニングと品質の向上を促進する」と断言している。アルゼンチンは2015年に3万人の中国人観光客を受け入れ、中期的にはこの数字を5倍から10倍にできるよう中国からの観光客を迎える準備を整えている。世界観光機関（UNWTO）²⁷³は、2020年までに中国が最大の供給国になると予測している。これらを踏まえアルゼンチンは中国との観光関係を強化するため、相互の理解促進と強化を図り、中国人観光客のアルゼンチン訪問を容易にするために米国や欧州の旅行ビザを取得した場合、オンラインで電子旅行フォームを入力するだけでアルゼンチンへ入国が認められるようになったと発表した。また、ブラジルとチリに対しても同様に、中国人がブラジルやチリのビザを取得した場合、アルゼンチンではそのビザが認められ、他のビザは必要なくなる政策を打ち出している。

²⁶⁹ Argentina Flight Adventure（2023.2.22 閲覧）<https://argentinaflightadventures.com/>

²⁷⁰ TELETRANS（2023.2.15 閲覧）<https://www.teletrans.com/luxury-transportation-torres-del-paine-chile/>

²⁷¹ PURE EXPLORATION（2023.2.15 閲覧）

<https://www.pureexploration.nz/adventure-guide-programs/south-america/adventure-guide-program-patagonia/>

²⁷² THE WORLDFOLIO グローバルツーリズム 2016年11月29日記事より（2023.2.15 閲覧）

<https://www.theworldfolio.com/news/argentina-redoubles-/4227/>

²⁷³ World Tourism Organization（UNWTO）https://www.unic.or.jp/info/un/unsystem/specialized_agencies/unwto/

2. チリによる観光プロモーション²⁷⁴

チリは FITUR2020 (International Tourism Trade Fair2020、国際観光見本市 2020、マドリードで開催) に参加し、持続可能な開発とマルチデスティネーションのアウトドおよびアドベンチャー体験という指針のもと、新しい国際観光促進キャンペーンを発表。このキャンペーンは観光客の訪問・滞在時間の延長、国内消費の増加、観光提供における新しい提案の取り込みを主な目的としており、主要市場におけるチリのイメージの刷新にも貢献するものと思われる。チリ観光次官のモニカ・ザラケット氏は、「2019 年はヨーロッパ市場にとって進歩的な成長の年でしたが、残念ながら 10 月に始まるチリの社会的騒乱の影響を受け、特に国のイメージの面で影響を受けました」と示している。これらの出来事の影響を軽減するために、政府は観光に新たな弾みをつけ、チリの観光産業を再活性化するための一連のアクションを展開している。チリの観光産業は国の GDP の 3.3% を占め、国の経済・社会発展の原動力として重要な役割を担っている。

FITUR 2020 でのキャンペーンは、「不可能を可能にするチリ」というスローガンのもと、公共政策やプロモーションの観点から、持続可能性を特に重視し、新しいデスティネーション、商品、観光サービスの開発まで、いくつかの戦略線に取り組んでいる。また、公共政策の面では、チリの自然景観や人々との関係において、チリのユニークな特性を支援し、強調するものであり、アストロツーリズム、自然・アドベンチャーツーリズム、ワインツーリズムなど、他とは異なる観光体験を提供するキャンペーンを実施する。さらに、WTO が定めた社会文化、環境、経済の側面で、持続可能な観光の世界基準を満たした観光企業を示す「S シール」ラベルを付与し、国の持続可能な観光を促進し、自然や野生動物、ガストロノミー、スポーツ、考古学や文化、ワインツーリズム、アストロツーリズムなどのアクティビティを中心に、旅行者と宿泊施設を補完的に提供する持続可能なビジネスを支援するために、地域社会とのプログラムを作成・拡大することとしている。

²⁷⁴ CHILE TRADENEWS 2020 年 1 月 24 日記事より (2023.2.15 閲覧)

<https://tradenews.chile.travel/en/chile-presents-its-international-tourism-promotion-campaign-at-fitur-2020/>

第9節 コスタリカ

コスタリカは南北アメリカ大陸を結ぶ地峡地帯に位置し、人口は約 520 万人（2022 年）²⁷⁵、面積約 5 万 1,000 km²（ほぼ九州と四国を合わせた大きさ）である。

コスタリカは国の東西を太平洋とカリブ海に面し、国土の中央部を現在も活動中の火山帯が占める変化に富んだ地形が素晴らしい自然を育てており、国土の約 1/4 が国立公園（保護区）、地球上の全動植物種の約 5% が生息している特徴ある国である。首都サンホセ市を中心に主要都市が集中しコスタリカの中心となっており、太平洋、カリブ海沿岸の低地は高温多湿の熱帯性気候である。



図 18 コスタリカ位置図²⁷⁶

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

1. ファン・サンタマリーア国際空港

ファン・サンタマリーア国際空港はコスタリカ最大の国際空港であり、サンホセから約 19km 離れた位置にある。国内線、国際線共用の一般旅客ターミナルが 1 つ存在し、後述のとおり、ビジネスジェット等の専用施設が別にある。滑走路は約 3,000m が 1 本、24 時間運用の空港である²⁷⁷。

空港の利用者数は 2019 年 5,185,510 人、2022 年 2,862,176 人²⁷⁸であった。空港から市内中心部への一般的な移動手段はバスもしくはタクシーで約 30～60 分、鉄道アクセスは存在しない。なおコスタリカでは各地域にウリが点在、それらには、各近隣にある空港のダニエル・オドゥベール国際空港、プエルトヒメネス空港等経由でアクセスすることもある。



図 19 コスタリカ空港位置図²⁷⁶

2. ファン・サンタマリーア国際空港の FBO 及びビジネスジェット等の状況

ファン・サンタマリーア国際空港にはビジネスジェット等の専用施設²⁷⁹が 2019 年 12 月にオープン、ビジネスジェット等の利用客用ラウンジ、CIQ 設備があり、ハンドリング、機内ケータリング等のサービスがある。FBO については複数存在し、一部の FBO ではエアサイドのみでなく、空港の外側もサービスしているのでエプロンのビジネスジェット機体横からホテルや観光地等へ直接リムジン等で移動するサービスを提供している²⁸⁰。

なお、ファン・サンタマリーア国際空港におけるビジネスジェット等の離発着回数については今回把握できなかった。

²⁷⁵ CIA(2023.3.5 閲覧) <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/costa-ica/>

²⁷⁶ OpenStreetMap を加工し作成

²⁷⁷ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/MROC>

²⁷⁸ SJO Airport(2023.3.1 閲覧)<https://sjoairport.com/en/aeris/statistics/>

²⁷⁹ GAT(2023.3.9 閲覧) <https://www.gat-sjo.com/>

²⁸⁰ Universal Aviation(2023.3.1 閲覧) <https://www.universalaviation.aero/locations/costa-rica>

2) ウリ

コスタリカ政府は「2021年までに世界初のプラスチックフリー&カーボンニュートラル国家になる」ことを宣言したことから²⁸¹サステナブルツーリズムを中心にアドベンチャーツーリズム、ウェルネスツーリズム等の様々なウリが存在する。

1. サステナブルツーリズム

コスタリカは肥沃な自然環境を有しており、サステナブルツーリズムの開発に熱心で、また国土の約四分の一を保護区として管理しているなど環境保護にも積極的に取り組んでおり、自然環境を保護した上で、それを生かしたツアーが設定されている²⁸²。コスタリカには全世界の10%に及ぶ850種類の鳥類が生息、全世界に生息する8種のうち6種類のウミガメがコスタリカの海岸に産卵に来て、特に何十万匹のカメが一斉に産卵する様子を観察するツアー等が存在する。

野生動物ツアーとしてはサンホセから中央高地の豊かな農業地域へ移動、滝、川、洞窟で独自の様々な動植物を観察、次にケツァールを始め170種の鳥等をウォッチング、さらにボートで移動しクジラ、イルカ、シャチ、シュノーケリングツアーでオニイトマキエイ等を観察、その後ハイキングにて様々な野生動物を観察できるツアーがある²⁸³。

ジャングルナイトツアーとして夜間に国立公園を探索し、生物多様性地域の日中とは全く異なる側面を観察するハイキングを行い、専門ガイドと一緒にカエル、ヘビ、サソリ、トカゲ、タランチュラなどの夜行性の生き物を発見するツアーがある²⁸⁴。

2. アドベンチャーツーリズム²⁸⁵

コスタリカは自然環境では緑豊かな熱帯雨林、太平洋とカリブ海に面した美しいビーチ、活火山アレナル火山、雲霧林（熱帯・亜熱帯地域の山地で湿度の高い場所にある森林）等があり、そこに住む多数の野生生物を見ることができ、これらをベースとして様々なアドベンチャーツアーが企画されている。

バードウォッチングツアーとして早朝にロスケツァレス国立公園に移動して輝くケツァールを観察し、公園ではハチドリ、ヒタキ、キツツキ、タカ、ミソサザイ、タナガーなどを見つけるツアーがある²⁸⁶。

レインフォレストアドベンチャーサファリツアーとして4WD車に搭乗してガイド兼ドライバーが運転してバックカントリー、熱帯雨林、川を横断するアドベンチャードライブを提供するツアーやナショナルジオグラフィックによって名付けられた世界の10大ベストラフティングの川と呼ばれている川で、映画のジュラシックパークのような風景の中をラフティング、キャニオリング、有名な急流に挑戦し、高さ150フィートのワカス滝を眺めるツアーもある。

なお、コスタリカではサーフィンの世界選手権が開催されるほど良いポイントがある。地元で25年以上のサーフィン経験をもつサーフガイドが案内するサーフィンツアー、上級者向け、経験豊富なサーファーのみが参加できるツアーもある。

²⁸¹ UNEP(2023.3.13 閲覧) <https://leap.unep.org/countries/cr/case-studies/costa-rica>

²⁸² 在コスタリカ日本大使館 (2023.3.1 閲覧) https://www.cr.emb-japan.go.jp/japones/info_costaricajp/otros.html

²⁸³ tourradar(2023.3.10 閲覧)<https://www.tourradar.com/t/88767>

²⁸⁴ Tripadvisor(2023.3.10 閲覧) https://www.tripadvisor.jp/AttractionProductReview-g309274-d15604446-Manuel_Antonio_Jungle_Night_Tour_with_pick_up_included-Manuel_Antonio_Quepos_Provi.html

²⁸⁵ Adventuretours costarica (2023.3.8 閲覧)

<https://www.adventuretourscostarica.com/tours/jaco-rainforest-adventure-booze-cruise>

²⁸⁶ Tripadvisor (2023.3.10 閲覧) https://www.tripadvisor.jp/AttractionProductReview-g309274-d19146136-Quetzal_Birdwatching_Experience_at_San_Gerardo_De_Dota_Group_Tour-Manuel_Antonio_Q.html

3. 国立公園（ビーチ含む）

コスタリカはその国土の25%を国立公園とし、多様な生態系を保護している。表39のとおり美しいビーチ、活火山、緑豊かな熱帯雨林等の多様性に富んだ国立公園があり、サステナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムに併せてツアーが提供されている。

表 39 コスタリカの代表的な国立公園²⁸⁷

公園名	概要
カララ国立公園	この湿った野生の国立公園は、うっそうとした熱帯雨林に覆われている。400種類以上の鳥類が生息する保護区で、様々な貴重な鳥を木々の間を観察することができる。
カウイータ国立公園	美しいビーチと透き通った海で最もよく知られている。手付かずの熱帯雨林は、常に目と鼻の先にあり、イグアナやサルが見られる。海でシュノーケリングを楽しむとウミガメや種々の魚を楽しめる。
イラス火山国立公園	公園の火山にちなんで名付けられたイラス公園、この山は活火山で標高3,432m、1963年の噴火を最後に現在は沈静化しており、クレーター周辺を歩き回ることができ、晴れた日には太平洋と反対側にカリブ海を眺めることができる。
アレナル火山国立公園	国内で最も活発な火山アレナル火山がある。標高1,633mで美しい円錐形の形状、頂上には直径140mの火口がある。裾野の森林には約850種の鳥が生息し、公園内には高さ70mのラフォルトゥーナ滝や天然温泉がある。
トルトゥゲーロ国立公園	マングローブ林、湿地、熱帯雨林、ラグーン等多種の自然環境が存在、そのため非常に多様な生物が生息していてコスタリカ国内で最も多様な風景が見られる。海にはマナティー、ワニ、ウミガメが生息している。
コルコバード国立公園	ナショナルジオグラフィック誌で「世界で最も生物多様性の高い地域」に選ばれ、自然愛好家には必見。見どころやアクティビティが豊富で数えきれないほどの素晴らしい景色とアクティビティが楽しめる。シュノーケリングやダイビング、トレッキングでバクやスパイダーモンキーを見ることができる。
マヌエルアントニオ国立公園	世界で最も美しい国立公園のリストに何度も掲載されている。手付かずのビーチ、緑豊かな熱帯雨林があり、コスタリカで最も訪問者の多い国立公園。

4. 世界遺産²⁸⁸

コスタリカには世界遺産が複数登録されており、自然遺産として国立公園でもあるタラマンカ地方、ココ島国立公園、グアナカステ保全地域、ディキスの石球のある先コロンブス期首長制集落群等が登録されており、これらの環境を生かしたツアーが提供されている。

5. ウェルネスツーリズム²⁸⁹

コスタリカは火山による数多くの温泉が存在しており、温水プール型のスパは200年以上にわたって治療目的で使用されており観光客からの人気が高い。特にコスタリカのアレナル火山の周囲の土地は多くの温泉に恵まれており、多くの温泉は地下から汲み上げているが、スパでは、地面からの温かい湧き水を活用しており、ミネラル分が少なく温泉によくある硫黄臭がないのが特徴である。

²⁸⁷ Wereldreizigers (2023.3.13 閲覧) <https://www.wereldreizigers.nl/midden-amerika/costa-rica/de-10-mooiste-nationale-parken-in-costa-rica-duurzaam-ecotoerisme/>

²⁸⁸ UNESCO (2023.2.15 閲覧) <https://whc.unesco.org/>

²⁸⁹ A luxury travel blog (2023.3.10 閲覧) <https://www.aluxurytravelblog.com/2015/05/29/4-of-the-most-luxurious-hot-springs-in-costa-rica/>

3) ヤド

コスタリカは豊かな自然環境・生態系に恵まれており、サステナブルツーリズムの考え方がとても発達していることから中央アメリカの中でもとりわけ海外からの観光客が多い。これらの観光客、主に富裕層を受け入れるため海沿いの高級ヴィラや様々な高級ホテルが存在する。

表 40 コスタリカにおける主な高級ヴィラの一例²⁹⁰

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Cielo Lodge	ファン・サンタマリーア国際空港からプエルトヒメネス空港へ約 50 分そこから車で 2 時間	1 棟貸 3 寝室 /約 400 万円/5 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・プール付き ・プライベートシェフ、バーテンダーサービス、バトラー、警備員、運転手など利用可能 ・空港等からのプライベート送迎付き
Casa Caiman	ファン・サンタマリーア国際空港からダニエル・オドゥベール国際空港まで約 50 分、そこから車で約 45 分	1 棟貸 5 寝室 /約 310 万円/5 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・プール、ジャグジー付き ・有名ゴルフコースの会員アクセス付き ・プライベートシェフ、バトラーなど利用可能 ・空港等からのプライベート送迎付き

表 41 コスタリカにおける主な高級ホテルの一例²⁹¹

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Drake Bay Getaway Resort	ファン・サンタマリーア国際空港からプエルトヒメネス空港へ約 50 分、そこから車で 2 時間	ロジタイプ 1 室 /1 名あたり約 US\$1000/1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜、サンゴ礁等野生保護区のような雰囲気のある景観 ・レストランで郷土料理を提供 ・シュノーケリング、国立公園などツアー、プライベートガイド手配可 ・空港からプライベート送迎付き
Andaz Costa Rica Resort at Peninsula Papagayo	ファン・サンタマリーア国際空港からダニエル・オドゥベール国際空港まで約 50 分、そこから車で約 60 分	スイート 1 室/1 名あたり約 US\$2400 /1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のプライベートビーチ、プールを備えた高級リゾート ・ビーチへのボート送迎あり ・キッズクラブ（託児）あり ・あらゆる年齢層向けのアウトドアアドベンチャーやアクティビティプログラムの利用可能

4) アシ（ラグジュアリー移動）

ファン・サンタマリーア国際空港において空港と宿泊ホテルや観光地等の間を高級車等で送迎するサービス事業者があり、地方においても観光客の多いダニエル・オドゥベール国際空港でも同様の事業者が存在する。また、会社は少ないがヘリコプターによる地方の空港や目的地への送迎サービスもある。

サンホセには都会型の高級ホテルは多く存在するが、いわゆる観光のための高級ホテルは少なく、それらはコスタリカの海岸沿い等に多いためファン・サンタマリーア国際空港からはどうしても遠くなる。このため、同空港から地方にあるダニエル・オドゥベール国際空港、プエルトヒメネス空港等近隣の空港経由で宿泊施設や観光地等にアクセスする例を確認した。

²⁹⁰ Airbnb よりデータを加工し作成(2023.3.13 閲覧) <https://www.airbnb.jp/costa-rica/stays/luxury>

²⁹¹ Forbes TRAVEL GUIDE より各施設公式 HP データを加工し作成(2023.3.13 閲覧) <https://www.forbestravelguide.com/>

1. 高級送迎車

ロールスロイス等の超高級車をドライバー付きで提供する事業者は確認できなかったが、メルセデス・スプリンター等、主に比較的大型の高級車を活用したドライバー付きの送迎サービスを提供する事業者²⁹²があり、ビジネスジェット等の航空移動手配も併せて行っており、着陸機に横付けして送迎を行うサービスも提供している。この事業者を含め送迎付きのツアーを併せて提供している事例²⁹³があった。

2. チャーター・ヘリコプター

ファン・サンタマリーア国際空港を中心に多機種のヘリコプター、固定翼プロペラ機、さらにはビジネスジェット等まで提供する事業者があり、ホテルへの輸送以外にも観光ツアー、サプライズバースデーフライト、メディカル輸送等を提供している事業者がある²⁹⁴。

5) ヒト

1. ツアーガイド等の資格認定

コスタリカ観光局において、公認ガイドのトレーニングプログラムを設立、監視する公的部門と民間部門の代表者からなる機関である全国観光ガイド委員会（CONAGUITUR）の正式な設立と導入が発表されている²⁹⁵。CONAGUITURはコスタリカ観光局によって監督され、コスタリカ観光ガイド協会とコスタリカ全国観光ガイド協会連盟にて構成されている。さらに国立訓練研究所、国立観光会議所、コスタリカ運営協会の代表も積極的に関与している。なお、コスタリカ観光局では2,299人のガイド等に証明書を付与しており、うち一般証明書を1,226人、ローカル証明書を634人、アドベンチャーアクティビティを専門とする照明書を439人に付与している。

コスタリカでは、コスタリカ観光局がツアーガイドを認定している。申請できる資格にはさまざまな種類があり、全般的なガイド、ローカルガイド、アドベンチャーガイドおよびナチュラリストガイドがある。全般的なガイドになるにはいくつかの要件を満たす必要があり、1,000時間以上の観光コース研修を完了する必要がある。これによりコスタリカの地理、自然史、文化遺産、古代および現代の歴史に関する知識が得られ、カスタマーサービス、英語力、安全性（心肺蘇生と高レベルの応急処置）などについても研修を行う。

6) コネ

コスタリカはサステナブルツーリズム先進国とされており、サステナブルに関連する各種取組が多く、力を入れている。

1. コスタリカ観光局の観光開発事業²⁹⁶

コスタリカ観光局は観光計画と開発の方向性を通じて、観光オファーの差別化要素として、コスタリカの文化遺産を組み込むことにより、製品の競争力と観光地を改善する戦略を策定し、取組を進めている。例として、「アイデンティティのある工芸品」と呼ばれるトレーニングプログラム、伝統的なレシピコンテストの結果である国の各地域の169巻からなる伝統的なコスタリカ料理レシピ本作成、観光に関連する人や組織の訓練（ビジネスの管理、国内のさまざまな観光地の競争力、国内外の観光客の満足度を向上させるため2,120人を訓練することができた）等がある。さらにコスタリカ独自のダンス、音楽、童謡、連句、演劇、風光明媚な芸術などコスタリカの文化的表現をサポート・促進している。

²⁹² ITL COSTARICA(2023.3.12 閲覧) <https://www.iltcostarica.com/>

²⁹³ LiberiaAirportShuttle(2023.3.12 閲覧) <https://liberiaairportshuttle.com/>

²⁹⁴ Helijet(2023.3.12 閲覧) <https://www.flyhelijet.com/>

²⁹⁵ The Costa Rica Star (2023.3.12 閲覧)

<https://news.co.cr/costa-rica-tourism-board-creates-national-commission-of-tourist-guides/78929/>

²⁹⁶ コスタリカ観光局(2023.3.12 閲覧) <https://www.ict.go.cr/en/our-work/tourism-development.html#vi-cultural>

2. デスティネーションプレゼンテーションの取組²⁹⁷

コスタリカ観光局はプロモーションプレゼンテーションを、より多くの訪問者を生み出すための情報提供として、旅行代理店を対象に実施している。旅行代理店への情報提供は国の宣伝において非常に重要であり、これらのプレゼンテーションにより旅行代理店はコスタリカの独占的な製品について幅広い知識を持ち、関心を高めている。

コスタリカ観光局が設定したマーケティングプラン 2013-2016 の戦略的目標でも「一連のマーケティング活動を通じてコスタリカへの国際観光客の年平均 3.5% の増加に貢献する」及び「ヨーロッパ地域からの観光客の到着が増加するように、国際的な旅行代理店との連携によって優先地理的市場を多様化する」ことを目標としている。

3. プラスチックフリー&カーボンニュートラル国家宣言

コスタリカ政府は生物保護をするエコツーリズムの発祥地であることや、電力の 98% を再生可能エネルギー（水力 70.08%、地熱 14.18%、風力 13.46%、バイオマス 0.86%）に依っていることから²⁹⁸、環境先進国として広く知られており、「2021 年までに世界初のプラスチックフリー&カーボンニュートラル国家になる」こと、「ペットボトルやレジ袋など使い捨てプラスチック製品を再生可能かつ 180 日以内に水中で分解可能な製品に置き換えること」等を宣言している²⁹⁹。

4. サステナビリティ認証プログラム（CST）³⁰⁰

持続可能な観光開発は自然と文化資源の適切な利用、地域社会の生活の質の向上等への相互作用となり、国の発展にも貢献する。コスタリカでは持続可能な観光開発を推進するため、CST（Certification for Sustainable Tourism、持続可能な観光認証）が実施されている。

CST の主な目的は、持続可能性という概念を、この国の観光競争力という文脈において、現実的、実践的、かつ必要なものに変えることであり、自然・社会的資源の利用方法を改善し、地域社会の積極的な参加を促進し、起業家部門の競争力に新たな支援を提供しようとするものである。

CST は、コスタリカ観光局のプログラムの一環として行われており、その運営が持続可能性モデルに近づく程度に応じて組織を分類および区別するように設計されている。規格の基準への準拠の程度は、要求組織のオンライン審査を通じて行われる。組織の持続可能な管理の統合プロセスを評価し、社会的、経済的、文化的支援および促進プログラムの実施、実行、監視を重視すること、また、組織の運営によって環境に与える影響と適用された削減、緩和、適応策を評価すること、さらに宿泊、ツアー運営、観光輸送、テーマパーク、レンタカー、美食、温泉とスパ、保護地域と機関と組織を考慮して組織自身の行動を評価し CST を付与する。

5. CST 規格の国際基準認定への取組³⁰¹

Global Sustainable Tourism Council（GSTC）³⁰² により、コスタリカの宿泊施設およびツアーオペレーター向けの持続可能な観光認証（CST）基準が「GSTC 認定基準」ステータスとして 2020 年に認定されている。GSTC 認定ステータスを達成するということは持続可能な観光基準が GSTC の技術専門家と GSTC 認定パネルによって審査され持続可能な観光の GSTC 基準と同等であるとみなされたことを意味する。

²⁹⁷ コスタリカ観光局(2023.3.12 閲覧) <https://www.ict.go.cr/en/institutional-services/destination-presentations.html>

²⁹⁸ JETRO(2023.3.6 閲覧) <https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/07/5197312236772c06.html>

²⁹⁹ The Costa Rica NEWS(2023.3.5 閲覧)

<https://thecostaricanews.com/2021-costa-rica-will-be-first-country-eliminate-single-use-plastics/>

³⁰⁰ コスタリカ観光局 (2023.3.12 閲覧)<https://www.ict.go.cr/en/sustainability/cst.html#a-hallmark-of-tourism-sustainability>

³⁰¹ GCST 認定 (2023.3.12 閲覧)<https://www.gstcouncil.org/costa-rica-cst-standard-gstc-recognized-standard/?lang=ja>

³⁰² GCST (2023.3.12 閲覧)<https://www.gstcouncil.org/about/>

6. コスタリカ旅行者によるカーボンクレジットの購入促進の取組

コスタリカのエコツーリズム国立会議所（CANAECO：コスタリカの観光セクターの持続可能性を促進するために活動する民間の非営利団体）では、コスタリカでの旅行によって生じる炭素排出量を相殺することを目的とし、カーボンクレジットの購入を促進する取組を進めている³⁰³。

具体的な方法として、参加を希望する旅行者、企業、旅行会社などは、まずメールで CANAECO へカーボンクレジットの購入リクエストを送付、CANAECO は旅行者の出発地から目的地までの GHG 排出量を算出し、測定結果とその費用を請求書とともに旅行者に情報提供、旅行者は CO₂ 換算 1 トンあたり 7.5 ドルの割合で金額を支払い、CANAECO は旅行者へカーボンクレジットの購入証明書を送付する。CANAECO は、環境サービスの支払いのリソースを提供するために国家林業金融基金と契約を締結し、本基金は森林被覆の維持管理、温室効果ガスの緩和、生物多様性の保護、風光明媚な美しさの保護、水資源の保護等に活用され、CO₂ 削減が行われる仕組みである。

³⁰³ CANAECO(2023.3.5 閲覧) <https://www.canaeco.org/index.php/es/proyectos/viajeros-con-conciencia-climatica>

第10節 ロスカボス

ロスカボスはメキシコのバハカリフォルニア・スル州の南端にあるビーチリゾートで人口は約 35 万人³⁰⁴、面積は 3,750 km²（埼玉県、奈良県と同様）である。

海岸沿いに世界的な高級リゾートが点在、世界的著名人やハリウッドスターが訪れる。マリナーには豪華なクルーザーが停泊し、ダイビングなどのマリンスポーツや、トロリングなどのスポーツフィッシングやゴルフ、世界自然遺産である荘厳な海では、クジラを見る、ホエールウォッチングを楽しむことができる。一般的な観光シーズンは

避寒地として冬季から夏季初めの 10 月から 5 月といわれている。ロスカボスは特に欧米人から人気のリゾート地になっている。観光客がとて多くメキシコの中でも治安が良く、英語も通じる。

2021 年の空路でのメキシコへの外国人旅行者数は前年比 77.6%増の 1,409 万人である。メキシコは新型コロナウイルス感染拡大中も外国人旅行者を受け入れており、入国制限もほとんどなく、外国人の旅行先として選択されていた。国籍別では、米国が全体の 72.7%を占め前年比約 2 倍の 1,024 万人、第 2 位はカナダで約 50 万人である。なおコロンビア（約 45 万人、2.7 倍）、ブラジル（約 32 万人、2.4 倍）、ベネズエラ（約 19 万人、4.7 倍）といった南米からの旅行者が急増している³⁰⁶。

1) 空港概要・FBO 及びビジネスジェット等の状況

1. ロスカボス国際空港

ロスカボス国際空港はメキシコ国内、アメリカ、カナダより定期便が数多く就航している。

2021 年の外国人旅客はメキシコの空港では 3 番目³⁰⁶であり、旅客ターミナルは 2 棟ある。滑走路は 3000m が 1 本、24 時間空港である³⁰⁷。ロスカボス市街地へは一般的に空港シャトル、タクシー等での車移動となり、所要時間は近い市街地であるサンホセデルカボまで約 20 分、遠い市街地であるカボ・サンルーカスまで約 50 分である。

2. ロスカボス国際空港の FBO 及びビジネスジェット等の状況

ロスカボス国際空港では FBO は数多く存在しており、ビジネスジェット等に対して、給油、ハンドリング、駐機、航空機のレンタル、航空機のメンテナンス³⁰⁸などの航空サービスを提供し、高品質な機内ケータリングサービス³⁰⁹や十分な訓練を受けたパイロットのドライバーによるリムジンサービスも提供している事業者³¹⁰も存在し、またビジネスジェット等



図 20 ロスカボス位置図³⁰⁵



図 21 ロスカボス空港位置図³⁰⁵

³⁰⁴ Data Mexico (2023.2.20 閲覧) <https://datamexico.org/en/profile/geo/los-cabos>

³⁰⁵ OpenStreetMap を加工し作成

³⁰⁶ JETRO (2022.2.17 閲覧) <https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/02/ef492fd717a7b8a0.html>

³⁰⁷ AC-U-KWIK (2023.2.14 閲覧) <https://acukwik.com/Airport-Info/MMSD>

³⁰⁸ UNIVERSAL Aviation (2023.2.20 閲覧) <https://www.universalaviation.aero/locations/mexico/>

³⁰⁹ Air Culinaire (2023.2.20 閲覧) <https://www.airculinaireworldwide.com/>

³¹⁰ ASMCORP (2023.2.20 閲覧) <https://www.asmcop.com.mx/ground-transportation/>

専用施設が存在し³¹¹、乗客とクルーに広いスペースを提供している。

なお、ロスカボス国際空港におけるビジネスジェット等の離発着回数については本調査では確認できなかった。

2) ウリ

ロスカボスは海洋生態系の豊かさでは世界に類を見ない地域であり、晴天率が高く気候が魅力の観光地である。ウリである観光資源や各種ツーリズムは多岐に渡るため、ニーズは、複合的なものになっているが、ロスカボス近傍のカリフォルニア湾は後述のとおり世界遺産として登録されている。カリフォルニア湾に生息する種々の海洋生物の宝庫として人気であり、アドベンチャーツーリズム、世界遺産、サステナブルツーリズム、ビーチ、ゴルフなど富裕層向けの様々なウリが存在する。

1. アドベンチャーツーリズム

ロスカボスでは、多くのアクティビティがあり、行動的な富裕層にとって飽きることがなく楽しむことができる。

ロスカボスがあるバハ・カリフォルニア半島は、さまざまな種類のクジラがメキシコ半島の亜熱帯海域で冬を過ごすため、全世界のホエールウォッチングマニアにとって最も重要な地域の1つである。特にコククジラ、ザトウクジラ、ナガスクジラ、シロナガスクジラは、12月から3月まで定期的に観られる。³¹²ロスカボスからは種々のホエールウォッチングツアーが企画されており、通常のヨットよりデッキが広大で安定しており、大勢でパーティーを開催できる豪華なダブルデッキカタマランヨットで素晴らしい料理とアルコールを楽しむウォッチングツアー³¹³が存在する。また、一般的なボート等からの海面近くからのウォッチングとは視点が異なる上空からのウォッチングという別世界のウォッチングが経験できるヘリコプターホエールウォッチングツアー³¹⁴など豪華なツアーもある。

また、ロスカボスではシュノーケリングやオープンバーが楽しめる等多くのセーリングツアーがあるが、サンセットディナークルーズでは、伝統的なメキシカンディナーを食べながら、ラバーズビーチなどの名所を楽しむことができる。最も美しい時間の日没時に、カボ近くの海を航行して、ライブの国際的なバンドが楽しい時間を過ごすのに最適な雰囲気を出すツアー等がある³¹⁵。

2. 世界遺産³¹⁶

ロスカボスではカリフォルニア湾の島々と保護地域群が自然遺産として登録されており、海洋生物の宝庫であり、数千種の生物が生息しているとも言われる海にはオニイトマキエイやイルカなどの水中の野生生物でいっぱいの洞窟、サンゴ礁が多数存在し、これらの環境を生かしてPADI認定³¹⁷ダイビングインストラクターと共に種々の海洋生物を楽しみながらPADI認証を得ることができるツアー等がある³¹⁸。

3. サステナブルツーリズム

ロスカボスでのサステナブルツーリズム活動の例として赤ちゃんカメの養子縁組と解放があり、赤ちゃんカメを養子にして海に放すのを手伝うことができる野生生物保護プログラムがある。種の保護に役立つだけでなく、カメとその生息地についても学ぶことができる³¹⁹。

³¹¹ Grupo Aeroportuario del Pacífico (2023.2.20 閲覧) <https://www.aeropuertosgap.com.mx/es/>

³¹² Whaletrips (2023.2.21 閲覧) <https://whaletrips.org/en/places/mexico-baja-california/>

³¹³ CABOS ADVENTURES(2023.2.21 閲覧) <https://www.cabo-adventures.com/>

³¹⁴ Grand Velas Los Cabos (2023.2.21 閲覧) <https://loscabos.grandvelas.com/newsroom/destination/>

³¹⁵ Viator (2023.2.21 閲覧) <https://www.viator.com/Los-Cabos/d627-ttd>

³¹⁶ UNESCO (2023.2.21 閲覧) <https://whc.unesco.org/en/list/1182>

³¹⁷ PADI(2023.2.21 閲覧) <https://www.padi.co.jp/scuba-diving/about-padi/>

³¹⁸ Locators grandvelas (2023.2.21 閲覧) <https://loscabos.grandvelas.com/newsroom/destination/>

³¹⁹ Calypsotrip (2023.2.21 閲覧) <https://calypsotrip.com/en/los-cabos-adventures>

また、農場から食卓までの料理教室として、有機農場にて自分で野菜等を収穫、メキシコ料理について学びながら、地元のシェフの指示に従って4コースの伝統的な食事を準備する方法を習得、農場の畑の中にバンガローがあり、宿泊することができるプログラムもある³²⁰。

また、環境に配慮した持続可能な観光であるサステナブルツーリズムとして、クジラレスキューの活動として、旅行者はホエールウォッチング中に漁具に絡まったクジラを発見して通報することやこの活動に寄付をすることでサステナブルツーリズムを行うことができる³²¹。

さらに、持続可能な宿泊施設の1つとされているホテルである **Elganzo**³²²は **B** コーポレーション³²³として認定されたメキシコ国内初のホテルであり環境的および社会的責任に関して最高水準を満たしている。同ホテルの持続可能性への取り組みは廃棄物の監視と削減に役立つ環境管理システムを導入、屋上プールは太陽光発電で加熱、食品廃棄物は堆肥化され、使い捨てプラスチックは不使用、旅行者の二酸化炭素排出量への影響はカーボンボンドの購入により非常に少ないものとなっている。

4. ビーチ

ロスカボスには20以上のブルーフラッグビーチ（第3章第1節に記載している、ブルーフラッグ認証を受けたビーチ）があるが、その中でも最も有名なビーチであるパルミージャは豪華なリゾートから深海の冒険までさまざまなレジャー活動に最適であり、2017年にブルーフラッグラベルを取得した後人気上昇し、11月から4月はホエールウォッチング、残りの期間は他の多くのアクティビティにて一年中楽しむことができる。

2018年にブルーフラッグを取得したメダノビーチは何マイルにもわたってビーチが広がりパノラマビューが楽しめる。多くのホテルやリゾートがビーチに並び、グラスボトムボートツアー、潜水艦体験、豪華なヨットツアーが提供されている³²⁴。

5. ゴルフ

年間約300日が晴天のロスカボスにはアメリカのコースにまさるゴルフ場が海岸沿いに作られており、世界の名設計家が手がけたコース³²⁵が点在する。ダイナミックなロケーションを眺めながら、名匠がデザインした戦略的かつクオリティの高いコースでプレーが可能なため非常に人気が高い。また、ロサンゼルスでゴルフを楽しみ、その後豪華客船でメキシコへ南下し、ロスカボスで世界100選に選ばれたゴルフコースにてプレーするツアー³²⁶もある。

6. クラブ&カルチャー

ロスカボスには、メキシコ料理やアメリカ料理を提供するクラブ、バー、レストランがあり、ナイトライフも楽しめる。また、VIPナイトクラブツアーが存在し、プライベートが確保されたVIPアクセスとVIPテーブルにて、メキシコで最もクールなDJが演奏する曲に合わせてダンスを楽しむ事ができる³²⁷。

³²⁰ EVERY STEPH (2023.2.21 閲覧) <https://www.everysteph.com/>

³²¹ RAVEN (2023.2.21 閲覧) <https://ravenmexico.org/>

³²² Elganzo (2023.2.21 閲覧) <https://www.elganzo.com/>

³²³ 米国の非営利団体の B Lab が行う社会や環境に配慮した公益性の高い企業に対する国際的な認証制度。

³²⁴ Elegant Mexico (2023.2.21 閲覧) <https://elegantmexico.com/the-best-blue-flag-beaches-of-los-cabos/>

³²⁵ Golf digest (2023.2.21 閲覧) https://golfdigest-play.jp/travel_s/s16778481

³²⁶ Esprit golf (2023.2.21 閲覧) <https://espritgolf.net/overseas/mexico/cruise-golf>

³²⁷ TripAdvisor (2023.2.21 閲覧)

<https://www.viator.com/ja-JP/tours/Los-Cabos/VIP-Nightclub-Tour-in-Los-Cabos/d627-5511CABOS>

3) ヤド

ロスカボスはメキシコでも屈指の富裕層の来訪地であり、一年を通して多くの人々が訪れている。アメリカをはじめとした各国の富裕層の別荘等も多く売買も盛んな地域であるが、別荘等の保有のない富裕層向けに太平洋に面する立地を生かし海沿いにはプールや美しいプライベートビーチを持つ高級ホテル（最上級スイートルーム、もしくは敷地内にて個別にスイートクラスのヴィラがあるタイプのリゾートホテル）や高級ヴィラが多く点在している。

表 42 ロスカボスにおける主な高級ホテルの一例³²⁸

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
One&Only Palmilla	ロスカボス 国際空港から 車で約 30 分	スイート 1 室 /約 US\$6000/1 泊 ヴィラタイプ 1 室/約 US\$24500/1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 海沿いで景観良好、複数のプール 敷地内にプール付きヴィラタイプ、スイート等多種のルームタイプ ゴルフコース、スパ施設併設 バトラーサービス利用可能 各種料理提供レストラン、バー併設 空港等からのプライベート送迎付き
Solaz A Luxury Collection Resort	ロスカボス 国際空港から 車で約 30 分	最上級スイート 1 室 /約 US\$5000/1 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> 複数のプール、ビーチ、スパ施設を備えた高級リゾート プール付き等多種のルームタイプ バトラーサービス利用可能 各種料理提供レストラン、バー併設 空港等からのプライベート送迎付き

表 43 ロスカボスにおける主な高級ヴィラの一例³²⁹

宿泊施設	所要時間	ルームタイプ/費用	特徴
Casa La Laguna	ロスカボス 国際空港から 車で約 40 分	1 棟貸 7 寝室 /約 500 万円/5 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> プール、ジャグジー付き ビーチ（海岸）に面する プライベートシェフ、バトラー等利用可能 空港からのプライベート送迎付き
Maison de Cortes	ロスカボス 国際空港から 車で約 50 分	1 棟貸 7 寝室 /約 400 万円/5 泊 (時期により変動)	<ul style="list-style-type: none"> プール、ジャグジー付き 丘に位置し太平洋を一望でき、市街地からも近い プライベートシェフ、バトラー等利用可能 空港からのプライベート送迎付き

4) アシ（空港からの二次交通）

ロスカボスは空港から市街地まで近く、最も近いホテル街まで車で 20 分ほどであり、また公共交通機関も比較的少なく、車での移動サービスが多数存在している。

ヘリでの移動サービスも存在しているが、距離がそれほど遠くないことから、リゾート等目的地までの移動もあるが、遊覧やツアー目的の設定が見られる。

1. 高級送迎車

ロスカボスには空港から目的地までの多くの送迎サービスが確認できる。基本的にキャデラックエスカレード、サバーバン等にてパイリンガルで地域のリゾートに精通したドライバーにより送迎を行う事業者³³⁰が多数存在し、併せてホエールウォッチングやセーリング等各種ツアー等の手配が可能な事業者³³¹も存在する。

³²⁸ Forbes TRAVEL GUIDE より各施設公式 HP データを加工し作成(2023.3.13 閲覧) <https://www.forbestravelguide.com/>

³²⁹ Airbnb よりデータを加工し作成(2023.3.13 閲覧) <https://www.airbnb.jp/los-cabos-mexico/stays/luxury>

³³⁰ TRANCSCABO (2023.2.21 閲覧) <https://www.transcabo.com/>

³³¹ VIP Transportation Los Cabos (2023.2.21 閲覧) <https://www.viptransportationloscabos.com/>

ロスカボスは海岸線にホテルやビーチアクティビティ、クラブ等が散在しているため、移動するにも距離が短く、主な目的地までリムジン等で移動が可能である。

2. チャーター・ヘリコプター

ロスカボス国際空港からヘリコプターチャーターサービスの事業者は複数確認されるが、2015年からフライングツアーを行っており、ロスカボスで認定され、政府が承認した訓練を受けたパイロットと快適な機体等を提供している事業者³³²もあり、ヘリからのホエールウォッチングや各種プライベートツアー等のコンシェルジュサービスも提供されている。

5) ヒト

1. メキシコのツアーガイド認証制度

メキシコでは、正式なツアーガイドは観光省を通じて認可されている。ツアーガイドになるための要件は、18歳以上、高校の卒業証書または同等を保有、観光省が実施する筆記及び実技試験に合格、観光省が承認したトレーニングコースを修了することとなっており、これらすべての要件を満たすと5年間有効なライセンスが発行される³³³。

2. オンラインの観光促進インターン募集³³⁴

メキシコ観光省はメキシコ観光促進のために日本向けにインターンシップを募集している。主な業務としてはマーケティング&リサーチ、企画の立案、運営、SNSでの情報発信、サイト運営（記事作成、デザイン、コーディング等）、取引先開拓、取引先対応であり、年間270万人のアクセスがあり、SNS総フォロワー数は約1,600万人のポータルサイト「Visitmexico.com」を活用する仕組みである。

なお、募集要項は、インターンシップ先はメキシコカンクン（オンライン）。報酬はないが提携先事業者によるオンラインツアー、スペイン語レッスンへの無料参加等の特典がある。必要なスキルとしては基本的なPC操作、英語又はスペイン語である。

6) コネ

1. メキシコの観光政策

メキシコ観光省は、メキシコの内閣を構成する省のうちの1つで、公共政策の設計、実行、調整を行う。文化環境事務局と調整してその管理下にある地域やイベントが観光アプローチを獲得するための戦略を策定している。

その戦略においては、2030年に観光業がメキシコの経済発展の重要な部分となるとの認識のもと、観光商品を多様化し、新しい市場を開拓するとのビジョンになっている。また、この戦略の中では、観光会社が国内外で競争力を持つことを奨励して、自然、文化、社会環境を尊重した観光を発展させること、ビジョンを実現するために活動計画の策定、開発提案の促進、観光サービスの運営と促進を支援することで全国的な観光開発を行い、成功事例としていくことが重要であることが掲げられている。

2. 富裕層誘客

ロスカボスホテル協会はロスカボス南部で高級品、結婚式、会議などの豪華な富裕層向けのイベントなどを開催し、標準的な観光客よりも30%を超える収益を上げていると発表した。同協会は「ロスカボスは旅行者の受入団体、航空会社、医学雑誌等を利用して新しい特定のセグメントを引き付けることによって成長の「ブーム」にある」としている。観光イベントの一つとして開催されているツーリストティアングスのようなイベントは、富裕層誘客に効果的に促進するとしている³³⁵。

³³² flyCabo (2023.2.21 閲覧) <https://www.flycabo.mx/>

³³³ CAMBODIA TRAVEL (2023.2.21 閲覧)

<https://www.cambodia-travel.com/the-requirements-to-become-a-tour-guide-in-mexico/>

³³⁴ TIGERMOV (2023.2.21 閲覧) <https://www.tigermov.com/online/detail/833>

³³⁵ Mexico Daily post (2023.2.21 閲覧) <https://mexicodailypost.com/2020/09/27/los-cabos-magnet-for-high-net-worth-individuals/>

3. 「VISIT MEXICO」日本語版サイトを新設、日本市場でプロモーションを強化

メキシコ観光省から委託を受けて観光プロモーションを行う民間機関であるビジットメキシコ・ジャパンはメキシコ公式観光情報サイト「VISIT MEXICO」日本語版をリリースし、日本市場でプロモーションを強化している³³⁶。

4. 観光大国メキシコの将来像を示す旅行博

メキシコ観光省とメキシコ観光局が主催する BtoB の旅行博「ティアンギス・トゥリストエイク」の 43 回目を 2018 年に開催している。(その後はバーチャルで開催)

このイベントは、1975 年にアカプルコで開催されたのを皮切りに毎年行われており、自然や遺跡、音楽、食、祭りなど、メキシコが誇る多彩な観光素材を世界に示すショーケースとなっている。

バイヤーは国内外を合わせて 935 社 1514 人（メキシコ国内が 358 社 778 人、海外は 63 カ国から 577 社 736 人）が訪れ、会期中には 4 万 4714 件の商談が行われた。日本からも複数の旅行代理店が参加している。北米、中南米、欧州、中近東、アフリカ、アジア、オセアニアとほぼ世界全域からバイヤーが訪れた³³⁷。

5. ロスカボスオフィシャルサイト及びアプリの提供

ロスカボス観光局にてオフィシャルサイトを運営しており、アクティビティ、アウトドアアドベンチャー等、様々なウリを紹介しており、レストラン予約、カレンダーにより毎日いろいろなイベントが開催されている等の情報を提供している。また、スマートホン用の専用アプリの提供を行っており³³⁸、ロスカボスへ旅行することでどんなことをいつ行えるのか、をイメージできるものとなっている。

³³⁶ VISITMEXICO (2023.2.21 閲覧) <https://visitmexico.com/>

³³⁷ TRAVEL JOURNAL (2023.2.21 閲覧)

<https://www.tjnet.co.jp/2018/07/02/観光大国メキシコの将来像を示す、43回目迎えたティアンギス>

³³⁸ Welcome to Los Cabos (2023.2.21 閲覧) <https://www.visitloscabos.travel/>

第4章 調査のまとめ

第1節 海外におけるビジネスジェット等の利用促進につながる空港周辺地域のサービス等の深掘り調査結果の整理

海外における選定 10 地域の調査について、空港（空港のビジネスジェット等の受入体制等の状況）、ウリ（利用者層のニーズを満たす滞在価値）、ヤド（利用者層のニーズを満たす質、かつ地域のストーリー等を感じられる宿泊施設）、アシ（出入国時はもとより国内移動も含めたトータルで利用者層のニーズを踏まえた利便性・快適性やシームレス化に対応する二次交通）、ヒト（利用者層を地域に送客する人材や、地域において質の高いサービスを提供するガイド等の人材）、コネ（利用者層の目的地として認知してもらうための売り込み）の 6 項目について第 3 章にて抽出した。まず、海外における選定 10 地域における概要（空港、ウリ、ヤド、アシ）を表 44 に整理しまとめた。

1) 空港の整理

各地域の空港において、定期便就航の有無、FBO 及び空港内のビジネスジェット等専用施設の有無、ビジネスジェット等の到着機数について整理した。

2) ウリの整理

各地域において、富裕層をはじめとした誘客につながるウリについて大きく分類すると元々その地域が有する自然や遺産、魅力を拡大させるための各種ツーリズム、地域の人々との交流を通して価値を体験する文化や生活スタイル等が存在していた。

上記の分類よりさらに富裕層をはじめとした誘客につながる点について、自然や遺産に関しては、ビーチ、スノー、世界遺産・歴史的建造物、国立公園に、各種ツーリズムは、医療、ウェルネス、サステナブル、アドベンチャー、ガストロノミー、アグリに、文化や生活スタイルに関しては、クラブカルチャー、ショッピング、ゴルフ、アート&カルチャーにカテゴリーを分類しウリに関する誘客につながる点を表 45 に整理した。

3) ヤドの整理

富裕層をターゲットとした誘客につながるヤドについて、プライベート感と高級感を満喫できる一棟貸の高級ヴィラ（シャレー）、高級ホテル（最上級スイートルーム）、別荘や永住に向けた富裕層向け不動産について確認し、整理した。

4) アシの整理

富裕層をターゲットとしたアシについては、高級感とシームレスな目的地までの移動を可能にする高級送迎車、また、空港から少し距離のある目的地への移動を可能にするチャーター・ヘリコプター、離島等の目的の港までの移動を可能にするラグジュアリー・ヨットチャーターの存在を確認し、整理した。

5) ヒトの整理

ヒトについて、大きく分けて観光ガイドの質と量、コンシェルジュ等のプロフェッショナル人材、観光を促進させる人材、ホスピタリティ関連人材について、これらのガイド等の認定や育成の取組を確認し、誘客の取組事例として表 46 に整理した。

6) コネの整理

コネは、大きく分けて富裕層誘客のためのプロモーション、観光需要を拡大させるための各種投資、国や地域等の観光戦略、富裕層向けビザ発給、その他コロナからの復興対策について、これらの取組を確認し、誘客の取組事例として表 47 及び表 48 に整理した。

表 44 海外10地域における概要（地域・空港／ウリ・ヤド・アシ）³³⁹

1. 地域概要	領域	欧州			北米	アジア		オセアニア	南米	中米		
	国	スペイン	イタリア	スイス	アメリカ	タイ	インドネシア	ニュージーランド	チリ・アルゼンチン	コスタリカ	メキシコ	
	地域	イビザ	シチリア	サンモリッツ	アスペン	プーケット	バリ	ニュージーランド	パタゴニア	コスタリカ	ロスカボス	
	地域規模	(小) 沖縄本島の約50%	(中) 関東（群馬除）程度	(狭) ニセコ町の15%	(狭) ニセコ町の5%	(小) 沖縄本島の約50%	(小) 愛媛県程度	(広) 日本の約75%	(広) 日本の約1.8倍	(中) 九州+四国	(小) 埼玉県程度	
地域選定考慮点	選定考慮点	ビジネスジェット等来訪の実績があり、富裕層に人気の高い、夏のリゾート地（離島）			ビジネスジェット等来訪の実績があり、富裕層に人気の高い、冬のリゾート地		ビジネスジェット等来訪の実績があり、富裕層に人気の高い、アジアの夏のリゾート地		アドベンチャーリズムや自然等をウリとしており、エリアが広域のため二次交通の動向確認、富裕層に人気の高い地域		その他（サステナブルリズム先進地域）エリアが広域のため二次交通の動向確認、富裕層に人気の高い地域	その他（離島以外の富裕層に人気の高い夏のリゾート）
2. 空港概要	空港（定期便有無）	○（有）	○（有）	○（無）	○（有）	○（有）	○（有）	○（有）	○（首都圏空港経由）	○（有）	○（有）	
	FBO（空港内専用施設有無）	○（専用施設有）	○（専用施設無）	○（専用施設有）	○（専用施設有）	○（専用施設有）	○（専用施設有）	○（専用施設有）	○（首都圏空港のみ体制、専用施設有）	○（専用施設有）	○（専用施設有）	
	ビジネスジェット等の到着機数	5,221（2017年）	1,482（2017年）	1,065（2017年）	10,971（2017年）	751（2019年）	830（2017年推計）	-	-	-	-	
3. 本調査で確認した主なウリ（分類別）												
自然・遺産	ビーチ	○				○	○	○		○	○	
	スノー			○	○			○				
	世界遺産（歴史的建造物）	○	○	○				○	○	○	○	
	国立公園								○	○		
各種リズム	医療					○	○					
	ウェルネス			○	○	○	○			○		
	サステナブル		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	アドベンチャー		○		○	○	○	○	○	○	○	
	ガストロノミー	○	○			○			○			
アグリ		○					○					
その他（文化・生活スタイル）	クラブカルチャー	○		○	○	○	○				○	
	ショッピング			○	○	○	○					
	ゴルフ		○			○	○	○			○	
	アート&カルチャー		○	○	○							
4. ヤド												
	高級ヴィラ（シャレー）一棟貸	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
	高級ホテル（最上級スイート）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	富裕層向け不動産			○	○						○	
5. アシ（空港からの2次交通）												
	高級送迎車	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	チャーター・ヘリコプター		○			○	○	○	○	○	○	
	ラグジュアリーヨット・チャーター	○	○			○	○	○				

³³⁹ 第3章 海外における10の事例の情報を元に抽出し作成

表 45 深掘り調査対象の海外 10 地域におけるウリに関する誘客につながる点³⁴⁰

カテゴリー別		確認地域（参考）	誘客につながる点				
自然・遺産	ビーチ	イビザ/ブーケット/パリ/ ニュージーランド/コスタリカ/ロスカボス	①ブルーフラッグ制度の活用 （海辺の国際環境認定）	②プライベートビーチやアドベン チャー施設等の整備	③多岐に渡るマリン・アクティ ティの整備	④アクセス整備（誘客）	-
	スノー	サンモリッツ/アスペン/ ニュージーランド	①国際大会誘致 （地域知名度向上）	②スキー場の整備 （ソフト・ハード面）	③近隣滞在地（市街地）の 整備	④スノー・アクティビティの整備 （ヘルスキー等）	⑤アクセス整備（誘客）
	世界遺産 歴史的建造物	イビザ/シチリア/ サンモリッツ/パリ/ ニュージーランド/パタゴニア/コスタリカ/ ロスカボス	①世界遺産登録の拡大 （世界へアピール）	②世界遺産までのアクセス整備	③その他ツーリズムと絡めた複合 的ツアーの開発	④ガイドのプロ化 （ステータス向上）	⑤パワースポット （世界的需要の拡大）
	国立公園	コスタリカ/パタゴニア	①国立公園の観光ツアー化 （地域誘客）	②国立公園の世界遺産化	③国立公園までのアクセス の整備	④国立公園の保護強化 （サステナブル推進）	⑤ガイドのプロ化 （ステータス向上）
各種ツーリズム	医療	ブーケット/パリ	①医療観光ハブ化及び医療目 的の入国許可（地方空港）	②国際認定（JCI認定） の病院拡大	③外国人向け医療プログラム	④医療と観光を融合 （ツアー化）	⑤アクセス整備（誘客）
	ウェルネス	サンモリッツ/アスペン/ブーケット/ パリ/コスタリカ	①ウェルネス・スパ施設の整備	②最先端医療の提供体制	③ウェルネス・スパと観光ター の融合	④医療とウェルネス・スパとの融 合	⑤アクセス整備（誘客）
	サステナブル	シチリア/アスペン/サンモリッツ/パリ/ パタゴニア/ニュージーランド/コスタリカ/ ロスカボス	①サステナブルツーリズムプロ グラム（エコツアー）提供	②カーボンオフセットとエコ 施設（ホテル等）の拡大	③野生生物保護プログラム （種の保存）配信	④地域産業としてのサステナブル への取組発信	⑤国立公園等との融合 （誘客）
	アドベンチャー	シチリア/アスペン/パリ/ ニュージーランド/パタゴニア/ コスタリカ/ロスカボス	①アドベンチャー・アクティビ ティ開発（例：ヘリフッシング）	②国立公園等との融合 （誘客）	③専門ガイドの育成	④固有観察ツアー（ホエール・ ドルフィン・バード等）	⑤アクセス整備（誘客）
	ガストロノミー	イビザ/シチリア/ブーケット/ パタゴニア	①専門ガイドの育成	②郷土料理とお酒のアピール	③歴史や食文化などを体験	④アクセス整備（誘客）	-
	アグリ	シチリア/パリ	①農園や生産地見学ツアー	②地域産物の製造工程ツアー	③農村滞在施設の整備と ツアー開発	④アクセス整備（誘客）	-
その他 （文化・生活スタイル）	クラブカルチャー	イビザ/サンモリッツ/アスペン/ ブーケット/パリ/ロスカボス	①年代別バーの整備	②ビジネス化とオーバ ーツーリズム改善	③コンサートホール兼ライブ ミュージック会場機能整備	④有名なアーティスト等誘致	-
	ショッピング	サンモリッツ/アスペン/ ブーケット/パリ	①地域特有のショップ	②富裕層向けショップ （ブランド、美術品等）	③長期滞在向けショップ （来客対応食品等）	④大型総合施設	-
	ゴルフ	シチリア/ブーケット/パリ/ ニュージーランド/ロスカボス	①ゴルフ場の整備	②長期滞在環境（コースに沿 う宿泊施設）の整備	③大会誘致（プレゼンス向 上）	④アクセス整備（誘客）	-
	アート&カルチャー	シチリア/サンモリッツ/アスペン	①美術館・博物館の整備	②映画祭等各種イベントの誘 致	③アート&カルチャーツアーの 開発	④専門ガイドの育成	-

³⁴⁰ 第3章 海外における10の事例の情報を元に抽出し作成

表 46 深掘り調査対象の海外10地域における誘客の取組事例（ヒト）³⁴¹

カテゴリー別	誘客の取組	管轄・認定	地域	国		
観光ガイド人材	ガイド資格認定	ツアーガイド資格の認定	コスタリカ観光局	コスタリカ	コスタリカ	
		ツアーガイド資格認証制度	メキシコ観光省	ロスカボス	メキシコ	
		観光ガイドの専門制度による資格認定 (考古学的な場所、美術館、カトリック教会等でのガイド資格)	イタリア政府観光省及び各州	シチリア	イタリア	
		アドベンチャーガイド資格取得コース	ニュージーランド本拠地専門企業	パタゴニア	チリ・アルゼンチン	
		ツアーガイド免許制度（文化や言語に関する知識・自国民のみ付与）	バリ州政府	バリ	インドネシア	
	ガイド育成	観光ガイド育成	アスペン内運営企業	アスペン	アメリカ	
		観光ガイド育成	サンモリッツ内運営企業	サンモリッツ	スイス	
		ローカルガイドの人材開発 (第2次国家観光開発計画における2036年に向けた国家戦略)	タイ国政府	プーケット	タイ	
		観光産業に従事する人のための無料英語講座	タイ国政府観光庁	プーケット	タイ	
		子供たちを含む地元住民の人材育成の取組（リトルガイド研修）	タイ国政府観光・スポーツ省及び観光局	プーケット	タイ	
		観光人材の育成（国立観光専門学校や国立観光大学）	バリ州政府	バリ	インドネシア	
		ニュージーランド・スペシャリスト・プログラム	ニュージーランド政府観光局	ニュージーランド	ニュージーランド	
	プロフェッショナル人材	コンシェルジュ育成	コンシェルジュ養成スクール及び認定協会の設立	イタリアのホテルコンシェルジュ連合が認定する協会	シチリア	イタリア
			コンシェルジュ育成（タイランドエリート）	タイ政府観光庁	プーケット	タイ
観光産業コンシェルジュ等の育成			クィーンズタウン・リゾート専門学校	ニュージーランド	ニュージーランド	
富裕層向けツアーオペレーターの存在			シチリアのDMO	シチリア	イタリア	
インストラクター育成		スキーインストラクターの育成	アスペン内運営企業	アスペン	アメリカ	
		スキーインストラクターの育成	サンモリッツ内運営企業	サンモリッツ	スイス	
アーティスト育成		Ibiza Creativa プログラム（DJ、劇等を学ぶためのクリエイティブな体験プログラム等、現代にマッチする新しいものを創造）	イビザ市議会	イビザ	スペイン	
観光促進人材	プロモーション・インターン	オンライン観光促進インターン募集 (マーケティング&リサーチ、企画の立案、SNSでの情報発信、サイト運営)	メキシコ観光省	ロスカボス	メキシコ	
	観光業スキルUP	外国人集客力向上へ人材育成 観光業従事者10万人に講習	タイ国政府	プーケット	タイ	
ホスピタリティ関連人材	チャイルドケア	ベビーシッター（チャイルドケア施設）	アスペン内運営企業	アスペン	アメリカ	
		ベビーシッター&乳幼児教育専門家の存在	サンモリッツ内運営企業	サンモリッツ	スイス	

³⁴¹ 第3章 海外における10の事例の情報を元に抽出し作成

表 47 深掘り調査対象の海外10地域における誘客の取組事例（コネ①）³⁴²

カテゴリ別	誘客の取組	管轄・認定	地域	国	
プロモーション	日本市場プロモーション強化（メキシコ公式観光情報サイト日本語版リリース）	メキシコ観光省	ロスカボス	メキシコ	
	ロスカボスオフィシャルサイト及びアプリの提供	ロスカボス観光局	ロスカボス	メキシコ	
	ローシーズンの誘客推進戦略（冬季プロモーション戦略 BETTER IN WINTER） （World Travel Market（ロンドン）、FITUR（マドリッド）等への出展）	バレアレス諸島観光局	イビザ	スペイン	
	オンライン観光プロモーション戦略（デジタルコンテンツの作成、観光向けのイベント）	インドネシア観光クリエイティブエコミー省とコンサルタント	バリ	インドネシア	
	エージェントファムトリップ（AFT:Agent Fam Trip）	タイ国政府観光庁	ブーケット	タイ	
	メディアファムトリップ（MFT:Media Fam Trip）	タイ国政府観光庁	ブーケット	タイ	
	観光を一元的に紹介するウェブサイトの運営	ニュージーランド政府観光局	ニュージーランド	ニュージーランド	
	デスティネーションプレゼンテーション（マーケティングプラン）	コスタリカ観光局	コスタリカ	コスタリカ	
	富裕層特化型	富裕層向けのイベント開催	ロスカボスホテル協会	ロスカボス	メキシコ
		富裕層向けプロモーション	インドネシア観光クリエイティブエコミー省	バリ	インドネシア
	再生可能エネルギー	再生可能エネルギー100%宣言	アスペン市	アスペン	アメリカ
	サステナブル・ツーリズム	持続可能性ケア・フォー・コロラド	コロラド州政府観光局	アスペン	アメリカ
		ニュージーランド持続可能性コミットメント	ニュージーランド政府観光局	ニュージーランド	ニュージーランド
		プラスチックフリー & カーボンニュートラル国家宣言	コスタリカ政府	コスタリカ	コスタリカ
		サステナビリティ認証プログラムと国際基準認定	コスタリカ観光研究所	コスタリカ	コスタリカ
		コスタリカ旅行者によるカーボンクレジットの購入促進	エコツーリズム国立会議所（コスタリカの非営利団体）	コスタリカ	コスタリカ
	医療ツーリズム	医療ツーリズム振興（特区計画）	インドネシア国営企業	バリ	インドネシア
	ウェルネス・ツーリズム	ウェルネス及びサステナブルツーリズムにおけるプロモーション（IWTCF）	インドネシア観光クリエイティブエコミー省等	バリ	インドネシア
	退役軍人向け助成金	現役の軍人や退役軍人向け助成金 Challenge Aspen	コロラド州政府観光局とアスペン市	アスペン	アメリカ
	地方誘客	「タイ12の秘宝（地域）」観光キャンペーン	タイ国政府観光庁	ブーケット	タイ
国際見本市等出展	2018 BtoBの旅行博主催	メキシコ観光省とメキシコ観光局	ロスカボス	メキシコ	
	FITUR 2020 国際観光見本市参加	チリ政府	パタゴニア	チリアルゼンチン	
DX活用術	メタバースの活用による観光プロモーション	インドネシア観光クリエイティブエコミー省	バリ	インドネシア	

³⁴² 第3章 海外における10の事例の情報を元に抽出し作成

表 48 深掘り調査対象の海外 10 地域における誘客の取組事例（コネ②）³⁴³

カテゴリー別		誘客の取組	管轄・認定	地域	国
投資	観光戦略推進	スイス連邦政府による観光戦略推進に向けた投資	スイス連邦政府及び関連組織	サンモリッツ	スイス
	エコ対策	カーボンオフセットと新たなビジネスに向けた投資	アスペンスキーカンパニーと地域企業	アスペン	米国
	デジタル化	観光デジタルツーリズムハブ導入への投資（観光客やオペレーター活用するデジタルサービスへの投資）	イタリア政府観光省	シチリア	イタリア
	インフラ整備（税額控除）	税額控除による宿泊インフラ（ホテル施設のほか、アグリツーリズムを行う施設や、スパ施設、アウトドア施設等）の改善	イタリア政府観光省	シチリア	イタリア
		観光業成長パートナーシップによる観光インフラ整備への投資	ニュージーランド政府	ニュージーランド	ニュージーランド
観光戦略	観光需要	観光政策戦略策定	メキシコ観光省	ロスカボス	メキシコ
		国家観光計画2016-2019	アルゼンチン政府	パタゴニア	チリ・アルゼンチン
		観光戦略（持続可能性・デジタル化・起業家精神拡大等）	スイス連邦政府	サンモリッツ	スイス
		サンモリッツスポーツツーリズム戦略 （国際スポーツイベント開催・エリートアスリートの準備エリア）	サンモリッツ市 スポーツイベント部門	サンモリッツ	スイス
		第2次国家観光開発計画／2036年に向けた国家戦略 （航空輸送ネットワークの開発・地方における協力体制の促進と予算）	タイ国政府観光庁	プーケット	タイ
		観光開発事業（文化、芸術的表現のサポート促進）	コスタリカ観光局	コスタリカ	コスタリカ
		持続可能な観光パフォーマンスを監視および測定 （欧州観光指標システム）	欧州委員会	シチリア	イタリア
	富裕層特化型	タイランド・エリート（外国人富裕層向けレジデンスプログラム）	タイ国政府観光庁	プーケット	タイ
		ラグジュアリー戦略	タイ国政府観光庁	プーケット	タイ
		富裕層向けビザ発給とプロモーション	タイ国政府	プーケット	タイ
入国制限	富裕層向けビザ発給	新たな富裕層向けビザ発給	インドネシア政府	バリ	インドネシア
		コロナ再スタートプログラム設計	コロラド州政府観光局とアスペン市	アスペン	米国

³⁴³ 第3章 海外における10の事例の情報を元に抽出し作成

第2節 調査結果のまとめ

第2章よりビジネスジェット等は観光目的等において主に超富裕層及び富裕層以上が時間短縮及びシームレスな移動を求めて利用していると考えられるが、それらを踏まえ、海外における選定10の地域において、第3章にて調査を行った結果を、以下のとおり『空港』『ウリ』『ヤド』『アシ』『ヒト』『コネ』の6項目別にまとめる。

1) 空港の調査結果

今回選定した10地域は富裕層を含めた観光客等に人気のある代表的な地域であり、各地域内の空港については、空港の滑走路長等の制限のあるサンモリッツを除き国内及び近隣国からの定期便の就航実績があった。

ビジネスジェット等を受け入れるFBOは、選定地域のすべての空港で基本的に存在（但しパタゴニアは経由元の各国受入用国際空港のみ存在）しており、またビジネスジェット等を受け入れる空港内専用施設がシチリア以外の地域で存在し、それぞれビジネスジェット等での来訪者向けの空港内の基本的なサービス（ハンドリング、給油等）の提供をはじめとして、送迎車や宿泊施設等の手配を行うコンシェルジュサービスを併せて提供している事例も多かった。

ビジネスジェット等の到着実績は、米国のアスピンの到着数が年間10,971機（2017年）、スペインのイビザが5,221機（2017年）となるが、アジアのプーケットやバリは700～800機程度で規模感が少し異なる。また、今回情報を入手した欧米の各地域の空港においてはビジネスジェット等による来訪元の9割以上が同国もしくは近隣国からの渡航であり、ビジネスジェット等での移動は主に各域内の移動であった。到着数の傾向は第2章でも触れた各域内のビジネスジェットの保有数（圧倒的に北米に多く、次に欧州）にも関係すると考えられる。

2) ウリの調査結果

富裕層のニーズを満たす滞在価値、ウリに関しては、全ての地域において、その地域の特性に応じたウリとなるものが存在し、主に「自然や遺産」（ビーチ、スノー、世界遺産・歴史的建造物、国立公園）や、地域の魅力を拡大させるための「各種ツーリズム」（医療、ウェルネス、サステナブル、アドベンチャー、ガストロノミー、アグリ）、地域の人々との交流を通して、その価値を体験する「文化や生活スタイル等」（クラブカルチャー、ショッピング、ゴルフ、アート&カルチャー）が、どの地域にもおいても複合的に融合しており、世界において競争力の高いブランド力を、それぞれ発揮していた。特に富裕層のニーズとしてサステナブルな取組が重要であり、コスタリカをはじめとした各地域にて特に取組が強化されていることが確認できた。また、イビザのように地域特性に応じた付加価値を加味した新たなツーリズム開発が確認され、それにはウリに加えアシ等との複合的誘客検討や幅広いニーズへの対応がなされていた。

3) ヤドの調査結果

ヤドにおいては、プライベート感と高級感を満喫できる一棟貸の高級ヴィラ（シャレー）や高級ホテル（最上級スイートルーム）がどの地域にも一定数存在しており、サンモリッツやアспен等、地域によっては別荘や定住に向けた富裕層向け不動産の拡大傾向もみられた。

富裕層は、他人との接触を可能な限り排除するため、私的住居（別荘等）を所有していない限り、一棟貸の高級ヴィラ（シャレー）を選択する傾向にあり、海外の選定10地域では、ヴィラの数や価格帯は地域特性等により異なるが、パタゴニアを除き、高級ヴィラが基本的に存在していた。

また、高級ヴィラが発達した欧米には、ハードやソフトが行き届いた物件が数多く存在するため、超高額であるが、プライベート感のある高級ヴィラから予約される傾向にあるもの

と考えられる。第3章の各事例に示したとおり、高級ヴィラ（シャレー）の特徴は、複数のベッドルームとそれぞれに備え付けられたバスルーム等、行動を共にする家族や仲間であってもプライベート要件を満たしており、プライベートプールやスパ、マッサージルーム等が併設しているヴィラも数多く存在する。ソフト面では、常駐する専用シェフによる料理提供や、コンシェルジュによる柔軟な対応だけでなく、バトラー、ベビーシッター、警備員、各種送迎等、多岐に渡る要望に応えている点を確認した。

高級ホテルを選択する場合は、歴史的にも地域のランドマークとなっており、ステータスとサステナブル、ウェルネス等、複合的に富裕層のニーズを満たしているホテル内のヴィラタイプルームやスイートルームが主に利用されており、どちらも有名なレストラン併設とホテルならではの立地（眺望）等何らかの必要なポイントを確認した。

また、アスペン等の一部の地域においては、高級不動産への需要の高まりや富裕層目当てにショッピングの分野において各ブランド店等の進出も確認された。なお、サンモリッツの外国人顧客の割合は約30%（2018年）であったが、国際的なバイヤーの不動産取得は、最大200平方メートルの居住スペースを持つ住宅のみ等の制限事例を確認した。

4) アシの調査結果

空港からの二次交通、アシにおいては、富裕層の利便性・快適性向上やシームレス化への対応として、高級送迎車が手配可能な事業者を基本的に全ての地域で確認でき、特に重要な要素と考えられる。空港から車両では距離のある又は時間を要する場所への移動にはチャーター・ヘリコプター、離島等の目的の港までの移動を可能にする、ラグジュアリー・ヨットチャーターの存在について確認した。

高級送迎車については深掘り調査対象のどの地域においても、ビジネスジェット等が空港に到着した後、シームレスに目的地までの移動が手配可能な事業者等を確認できた。専属ドライバー付きの目的地までの送迎サービスに留まらず、別料金の場合も含め、要望により観光ツアーやガイドサービスも可能にしている事例も見られた。またブーケット等FBOにおいてはビジネスジェット等専用ターミナル内のサービスだけでなく、このような高級送迎車の提供等輸送サービスと連携し、複合的サービスを行っている事業者も確認できた。またサンモリッツやアスペンでは、寒冷地やスノーシーズンに対応した車両を提供するなど、各地域の特性やニーズに応じて多種多様な高級車種によるサービス提供の事例を確認した。

ニュージーランド等、空港から目的地まで車両では距離のある、又は交通事情により時間を要する主に比較的広域な地域においては、宿泊地や観光スポット（世界遺産、離島、各種ツーリズム目的地）への移動においてプライベートで迅速な移動を可能とするチャーター・ヘリコプターサービスが提供されていることが確認できた。これらはFBOと連携し、シームレスな接続と移動を可能にしている事例もあった。

また、ラグジュアリー・ヨットチャーターは、離島等の目的の港までの単なる移動手段としてだけでなく、富裕層向けに豪華なクルーズ体験ツアーを用意しており、バリ等ビーチ等をウリとする海沿いの地域においては、大型のスーパーヨット等各種手配が可能であることを確認した。

5) ヒトの調査結果

ヒトにおいては、富裕層を地域に送客する人材や、地域において質の高いサービスを提供する人材（観光ガイド・コンシェルジュなどのプロフェッショナル・ホスピタリティ人材）の必要性和育成を各地域で確認することができた。またこれら人材の拡大には、多岐に渡るスキルや知識の蓄積が求められるため、資格認定によるステータス向上や、育成のための助成金制度等、多数の取り組みを確認した。

観光ガイド人材（質・量）の必要性和育成については、富裕層誘客を目論む海外地域での観光ガイドの位置づけは、質的・量的に十分な人材の確保と育成を目的にした、ステータスのある職業化に重点を置いていた。また、観光ガイドに様々な資格認定があり、一例として

バリでは文化や言語に関する知識が求められるだけではなく、外国人には免許を発行していない。またニュージーランドのように政府（観光部門）が助成金により、観光サービスを提供する労働力を拡大させるために、観光学や語学力向上に向けた学校を設立している地域もあった。

プロフェッショナル人材の必要性和育成については、富裕層を誘客する海外地域では、コンシェルジュ、インストラクター、地域の特色を生かしたアーティストの育成が行われている。調査した海外地域のコンシェルジュは、それぞれのサービス毎に存在しており、スキーやアドベンチャー、医療スパ等、専門的なスキルが必要なインストラクターも多岐に渡るため、これら専門職の育成を、政府、自治体及びその観光部門や関連する協会などが推進していた。一例としてイビザでは創造性とインスピレーションを発揮できる独自の環境を見つけようとする種類のアーティストが集まる地域であるため、年間を通じて様々な展示会や文化イベントが開催されている。こうした環境から、イビザ市議会はクリエイティブツーリズムを推進し、国際ネットワークを活用した電子音楽、DJ、劇等を学ぶためのクラスをはじめ、さまざまな活動を支援する取組を確認した。

観光促進人材の必要性和育成の一例として一般的な観光サービス向上のための講習を実施することや、例えばシチリアにおいて富裕層向けツアーオペレーターが存在するなど、政府や自治体の観光部門、観光協会等が中心となって観光促進を実施している例があった。またメキシコでは、日本向けにインターンシップを募集し、マーケティング&リサーチ、企画の立案、運営、SNSでの情報発信、サイト運営などを委託する事例といった、販売ターゲット国向けの取組を確認した。

ホスピタリティ関連人材の必要性和育成では、一例としてサンモリッツでは大人が十分楽しめるように、ベビーシッターや乳幼児教育の専門家（ナニー）が存在している。特徴的なのは、主に保護者の不在時に依頼者宅に向いて、一時的に子どもの世話をを行うベビーシッターに対し、ベビーシッターの業務にプラスして、子どもの教育に数年単位で継続的に関わる教師的な側面を持つ乳幼児教育の専門家を提供しており、富裕層の長期滞在を念頭に置いたサービスの提供が行われていた。

6) コネの調査結果

コネにおいては、富裕層誘客のためのプロモーション、観光需要を拡大させるための各種投資、観光戦略、富裕層向けビザ発給等、多岐に渡る地域ごとの戦略や、国と地域と地域に根ざした組織や住民が一体となって協力することの重要性を確認した。

プロモーションに関しては、観光全般、富裕層特化型、再生可能エネルギー関連、サステナブルツーリズム、医療ツーリズム、ウェルネスツーリズム、退役軍人向け助成金、地方誘客、旅行博出展、DX活用術等が確認された。特徴としては、一般消費者、個人向けから、関連する組織向けのプロモーションまで、航空会社、ツアーオペレーター、観光アドバイザー、メディア、教育機関等ターゲットを明確にしており、それぞれに対応したSNS・メタバース・ポータルサイト・専用アプリを開発する戦略が推進されていることを確認した。また観光資源やアクティビティ重視よりは、地域における各種ツーリズム特性をアピールしているプロモーションが拡大している点も特徴としてあげられる。

観光需要を拡大させるための投資に関しては、エコ対策、デジタル化、インフラ整備等が確認された。エコ対策としては、アスペンで行われているようにカーボンオフセットを目的に石炭工場から廃棄されるメタンを使用可能な電力に変換し、温室効果ガスの排出を削減する投資事例、デジタル化に関しては、シチリアで行われているように観光客やオペレーター向けデジタルツーリズムハブを導入する政府観光省の投資事例、税額控除による宿泊インフラ（ホテル施設のほか、アグリツーリズムを行う施設、スパ、アウトドア施設）を改善する投資事例等を確認した。

観光戦略に関しては、観光需要拡大、富裕層特化型、マネジメント手法等を確認した。観光需要拡大策としては、多様化・拡大化する各種ツーリズムの新たな設計や、持続可能性・

デジタル化・起業家精神拡大策などが多数の地域で行われている事例、富裕層特化型としては、タイ政府（直営企業）が運営するタイランドエリート（コンシェルジュ戦略）の事例、観光業のマネジメント手法としては、シチリアで行われているように観光地が持続可能な観光パフォーマンスを監視および測定できるようにすることを目的として、指標システムを導入している事例を確認した。

富裕層向けビザ発給、入国制限への対応に関しては、タイにおいては、富裕層向け長期居住者ビザをプログラム・発給、インドネシアでは高所得者および高度なスキルを持つデジタルノマドを引き付けて、その地域での生活スタイルを構築させることを目的とした事例を確認した。

その他イビザにおいて、オフピーク観光機会の促進、アスペンにおいて、コロナ禍後の観光労働力の向上、観光価値の擁護、来訪者の経験を発展、包括的な旅行機会の促進を目的に、再スタートプログラムを設計・推進する事例を確認した。

第3節 今後の検討課題の整理

我が国における富裕層ともいふべき高付加価値旅行者（着地消費 100 万円以上/人の訪日外国人旅行者）は、訪日旅行者全体の約 1%（29 万人）に過ぎないが、消費額の 11.5%、5,523 億円（2019 年）を占めている³⁴⁴。

訪日インバウンド富裕層は、大都市圏への訪問が多数を占め、地方を訪れる旅行者については観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン」（令和 4 年 5 月発行）をはじめとして、まさに現在、誘客に向けた取組が進められているところである。このような事情を踏まえ、海外における事例調査結果から、ビジネスジェット等に関する地方空港周辺地域のサービス等、日本国内（地方誘客）への事例を検討する際の課題を整理した。

1) 空港に関する検討課題の整理

本調査にて把握した各空港の到着数は 9 割以上が同国・近隣国からの渡航が中心であった。例えばターゲットを富裕層が増加傾向にある近距離のアジアに着眼するなど、ビジネスジェット等の観点では近隣（国内含む）の動向等にも注視した体制の検討が必要と考える。

2) ウリに関する検討課題の整理

本調査にて把握したウリについては国内でも存在するものも多かったが、富裕層の認知度やポテンシャルが高いコンテンツ、点在するウリに更に磨きをかけ、競争力の高いブランド化の推進、また富裕層ニーズからサステナブルは特に注力すべきと考える。また、ウリに加えヤド、アシ等との複合的誘客検討や幅広いニーズへの対応も重要と考える。

3) ヤドに関する検討課題の整理

ハード及びソフトが行き届いた宿泊施設、空港との位置関係を踏まえ二次交通も含めた調査が必要と考える。また、施設（サービス含む）の強化に加え、日本の宿泊施設が富裕層のニーズを満たすものかも考慮点と考える。

4) アシに関する検討課題の整理

各目的地までシームレスな移動を可能とする送迎車等の二次交通は、ビジネスジェット等の利用者層、それ以外の海外の富裕層の共通ニーズであり、概況調査が最も必要と考える。また、海外ではヘリコプター等の活用例もあり、国内での可能性等も調査が必要と考える。

5) ヒトに関する検討課題の整理

海外の富裕層に対応できる観光ガイド、コンシェルジュ、ホスピタリティ関連の資格認定や育成など、誘客に向けた人材育成や強化は重要なポイントとなると考える。

6) コネに関する検討課題の整理

海外の富裕層誘客のためのプロモーション、観光需要拡大のための各種投資、観光戦略、富裕層向けビザ発給等、多岐に渡る地域ごとの戦略や各種施策が、日本の地域においてそのまま適用可能か等を考慮に入れた施策の検討が必要と考える。

ビジネスジェット等を利用する富裕層を地方に誘客するためには、多種多様なニーズを満たすためのウリ（滞在価値）、ヤド（ラグジュアリーな宿泊）、アシ（ラグジュアリーな移動）、ヒト（送客促進・サービス提供人材）、コネ（売り込み手法）が複合的に存在することが必要であり、地域毎の強みを再認識した上で、そこでしか体験できないサービスを提供することが、事例を検討する際において重要であると考えられる。

国内でも富裕層対応として観光庁より「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりに向けたアクションプラン」等により、モデル観光地の設定等により既存の観光資源を生かし、上記も考慮の上ウリ、ヤド、ヒト、コネそれぞれで取組が既に推進されているとこ

³⁴⁴ 観光庁 観光立国推進基本計画(2023.3.14 閲覧) <https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001586268.pdf>

ろである。

空港からの二次交通についても、ビジネスジェット等と同様に、時間短縮、シームレスな移動等を求める富裕層に対応可能な体制が必要であり、空港からウリヤドまで比較的距離のあることもある地域においては、手配可能な送迎車等に加えヘリコプター等その他移動手段の活用も想定される。

調査2カ年目である令和5年度は、令和4年度に調査したサービス等及びビジネスジェット等の利用者層に向けた空港や周辺地域の取組状況や地域性等を考慮の上、ビジネスジェット等の利用促進において必要とされる国内の地方空港周辺地域のサービス等に関して、特に空港からの二次交通について重点をおいて事例調査を行い、その結果を元に我が国に求められるビジネスジェット等の空港周辺地域のサービス等事例の整理を行い、我が国のビジネスジェット等の利用促進に向けたサービス面での方策を含めて取りまとめ、地域振興と結びつける取組についての検討を行う。

謝辞

本調査研究を進める上では、加藤一誠氏（慶應義塾大学商学研究科・教授）、伊与田美歴氏（日本政府観光局・理事）に有益なご助言をいただいた。また本調査研究では、多数の資料やデータ等を活用した。ここに記して感謝の意を表したい。